平成 30 年度

札幌市における他者とのつながり、多様性、信頼等に関する調査

調査報告書

札幌市

目　　次

1　調査の概要 ---------- 1

1,1　問題意識 ---------- 1

1,2　概念図（仮説） ---------- 1

1,3　先行研究 ---------- 2

2　意識調査の内容 ---------- 3

2,1　調査票の設計イメージ ---------- 3

2,2　調査票の内容 ---------- 4

2,2,1　回答者の基本属性（問Ⅰ） ---------- 4

2,2,2　社会参加（問Ⅱ） ---------- 4

2,2,3　世の中に対する考え方（問Ⅲ） ---------- 4

2,2,4　地域・社会に対する感情や幸福感（問Ⅳ） ---------- 4

2,2,5　札幌のまちに対する考え（問Ⅴ） ---------- 4

2,2,6　日頃の情報源など（問Ⅵ） ---------- 4

2,3　実施方法・時期 ---------- 5

3　意識調査の結果 ---------- 6

3,1　回答者の基本属性 ---------- 6

3,1,1　性別（問Ⅰ.A） ---------- 6

3,1,2　年代（問Ⅰ.A） ---------- 6

3,1,3　住所（問Ⅰ.A） ---------- 7

3,1,4　職業（問Ⅰ.A） ---------- 7

3,1,5　住居の形態（問Ⅰ.A） ---------- 7

3,1,6　自家用車の有無（問Ⅰ.A） ---------- 8

3,1,7　同居者の人数（問Ⅰ.A） ---------- 8

3,1,8　婚姻状況（問Ⅰ.A） ---------- 8

3,1,9　最終学歴（問Ⅰ.A） ---------- 8

3,1,10　札幌市の居住年数（問Ⅰ.B.ア） ---------- 8

3,1,11　最寄りの交通機関までの所要時間（問Ⅰ.B.イ） ---------- 8

3,2　社会参加 ---------- 9
3,2,1　町内会などが行うイベントへの参加状況（問Ⅱ．A） ---------- 9
3,2,2　町内会などが行うイベント以外の活動への参加状況（問Ⅱ．B） ---------- 11
3,2,3　イベントや活動への参加のきっかけ（問Ⅱ．C） ---------- 13
3,2,4　今後、参加してみたい活動（問Ⅱ．D） ---------- 15
3,2,5　ふだんの環境保全行動（問Ⅱ．E） ---------- 17
3,2,6　近所で付き合いのある方の人数（問Ⅱ．F．ア） ---------- 19
3,2,7　隣や向かいの人を知っているか（問Ⅱ．F．イ） ---------- 20
3,2,8　住んでいる地域以外の友人、知人とのやりとりの頻度（問Ⅱ．F．ウ） ---------- 21
3,2,9　個人的なことのメール等のやりとりの頻度（問Ⅱ．F．エ） ---------- 22
3,3　世の中に対する考え方＝信頼・互酬性の規範など ---------- 23
3,3,1　信頼・互酬性の規範（問Ⅲ．A） ---------- 23
3,3,2　特定の人や組織等に対する信頼（問Ⅲ．B） ---------- 26
3,4　地域・社会に対する感情や幸福感 ---------- 28
3,4,1　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A） ---------- 28
3,4,2　幸福感や満足度＝心理的well-being（問Ⅳ．B） ---------- 33
3,4,3　サポートネットワーク（問Ⅳ．C） ---------- 36
3,5　札幌のまちに対する考え（問V.A） ---------- 37
3,6　属性（問V.A） ---------- 40
3,6,1　日頃の情報源（問VI.ア） ---------- 40
3,6,2　健康状態（問VI.イ） ---------- 42
3,6,3　運動（問VI.ウ） ---------- 43
3,6,4　飲酒（問VI.エ） ---------- 44
3,6,5　喫煙（問VI.オ） ---------- 45
3,6,6　世帯年収（問VI.カ） ---------- 46
4　クロス集計 ---------- 47
4,1　社会参加と社会関係資本 ---------- 47
4,2　社会参加と心理的well-being ---------- 54
4,3　社会関係資本と心理的well-being ---------- 56
4,4　地域愛着・非所属感などと心理的well-being ---------- 59

4,5　心理的well-beingと札幌市の印象・評価 ---------- 61
4,6　社会参加と札幌市の印象・評価 ---------- 62
4,7　社会関係資本と札幌市の印象・評価 ---------- 64
4,8　地域への愛着と札幌市の印象・評価 ---------- 65
4,9　暮らしやすさをもたらすものは何か ---------- 66
4,10　社会参加と地域愛着 ---------- 67
4,11　健康 ---------- 69
5　自由記述 ---------- 70
5,1　市の政策への要望・苦情・期待 ---------- 70
5,2　まちづくり・町内会・近所 ---------- 77
5,3　札幌への親近感・愛着 ---------- 83
5,4　幸福感について ---------- 84
5,5　回答者の事情 ---------- 85
5,6　アンケートについて ---------- 87
6　各種統計に基づく政令指定都市間比較 ---------- 96
6,1　比較の趣旨等 ---------- 96
6,2　人口動態 ---------- 96
6,2,1　人口増減・婚姻・出産 ---------- 96
6,2,2　65歳以上の単独世帯数及びその割合（2015年） ---------- 97
6,2,3　母の年齢別出生数とその割合 ---------- 98
6,2,4　外国人住人数及びその割合 ---------- 100
6,3　家計 ---------- 101
6,3,1　一世帯当たり年平均一ヶ月間の消費支出額 ---------- 101
6,3,2　一世帯当たり年間消費支出金額詳細 ---------- 102
6,3,3　消費者物価地域差指数 ---------- 103
6,4　労働 ---------- 104
6,4,1　65歳以上の有業者数及びその割合（2012年） ---------- 104
6,4,2　起業者割合（2012年） ---------- 105
6,5　交通 ---------- 106
6,5,1　高速鉄道（地下鉄）の営業状況 ---------- 106

6,5,2　自動車保有台数及び有料駐車場数 107
6,5,3　交通事故発生件数、交通事故死傷者数及び道路交通法違反検挙件数 108
6,6　ライフライン 109
6,6,1　電力販売量 109
6,6,2　都市ガス消費量 110
6,7　環境 111
6,7,1　大気汚染 111
6,7,2　ごみ収集量 112
6,8　健康 113
6,8,1　疾病による死亡者数 113
6,8,2　病院数 114
6,8,3　スポーツの行動者率（2011年） 115
6,9　社会福祉サービス 116
6,9,1　介護保険給付決定状況 116
6,9,2　保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園件数及び一園あたりの6歳未満人員数 117
6,9,3　生活保護世帯数及び生活保護実人員 118
6,9,4　社会福祉関係施設数 119
6,10　財政 120
6,10,1　市（都）内総生産 120
6,10,2　実質公債比率及び将来負担比率 121
6,11　地域力 122
6,11,1　ボランティア活動の種類別行動者率（2011年） 122
6,11,2　都市公園数及び人口10万人当たりの都市公園面積 123
6,12　犯罪 124
6,12,1　刑法犯認知件数 124
7　考察 125
8　付録 129
8,1　意識調査の調査票 130
8,2　意識調査の単純集計表 138
8,3　意識調査のクロス集計表 159

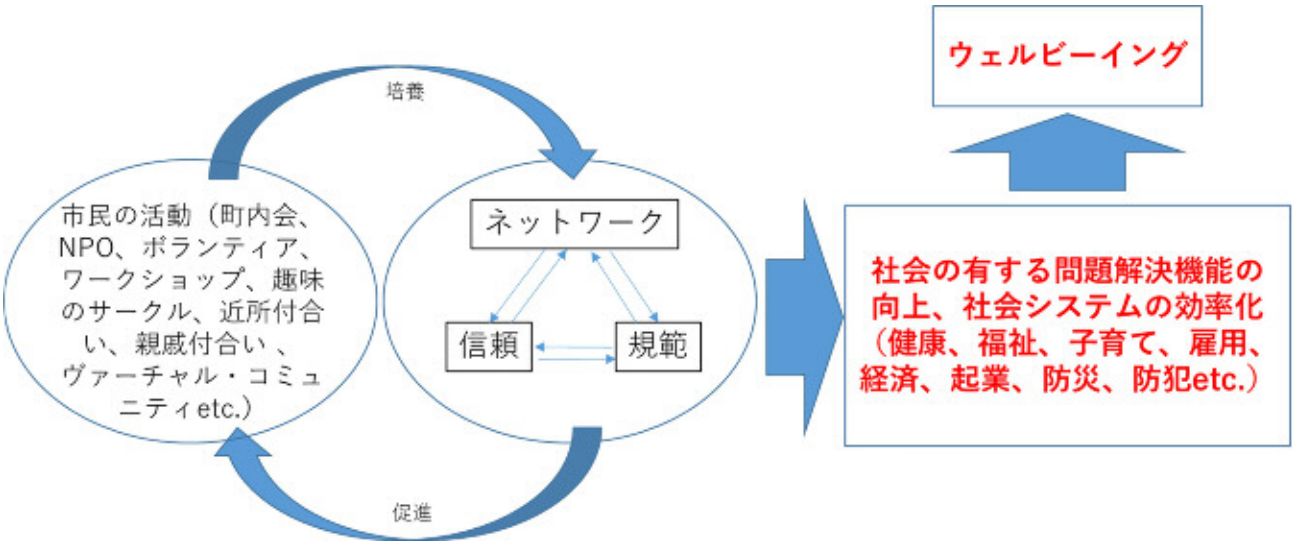
1,　調査の概要

1,1　問題意識

札幌市は、まちづくり戦略ビジョンにおいて、目指すべき都市像の１つに「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を掲げ、誰もが生きがいと誇りを持ちながら、互いにつながり、支えあうことで、生きる喜びと幸せを感じられる、心豊かで笑顔になれるまちを実現することを目指している。

一般的に、地縁組織をはじめ、趣味のつながりなどを含めた市民の活動が盛んな地域や、他者に対して広く開かれている地域、多様性を受け入れる、他者を信頼する傾向にある人で構成される地域は、様々な地域課題・行政課題に対応している、又は対応する素地があるため、個人の幸福感（ウェルビーイング）が高いことが想起されるところであるが、このことに関し、意識調査を行って札幌市の現状を把握するとともに、今後必要な手段・施策を考察することを行い、今後のまちづくりの基礎資料とする。

1,2　概念図（仮説）



1,3　先行研究

本調査にあたっては、国が行った研究２件を特に参考にしている。

１つは、内閣府が平成 15 年にまとめた「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」であり、その内容はおよそ次のとおりである。

●ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴である（ソーシャル・キャピタルの概念を広く普及させたアメリカの政治学者パットナムの定義）。

●ソーシャル・キャピタルの培養とボランティア活動を始めとする市民活動の活性化には、互いに他を高めていくような関係（ポジティブ・フィードバック）がある可能性が認められる。この関係を有効に機能させていくためには、市民活動自体が、水平的でオープンなネットワークを形成していくこととあわせて、課題解決等活動の成果の実現などにより、活動に対する社会的な評価、信頼を得ていくことが重要である。

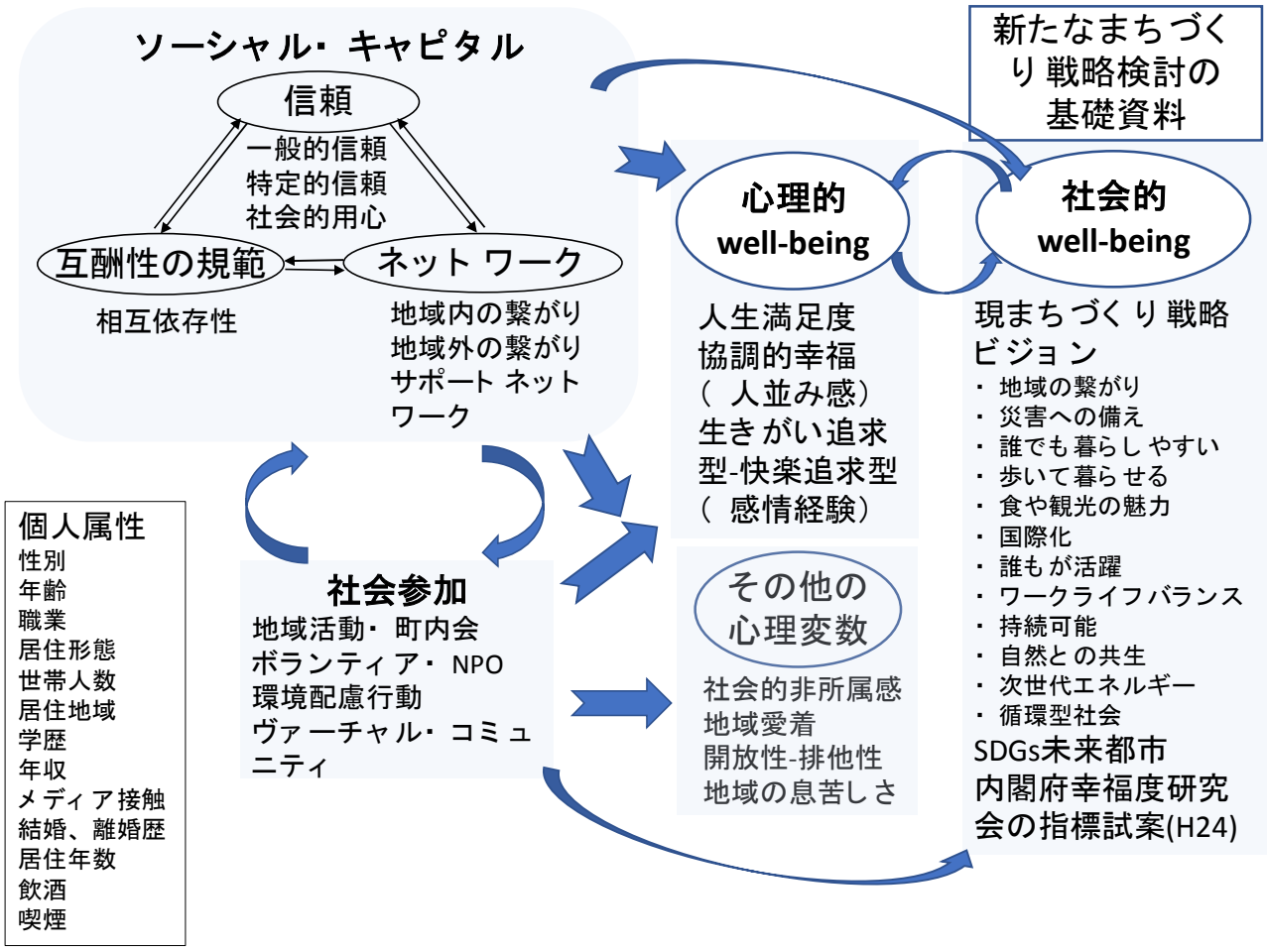
●また、わが国の地域別のソーシャル・キャピタルの定量的な把握を試み、相対的には大都市部で低く、地方部で高いという結果を得た。この結果からは、例えば失業率の抑制や出生率の維持などの国民生活面でソーシャル・キャピタルが寄与している可能性が認められた。

●ソーシャル･キャピタルの蓄積は、将来に向けて「活力ある地域」「安心・安全な地域」を形成するための要素になり得る可能性がある。

もう１件は、同じく内閣府が平成 22～24 年に「幸福度に関する研究会」において行った研究である。この研究では、幸福度を構成する指標は、経済社会状況、心身の健康、関係性の３つに大別され、このうち関係性については、ライフスタイル、個人・家族とのつながり、地域・社会とのつながり、自然とのつながりに分類されるとしている。

2,　意識調査の内容

2,1　調査票の設計イメージ



2,2　調査票の内容

2,2,1　回答者の基本属性（問Ⅰ）

性別、年代、住所（居住区）、職業、居の形態、自家用車の有無、同居者の人数、婚姻状況、最終学歴のほか、札幌市の居住年数、最寄りの交通機関までの所要時間について尋ねた。

2,2,2　社会参加（問Ⅱ）

地域内外での活動の状況や、近所付き合いの程度などについて尋ねた。

2,2,3　世の中に対する考え方（問Ⅲ）

一般的な人に対する信頼の程度や、特定対象への信頼の程度、互酬性の規範などについて尋ねた。

2,2,4　地域・社会に対する感情や幸福感（問Ⅳ）

地域愛着、近所付き合いに対する考え、心理的well-being、サポートネットワークの有無などについて尋ねた。

2,2,5　札幌のまちに対する考え（問Ⅴ）

札幌市が進めている施策をもとにまちの印象について尋ねた。

2,2,6　日頃の情報源ほか（問Ⅵ）

日頃の情報源、健康状態、健康行動、世帯年収について尋ねた。

2,3　実施方法・時期

市民アンケートシステムから、4,000 名を抽出した。抽出は、平成 30 年 12 月上旬に行い、男女別、年代別、地域（まちづくりセンター）別の層化抽出（比例配分）とした。

平成 30 年 12 月中旬に上記の 4,000 名に対し、意識調査を実施する旨の案内はがきを送付した。これに対して辞退の連絡があった方や、あて所に尋ねあたらないとしてはがきが届かなかった方などを除いた 3,910 名に、平成 31 年 1 月に調査票を発送した。郵送発送・郵送回収方式として、平成 31 年（2019 年） 1 月 28 日を締切日として実施した。

有効回答数 1,639 件（回収率 41.9%）であった。

3,　意識調査の結果

3,1　回答者の基本属性

3,1,1　性別（問Ⅰ．A）

性別	発送	有効回答
男性	1,803 人（46.1%）	696 人（42.5%）
女性	2,107 人（53.9%）	917 人（55.9%）
無回答	－	26 人（ 1.6%）
合計	3,910 人	1,639 人

女性の回答がやや多い。

3,1,2　年代（問Ⅰ．A）

年代	発送	有効回答
10 代	76 人（ 1.9%）	12 人（ 0.7%）
20 代	473 人（12.1%）	114 人（ 7.0%）
30 代	568 人（14.5%）	189 人（11.5%）
40 代	704 人（18.0%）	263 人（16.0%）
50 代	608 人（15.5%）	274 人（16.7%）
60 代	639 人（16.3%）	354 人（21.6%）
70 代以上	842 人（21.5%）	423 人（25.8%）
無回答	－	10 人（10.6%）
合計	3,910 人	1,639 人

特に、10 代、20 代の回答が少なく、60 代、70 代以上の回答が多い。

3,1,3　住所（問Ⅰ．A）

区名	発送	有効回答
中央区	474 人（12.1%）	192 人（11.7%）
北区	562 人（14.4%）	261 人（15.9%）
東区	513 人（13.1%）	204 人（12.4%）
白石区	430 人（11.0%）	181 人（11.0%）
厚別区	258 人（ 6.6%）	98 人（ 6.0%）
豊平区	455 人（11.6%）	196 人（12.0%）
清田区	211 人（ 5.4%）	82 人（ 5.0%）
南区	287 人（ 7.3%）	107 人（ 6.5%）
西区	434 人（11.1%）	191 人（11.7%）
手稲区	286 人（ 7.3%）	126 人（ 7.7%）
無回答	－	1 人（ 0.1%）
合計	3,910 人	1,639 人

北区の回答がやや多い。

3,1,4　職業（問Ⅰ．A）

職業については、回答の多い順に、「正規の職員・従業員」493 人（30.1%）、「主婦/主夫・パート」453 人（27.6%）、「無職 301 人」（18.4%）、「定年退職後」133 人（8.1%）、「正規ではない職員・従業員」101 人（6.2%）、「自営業」75 人（4.6%）、「学生・専門学生」36 人（2.2%）、「その他」31 人（1.9%）、無回答 16 人（1.0%）であった。「その他」では、「会社経営」、「会社役員」などの回答が多かった。

3,1,5　住居の形態（問Ⅰ．A）

住居の形態については、回答の多い順に「戸建住宅(自己所有)」682 人（41.6%）、「集合住宅(賃貸所有)」441 人（26.9%）、「集合住宅(自己所有)」367 人（22.4%）、「戸建住宅(賃貸住宅)」71 人（4.3%）、「その他」66 人（4.0%）、無回答 12 人（0.7%）であった。「その他」では、親や家族所有の家、老人ホームなどの回答が多かった。

3,1,6　自家用車の有無（問Ⅰ．A）

自家用車の有無については、「あり」が 1,147 人（70.0%）、「なし」479 人（29.2%）、「無回答」13 人（0.8%）であった。

3,1,7　同居者の人数（問Ⅰ．A）

同居者の人数（自身を含めた人数）については、「1 人」420 人（25.6%）、「2 人」508 人（31.0%）、「3 人」353 人（21.5%）、「4 人」236 人（14.4%）、「5 人以上」75 人（4.6%）、「無回答」47 人（2.9%）であった。

3,1,8　婚姻状況（問Ⅰ．A）

婚姻状況については、「既婚（有配偶）」1,078 人（65.8%）、「既婚（離・死別）」245 人（14.9%）、「未婚」286 人（17.4%）、無回答 30 人（1.8%）であった。

3,1,9　最終学歴（問Ⅰ．A）

最終学歴については、「小中学校」128 人（7.8%）、「高等学校」618 人（37.7%）、「専修、各種学校」230 人（14.0%）、「高専、専門学校」196 人（12.0%）、「大学」377 人（23.0%）、「大学院」33 人（2.0%）、「その他」27 人（1.6%）、無回答 30 人（1.8%）であった。「その他」では、専門学校や女学校などの回答があった。

3,1,10　居住年数（問Ⅰ．B．ア）

居住年数については、「1 年未満」37 人（2.3%）、「1～5 年未満」127 人（7.7%）、「5～10 年未満」89 人（5.4%）、「10～20 年未満」187 人（11.4%）、「20～30 年未満」251 人（15.3%）、「30～50 年未満」580 人（35.4%）、「50 年以上」357 人（21.8%）、無回答 11 人（0.7%）であった。

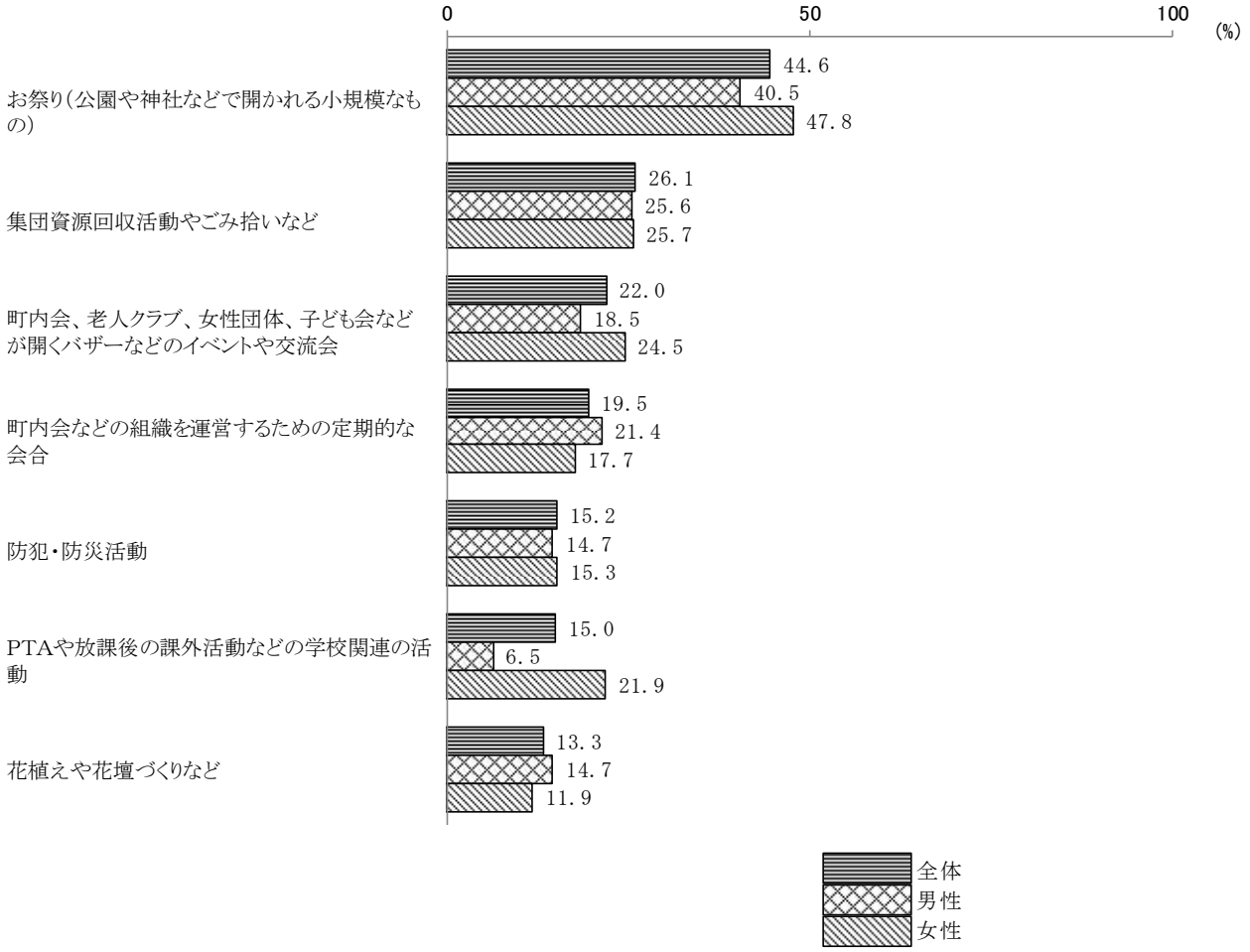
3,1,11　最寄りの交通機関までの所要時間（問Ⅰ．B．イ）

最寄りの交通機関までの所要時間については、「3 分以内」299 人（18.2%）、「3～5 分」476 人（29.0%）、「5～10 分」575 人（35.1%）、「10～15 分」229 人（14.0%）、「15 分以上」49 人（3.0%）、無回答 11 人（0.7%）であった。

3,2　社会参加

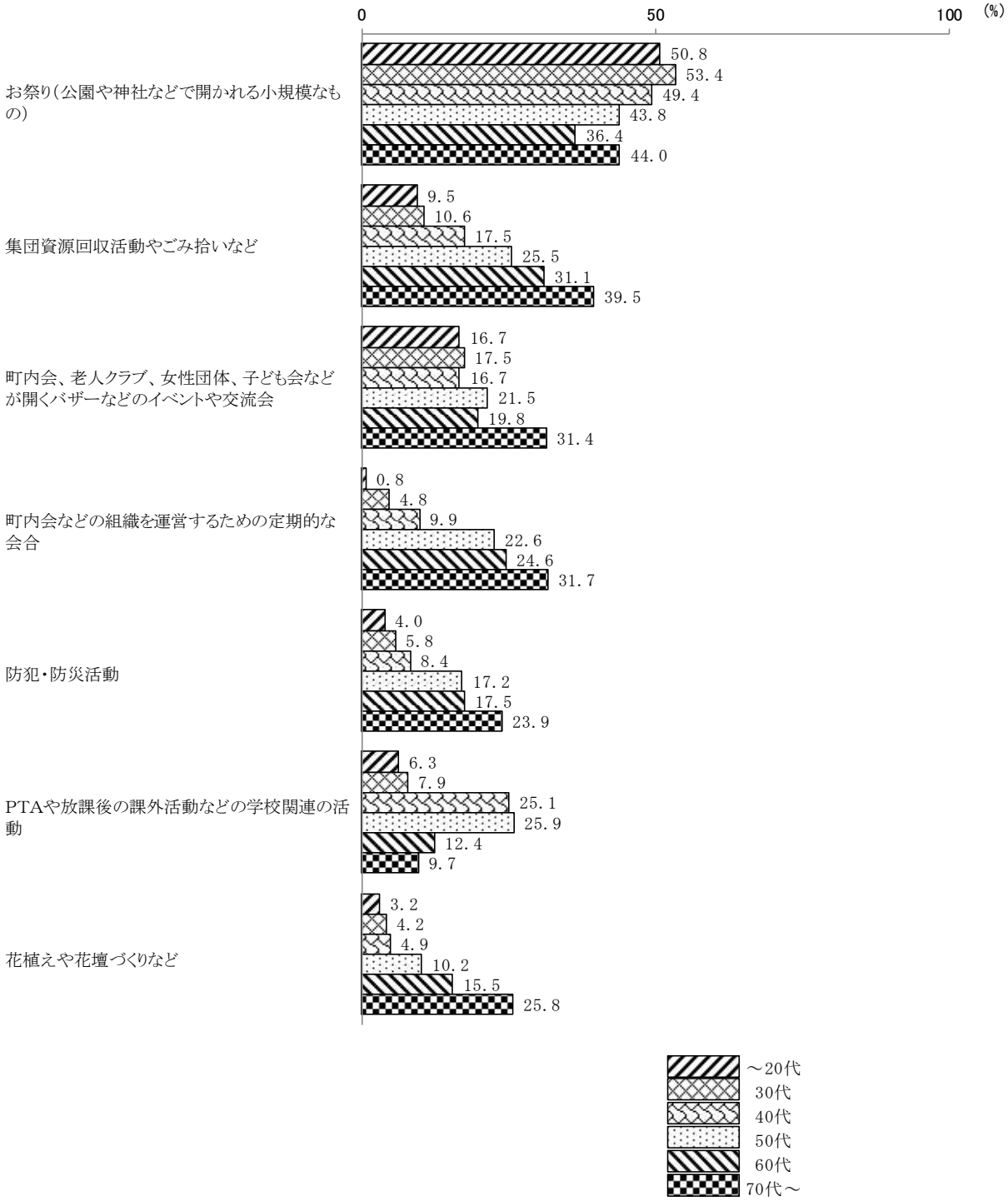
3,2,1　町内会などが行うイベントへの参加状況（問Ⅱ．A）

参加したことがあると答えた割合は、高い順に、「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの)」が 44.6%、「集団資源回収活動やごみ拾いなど」が 26.1%、「町内会、老人クラブ、女性団体、子ども会などが開くバザーなどのイベントや交流会」が 22.0%、「町内会などの組織を運営するための定期的な会合」が 19.5%、「防犯・防災活動」が 15.2%、「PTA や放課後の課外活動などの学校関連の活動」が 15.0%、「花植えや花壇づくりなど」が 13.3%、性別では、「PTA や放課後の課外活動などの学校関連の活動」は男性が 6.5%に対し、女性が 15.0%と差があった。



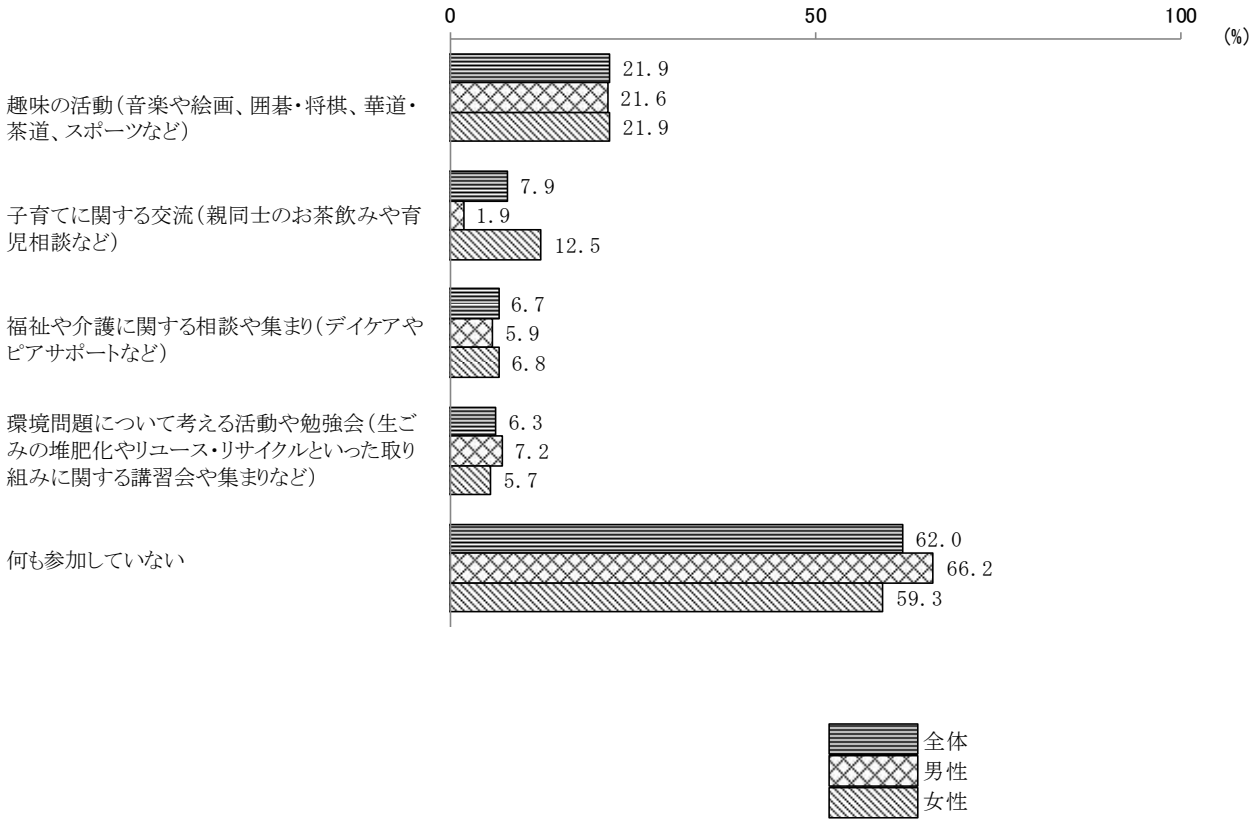
年代別の参加率では、「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）」が全ての年代で高く、「町内会、老人クラブ、女性団体、子ども会などが開くバザーなどのイベントや交流会」については、70 代以上が他の年代より 10%以上高い傾向にある。

また、「集団資源回収活動やごみ拾いなど」、「町内会などの組織を運営するための定期的な会合」、「防犯・防災活動」、「花植えや花壇づくりなど」においては、年代が高いほど参加率が高い。なお、「PTA や放課後の課外活動などの学校関連の活動」においては 40 代、50 代が他の年代と比較して参加率が高い。



3,2,2　町内会などが行うイベント以外の活動への参加状況（問Ⅱ．B）

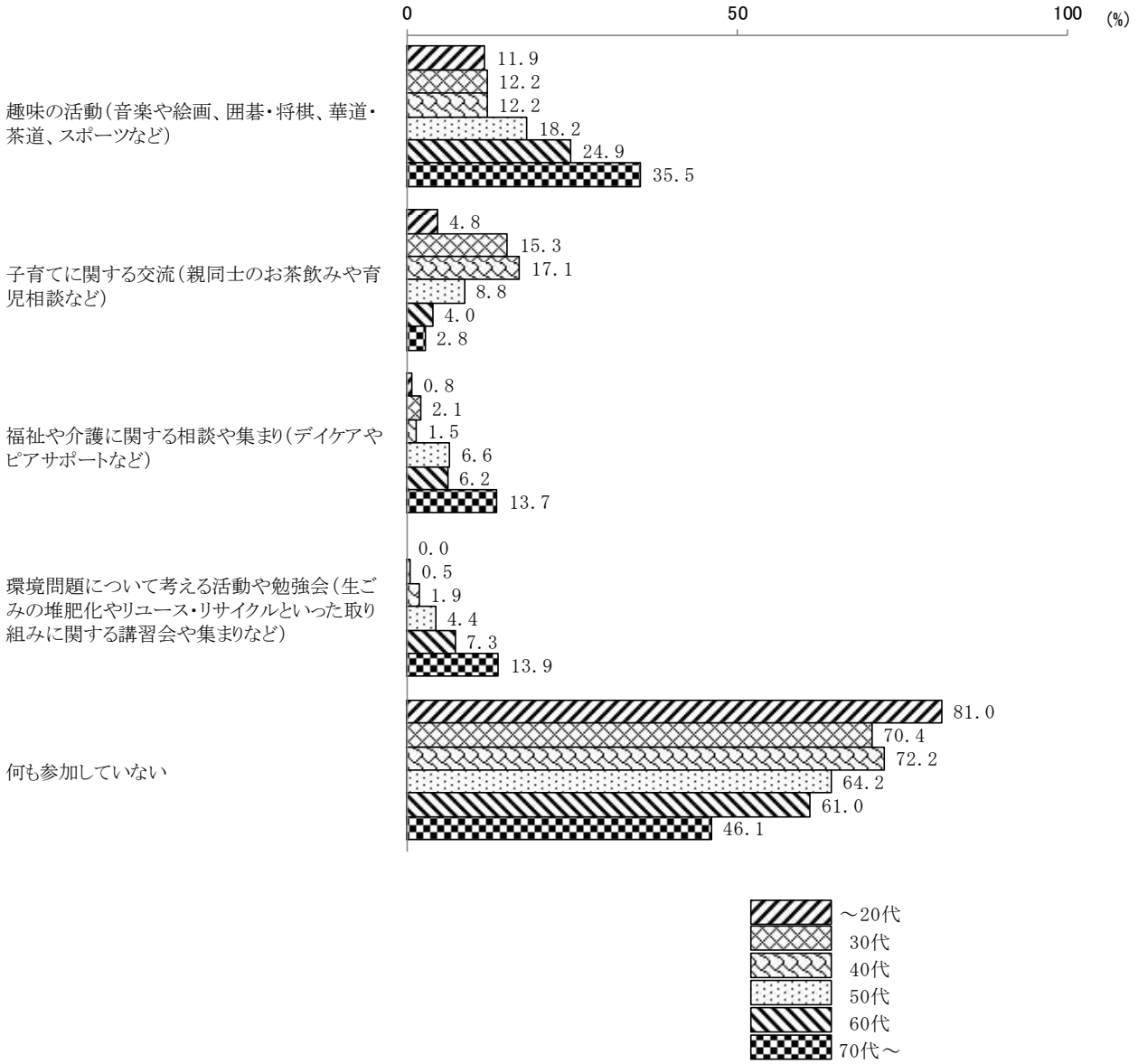
活動の中では、「趣味の活動（音楽や絵画、囲碁・将棋、華道・茶道、スポーツなど）」が 21.9％で最も高く、次いで「子育てに関する交流（親同士のお茶飲みや育児相談など）」が 7.9％、「福祉や介護に関する相談や集まり（デイケアやピアサポートなど）」が 6.7％、「環境問題について考える活動や勉強会（生ごみの堆肥化やリユース・リサイクルといった取り組みに関する講習会や集まりなど）」が 6.3％であったが、「何も参加していない」が 62.0％と男女共に多かった。



年代別の参加率では、全体的な傾向として年齢の高い年代ほど参加率が多い。

また「何も参加していない」については、若い年代ほど選択した回答者が多かったが、これは上記に記載した、年齢の高い年代ほど参加率が多いとの傾向と合致している。

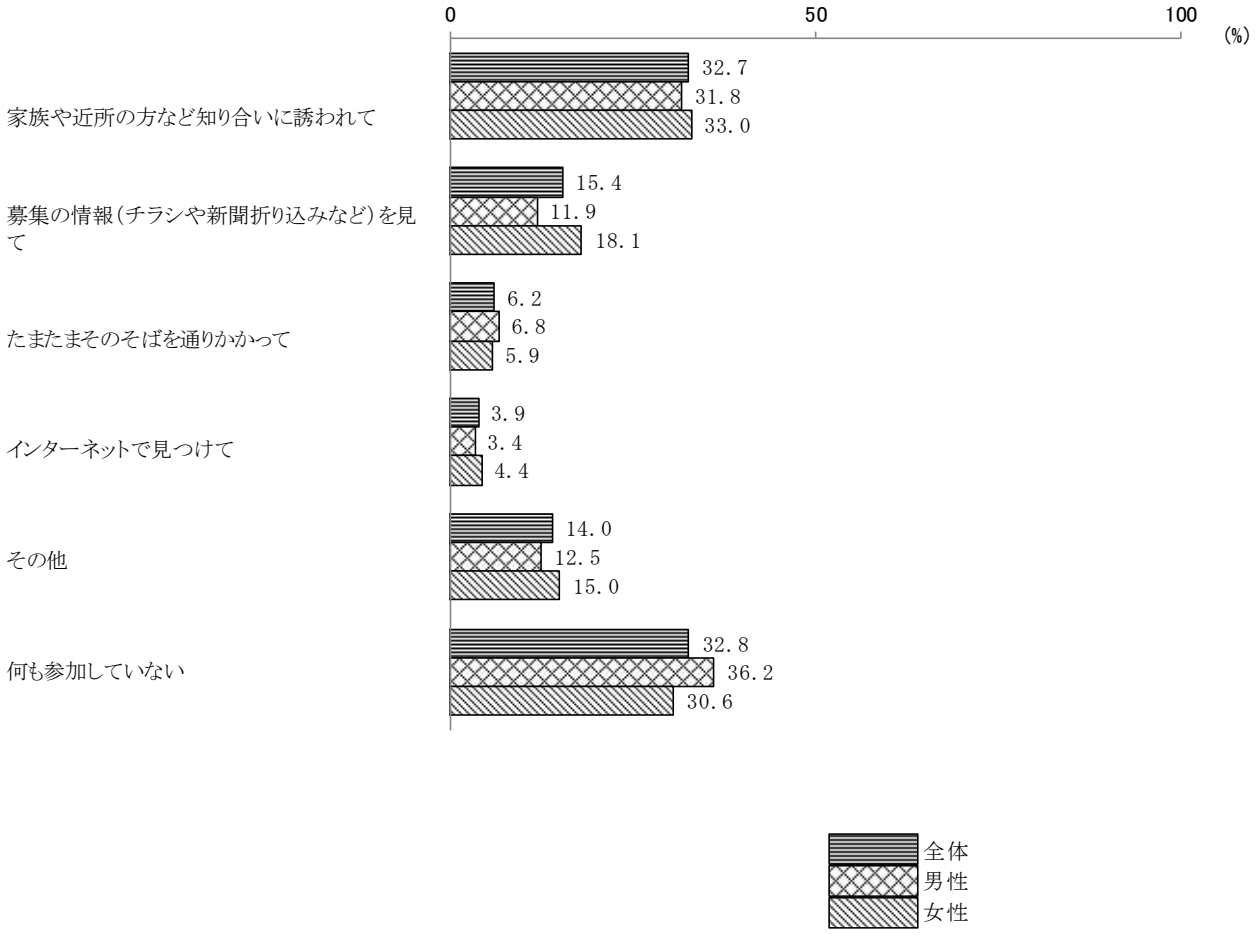
なお、「子育てに関する交流（親同士のお茶飲みや育児相談など）」についてのみ、30代、40代の参加率が他の年代よりも多かった。



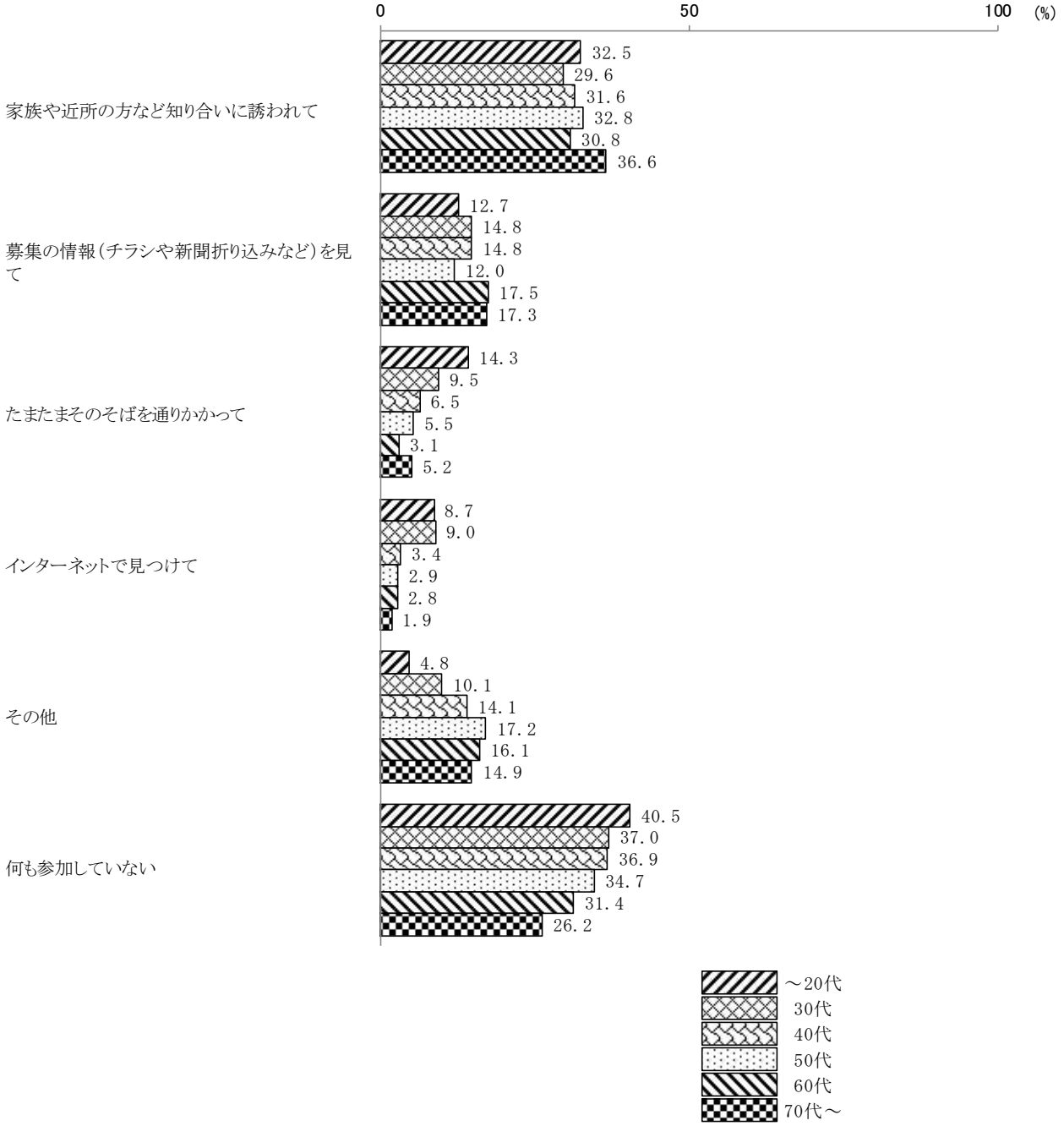
3,2,3　イベントや活動への参加のきっかけ（問Ⅱ．C）

参加のきっかけについては、「家族や近所の方など知り合いに誘われて」が 32.7％で最も高く、「募集の情報（チラシや新聞折り込みなど）を見て」が 15.4％で次いで高くなっているが、「何も参加していない」が 32.8％で最も高い数値になっている。

また、本問では「その他」が 14.0％であったが、回答には「回覧板やマンションの掲示板」、「町内会に強制的に加入させられた」や、「子供の入学等を通じての PTA 活動」がきっかけとなった等の回答が目立った。



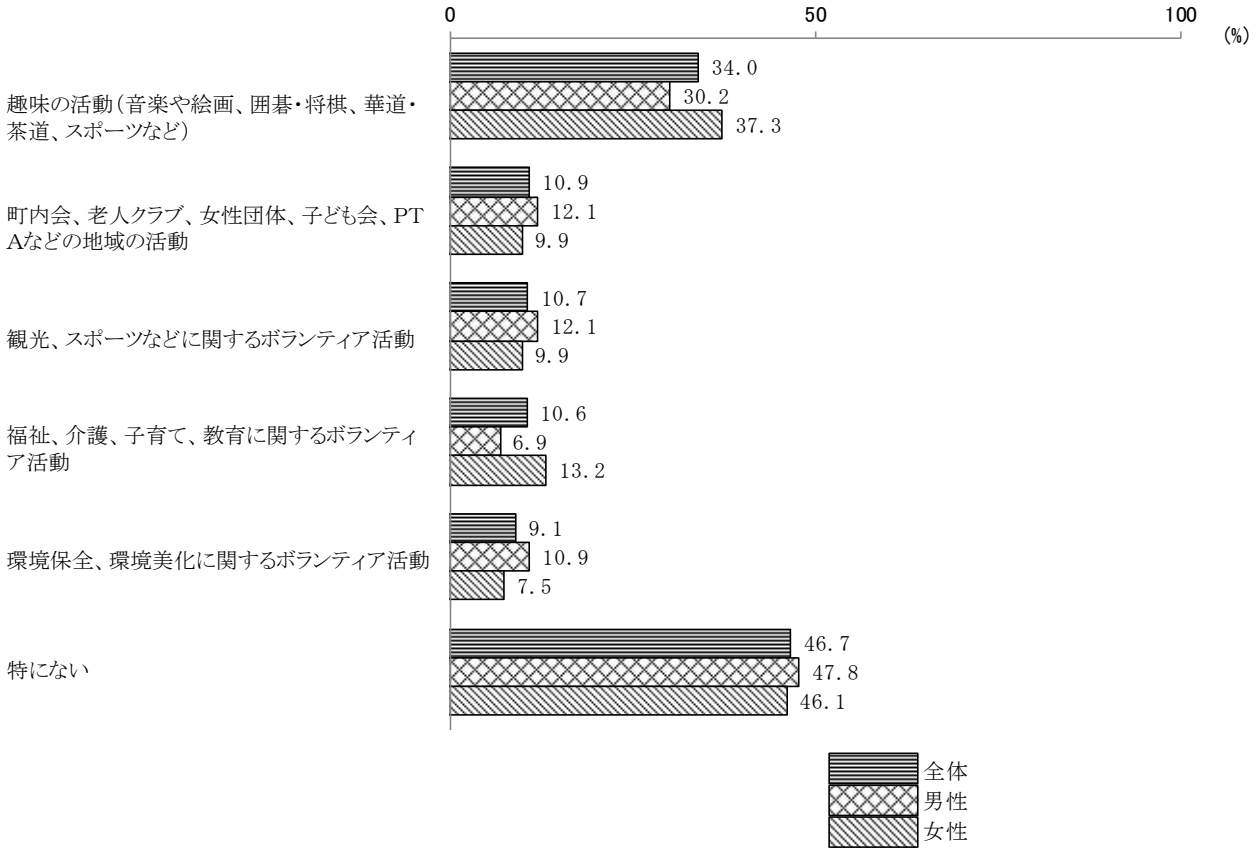
年代別での回答では、最も多かった「家族や近所の方など知り合いに誘われて」においては特に年代による特長は現れてはいないようであるが、「インターネットで見つけて」においては～20 代(8.7%)と 30 代(9.0%)が他の年代よりも高い数値となっている。



3,2,4　今後、参加してみたい活動（問Ⅱ．D）

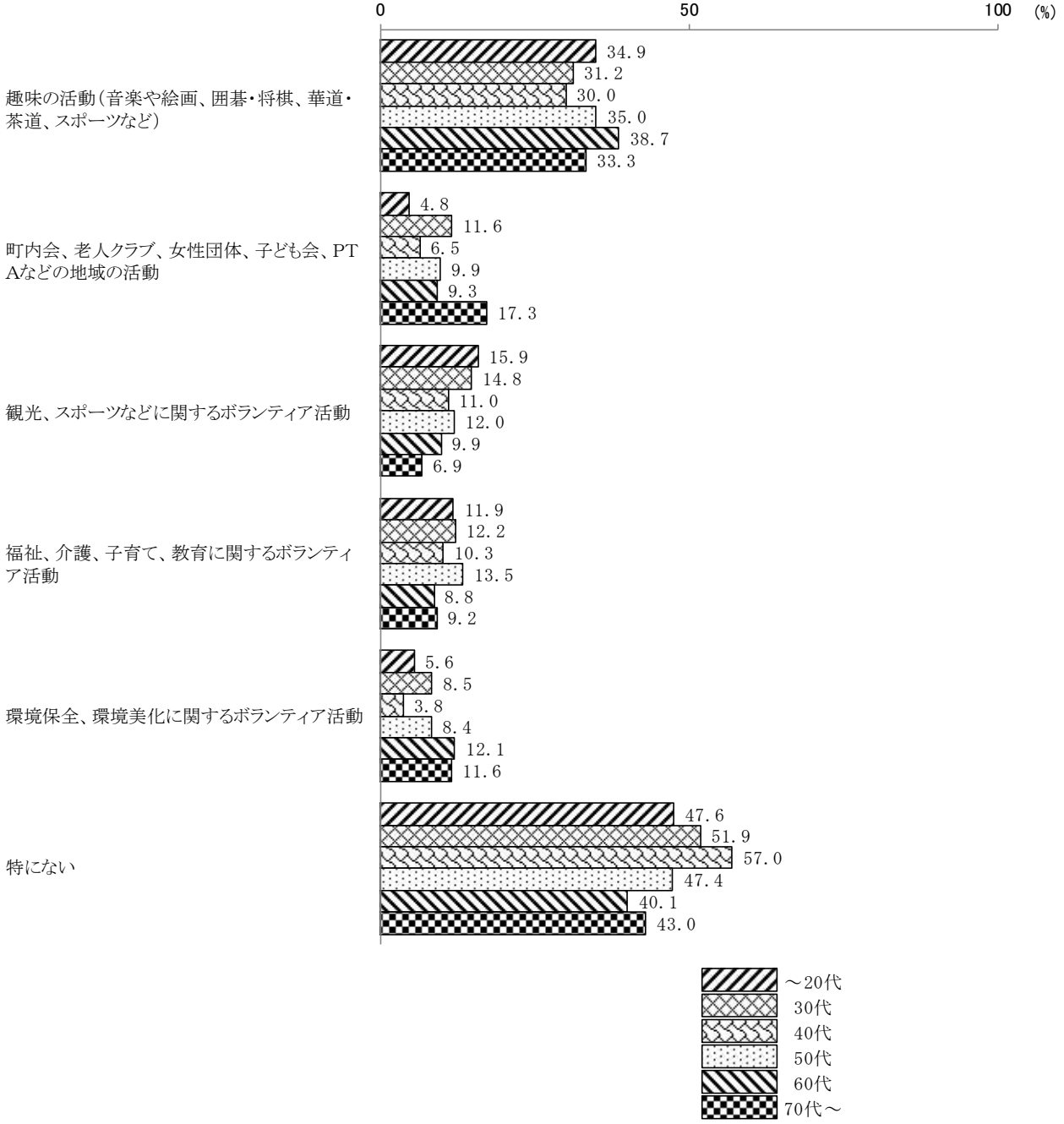
今後参加してみたい活動について伺ったところ、「趣味の活動（音楽や絵画、囲碁・将棋、華道・茶道、スポーツなど）」が 34.0％で圧倒的に高い支持を集めており、他の選択肢は10％程度の同程度であった。

一方、「特にない」が46.7％で最も高い数値になっている。



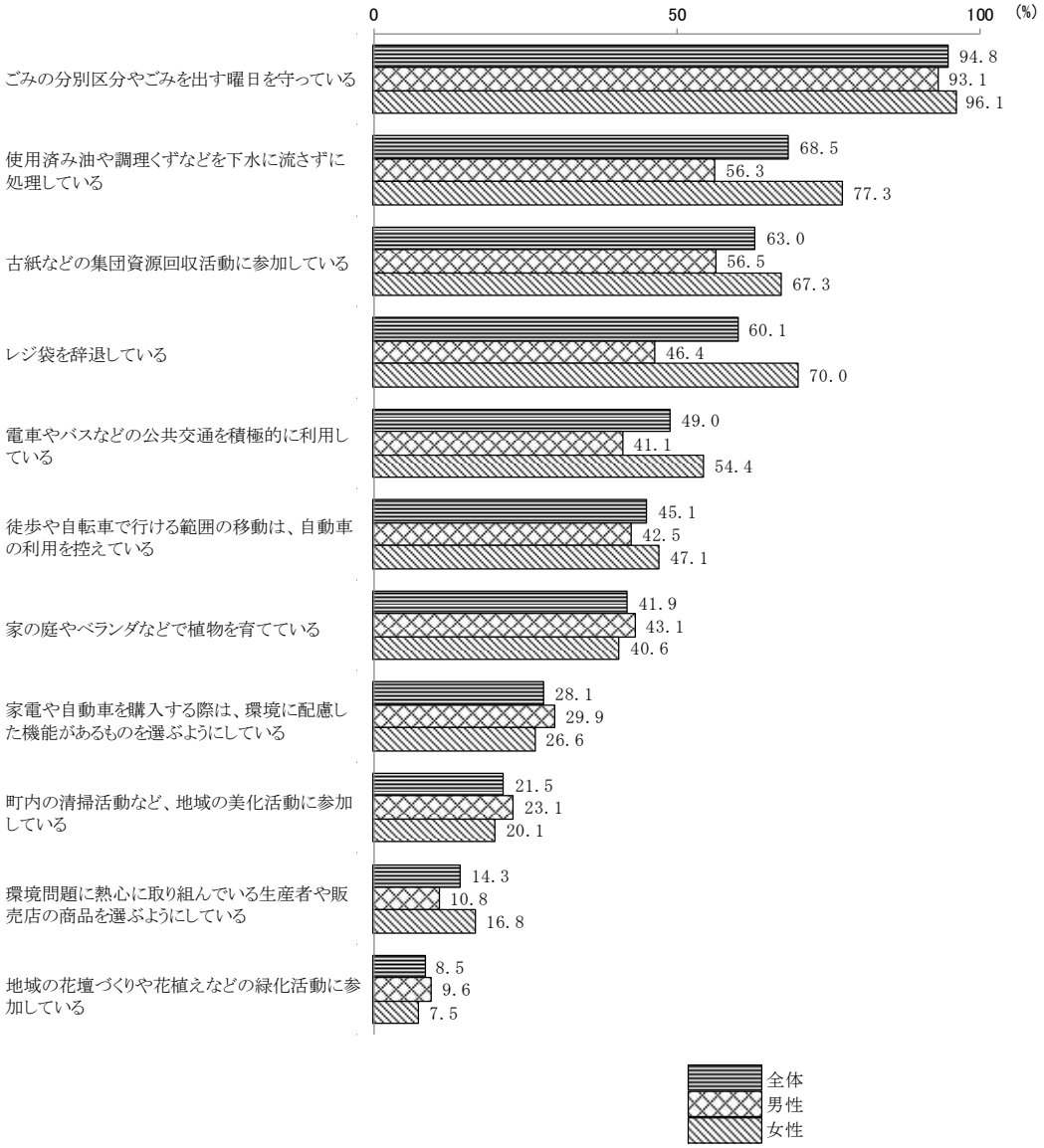
年代別での傾向は、「趣味の活動（音楽や絵画、囲碁・将棋、華道・茶道、スポーツなど)」が全ての年代において最も高い回答を得ている。

なお、「観光、スポーツなどに関するボランティア活動」は、若い年代ほど高い傾向があり、また逆に「環境保全、環境美化に関するボランティア活動」は、高い年代ほど高い傾向がある。

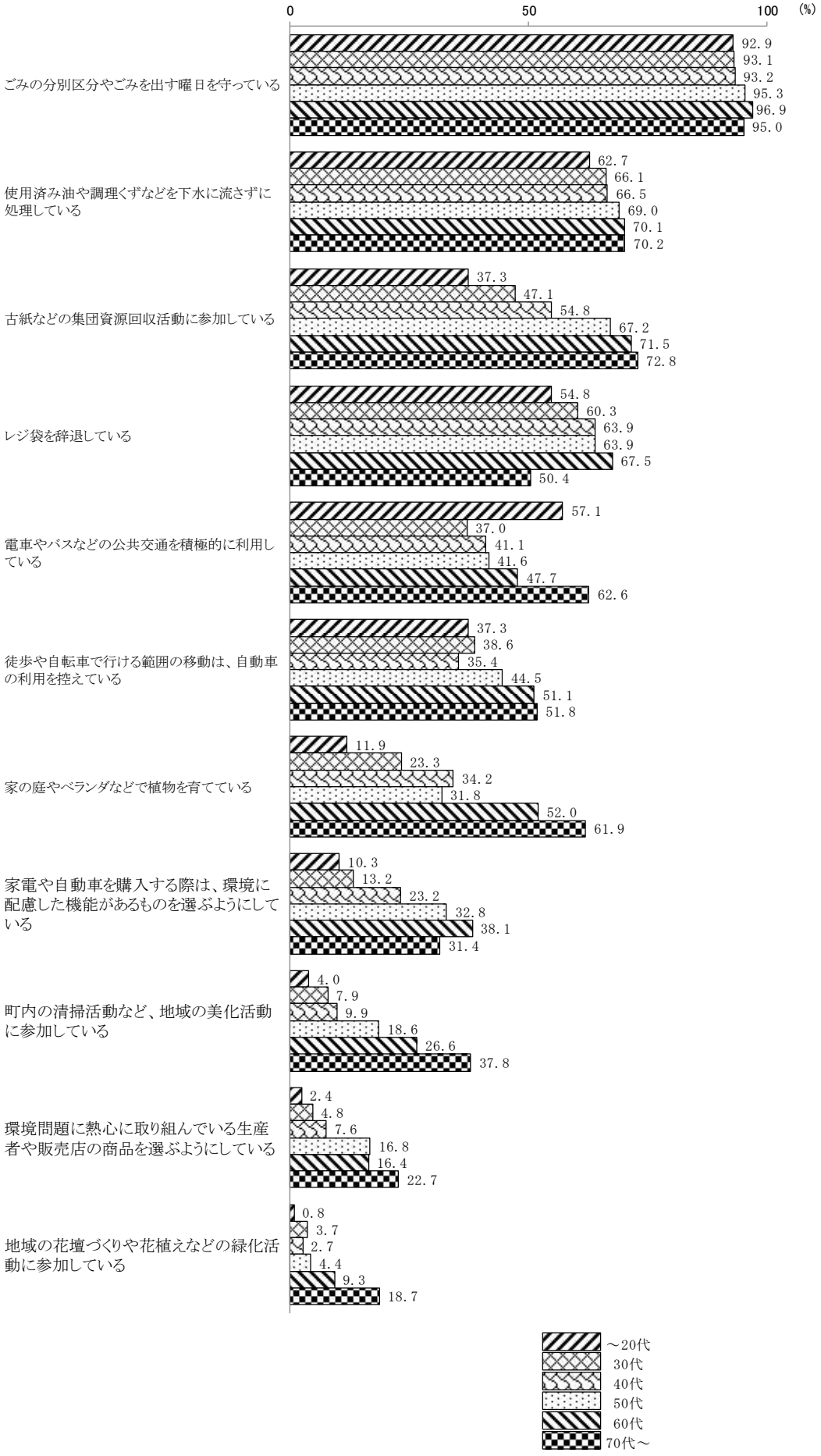


3,2,5　ふだんの環境保全行動（問Ⅱ．E）

普段の環境保全活動では、「ごみの分別区分やごみを出す曜日を守っている」が 94.8%と非常に高い回答率を得ており、2 位の「使用済み油や調理くずなどを下水に流さずに処理している」よりも、25 ポイント以上の差をつけている。



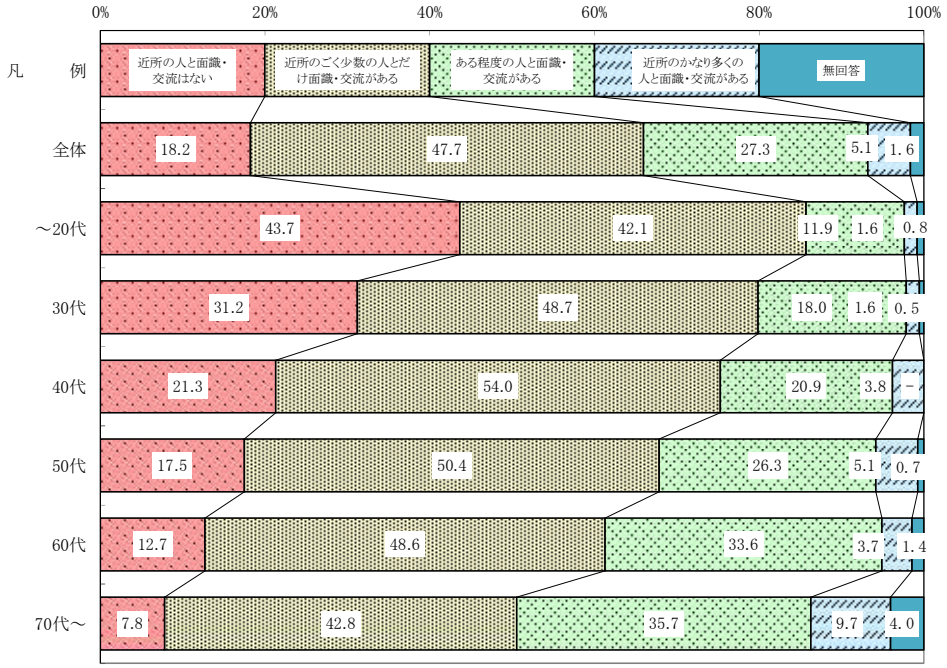
年代別での傾向としては、「古紙などの集団資源回収活動に参加している」、「家の庭やベランダなどで植物を育てている」「町内の清掃活動など、地域の美化活動に参加している」「環境問題に熱心に取り組んでいる生産者や販売店の商品を選ぶようにしている」等で、特に高い年代ほど高い回答率を得ている傾向にある。


0
50
100
(%)
ごみの分別区分やごみを出す曜日を守っている
92.9
93.1
93.2
95.3
96.9
95.0
使用済み油や調理くずなどを下水に流さずに処理している
62.7
66.1
66.5
69.0
70.1
70.2
古紙などの集団資源回収活動に参加している
37.3
47.1
54.8
67.2
71.5
72.8
レジ袋を辞退している
54.8
60.3
63.9
63.9
67.5
50.4
電車やバスなどの公共交通を積極的に利用している
57.1
37.0
41.1
41.6
47.7
62.6
徒歩や自転車で行ける範囲の移動は、自動車の利用を控えている
37.3
38.6
35.4
44.5
51.1
51.8
家の庭やベランダなどで植物を育てている
11.9
23.3
34.2
31.8
52.0
61.9
家電や自動車を購入する際は、環境に配慮した機能があるものを選ぶようにしている
10.3
13.2
23.2
32.8
38.1
31.4
町内の清掃活動など、地域の美化活動に参加している
4.0
7.9
9.9
18.6
26.6
37.8
環境問題に熱心に取り組んでいる生産者や販売店の商品を選ぶようにしている
2.4
4.8
7.6
16.8
16.4
22.7
地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している
0.8
3.7
2.7
4.4
9.3
18.7
～20代
30代
40代
50代
60代
70代～

3,2,6　近所で付き合いのある方の人数（問Ⅱ．F．ア）

「ある程度の人と面識・交流がある」「近所のかなり多くの人と面識・交流がある」と答えた割合は、～20 代で 13.5%、30 代で 19.6%、40 代で 24.7%、50 代で 31.4%、60 代で 37.3%、70 代～で 45.4%であった。

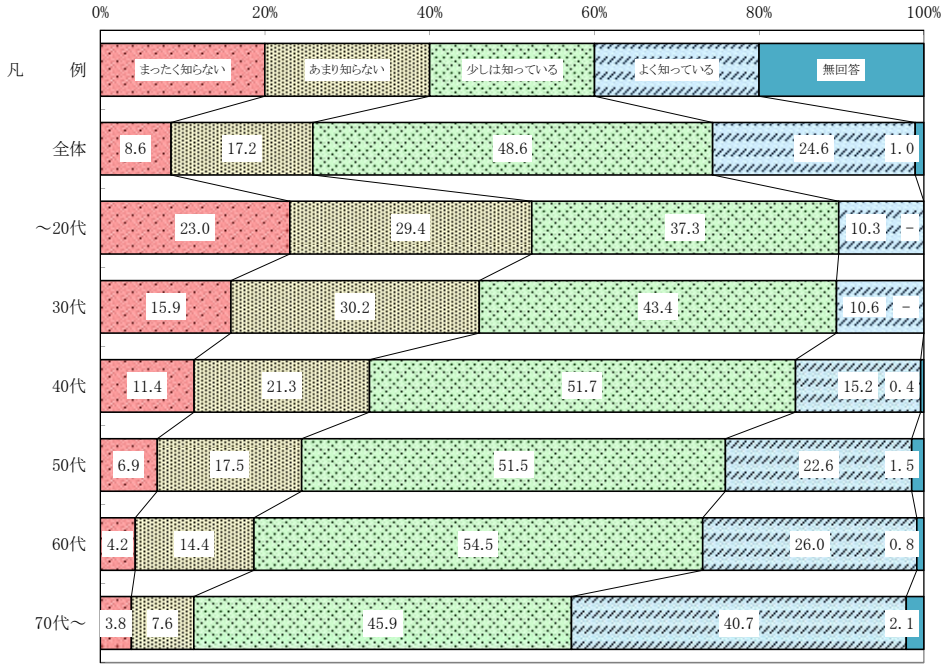
～20 代の年代では、「近所の人と面識・交流はない」が 43.7%と最多であった。



3,2,7　隣や向かいの人を知っているか（問Ⅱ．F．イ）

「少しは知っている」「よく知っている」と答えた割合は、～20 代で 47.6%、30 代で 54.0%、40 代で 66.9%、50 代で 74.1%、60 代で 80.5%、70 代～で 86.5%であった。

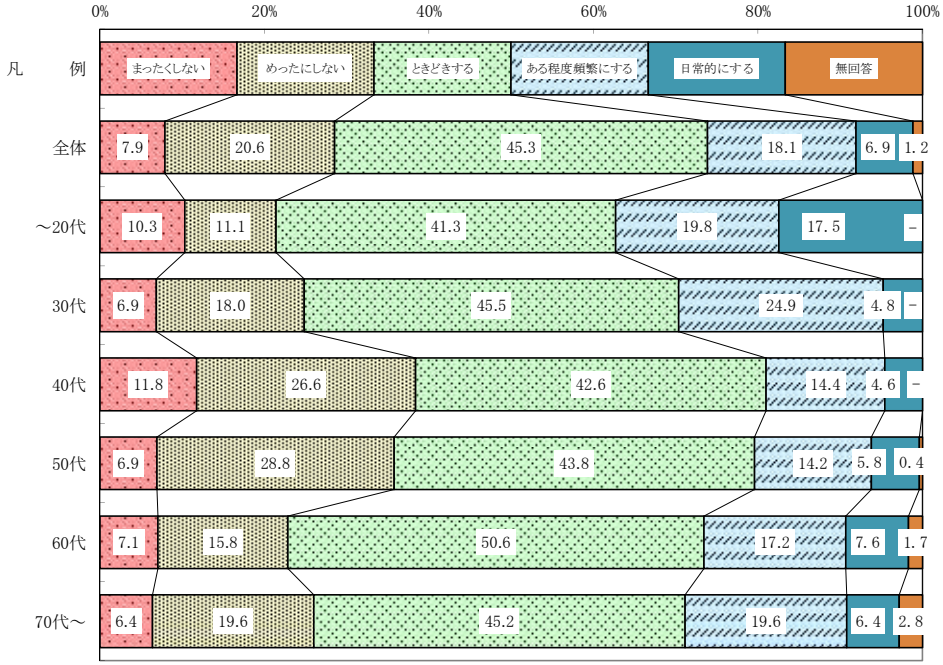
前問で「近所の人と面識・交流はない」との回答率が全体で 18.2%であったが、本問での「まったく知らない」との回答率では 8.6%へと低下している。全体の傾向として、同じ相手であっても特段交流があるとは考えていないが、ある程度の面識ならあると認識していることが推測できる。



3,2,8　住んでいる地域以外の友人、知人とのやりとりの頻度（問Ⅱ．F．ウ）

本問で、「日常的にする」と回答したのは、～20 代が最も多く 17.5%であった。

また、「日常的にする」「ある程度頻繁にする」「ときどきする」までを合計した値では、～20 代、30 代では 75%以上であるが、40 代、50 代では 60%近くに減少し、60 代はまた 75%以上へと増加している。

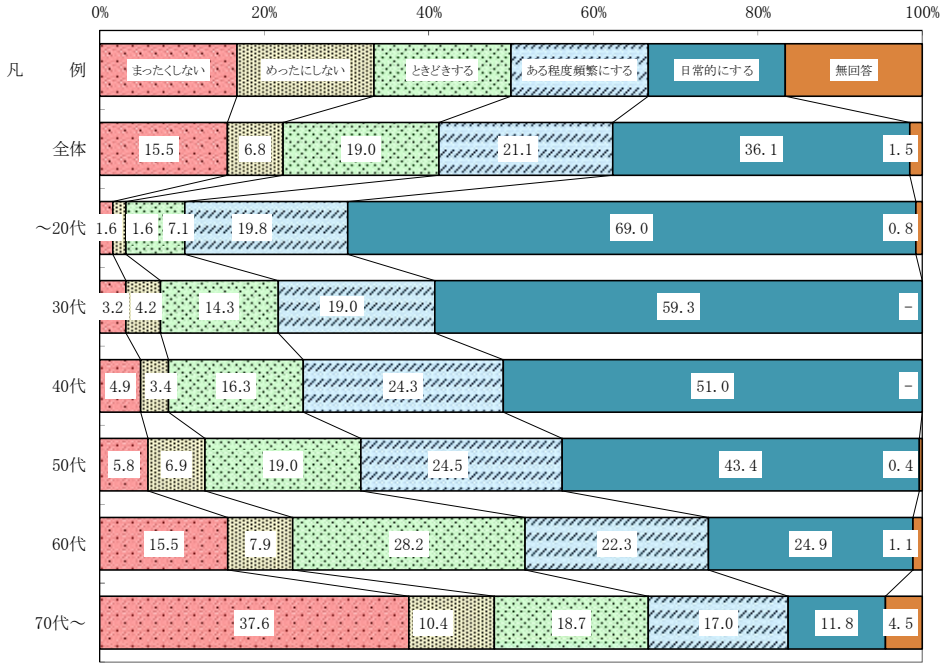


3,2,9　個人的なことのメール等のやりとりの頻度（問Ⅱ．F．エ）

本問で、「日常的にする」と回答したのは、～20 代が最も多く 69.0%であった。

全体的な傾向として、高い年代になるほど個人的なことのメール等のやりとりの頻度は低下する傾向にある。

しかし、「日常的にする」「ある程度頻繁にする」までを合計した値では、～20 代の 88.8%から徐々に低下していくが、50 代でもまだ 67.9%を維持しており（60 代で初めて 50%を下回る）、高い年代へも既にかなり普及していることが推測できる。



3,3　世の中に対する考え方＝信頼・互酬性の規範など

3,3,1①　信頼・互酬性の規範（問Ⅲ．A　ア・イ・ウ・エ）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

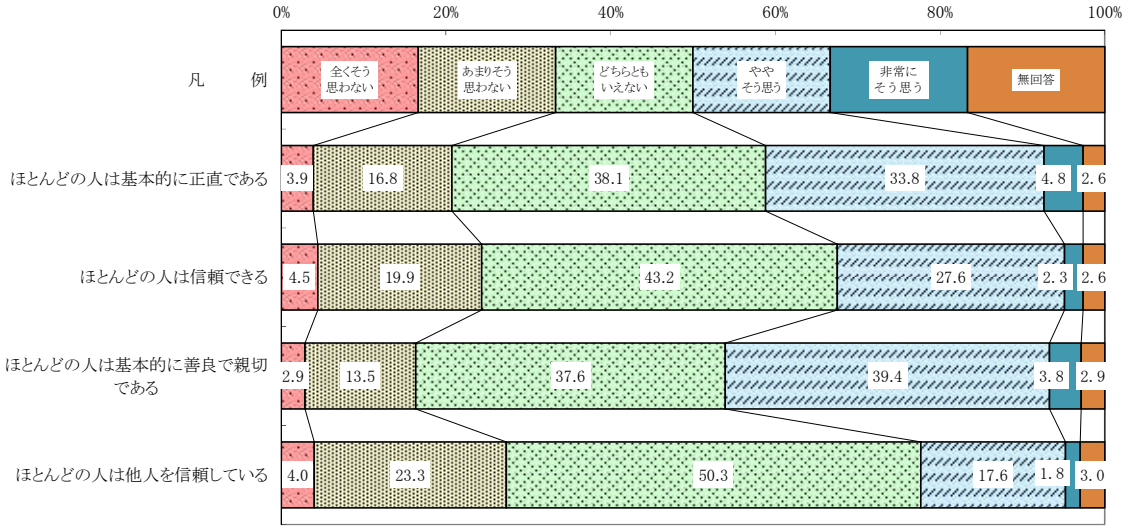
「ほとんどの人は基本的に善良で親切である」が 43.2%、

「ほとんどの人は基本的に正直である」が 38.6%、

「ほとんどの人は信頼できる」が 29.9%、

「ほとんどの人は他人を信頼している」が 19.4%であった。

また、「ほとんどの人は他人を信頼している」の問いに対して「どちらともいえない」の回答率は 50.3%と半数を超えていた。



3,3,1②　信頼・互酬性の規範（問Ⅲ．A　オ・カ・キ）

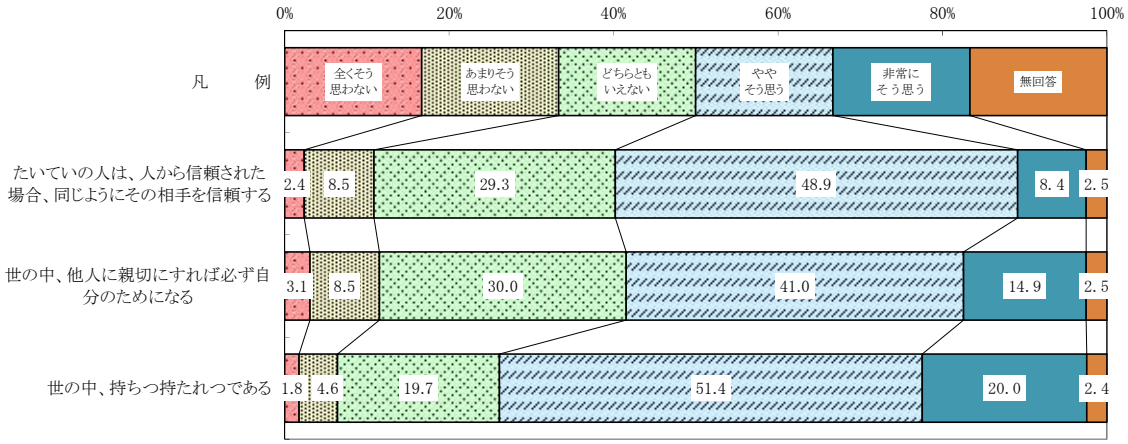
「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「世の中持ちつ持たれつである」が 71.4%、

「たいていの人は、人から信頼された場合、同じようにその相手を信頼する」が 57.3%、

「世の中、他人に親切にすれば必ず自分のためになる」が 55.9%であった。

本問では「どちらともいえない」を含め、否定的な回答は少ない傾向であった。



3,3,1③　信頼・互酬性の規範（問Ⅲ．A　ク・ケ・コ）

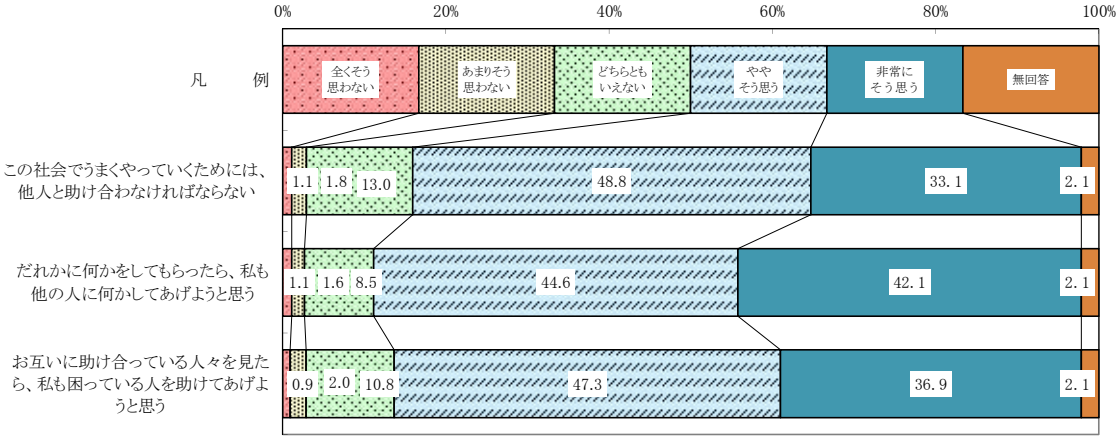
「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「だれかに何かをしてもらったら、私も他の人に何かしてあげようと思う」が 86.7%、

「お互いに助け合っている人々を見たら、私も困っている人を助けてあげようと思う」が 84.2%、

「この社会でうまくやっていくためには、他人と助け合わなければならない」が 81.9%であった。

本問においても「どちらともいえない」を含め、否定的な回答が少ない傾向であった。



3,3,2①　特定の人や組織等に対する信頼（問Ⅲ．B　ア・イ・ウ・エ・コ）

「非常に頼りにできる」又は「やや頼りにできる」と答えた割合は、高い順に、

「学校、病院、育児施設・介護施設（デーサービスなど）」が 55.0%、

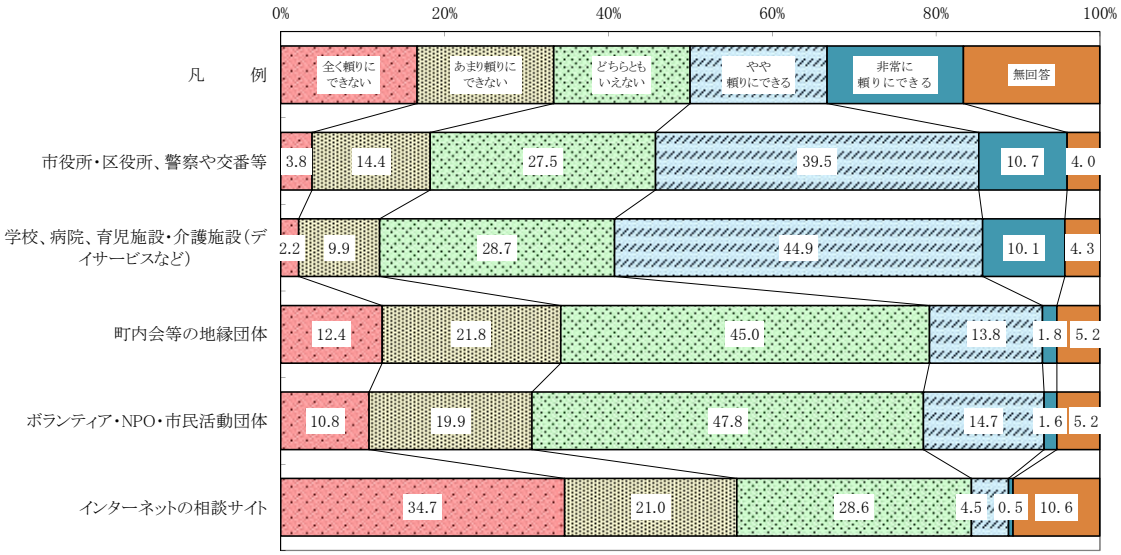
「市役所・区役所、警察や交番等」が 50.2%、

「ボランティア・NPO・市民活動団体」が 16.3%、

「町内会等の地縁団体」が 15.6%、

「インターネットの相談サイト」が 5.0%であった。

全体としては、「学校、病院、育児施設・介護施設（デーサービスなど）」や「市役所・区役所、警察や交番等」の公的機関が頼りにされている状況である。



3,3,2②　特定の人や組織等に対する信頼（問Ⅲ．B　オ・カ・キ・ク・ケ）

「非常に頼りにできる」又は「やや頼りにできる」と答えた割合は、高い順に、

「家族」が 88.0%、

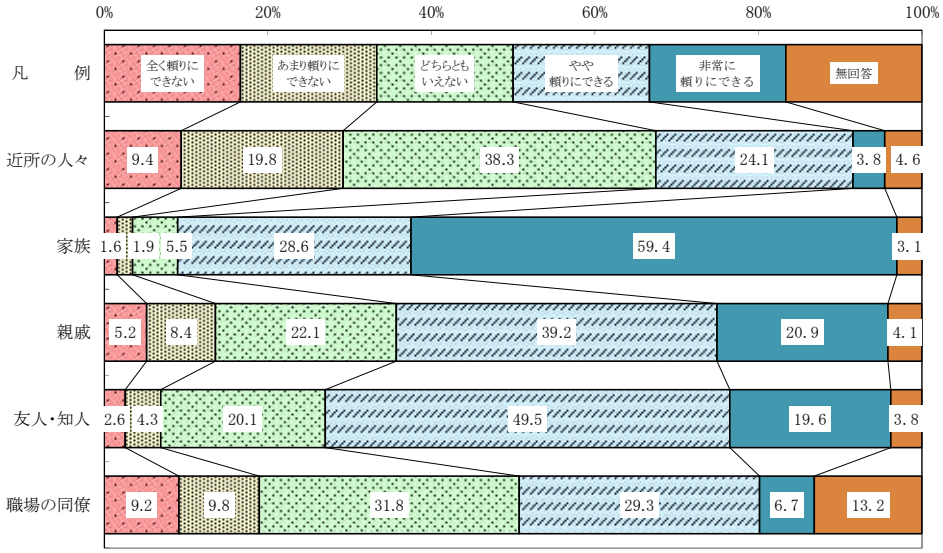
「友人・知人」が 69.1%、

「親戚」が 60.1%、

「職場の同僚」が 36.0%、

「近所の人々」が 27.9%であった。

特に「非常に頼りにできる」を選択した回答の中では、家族が 59.4%と突出している状況であることが読み取れる。



3,4　地域・社会に対する感情や幸福感

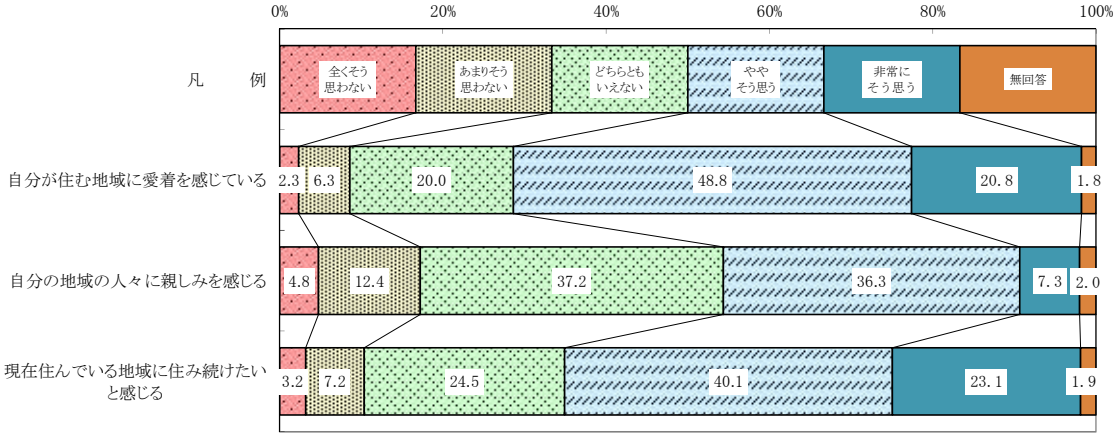
3,4,1①　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A　ア・イ・ウ）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「自分が住む地域に愛着を感じている」が 69.6%、

「現在住んでいる地域に住み続けたいと感じる」が 63.2%、

「自分の地域の人々に親しみを感じる」が 43.6%であった。



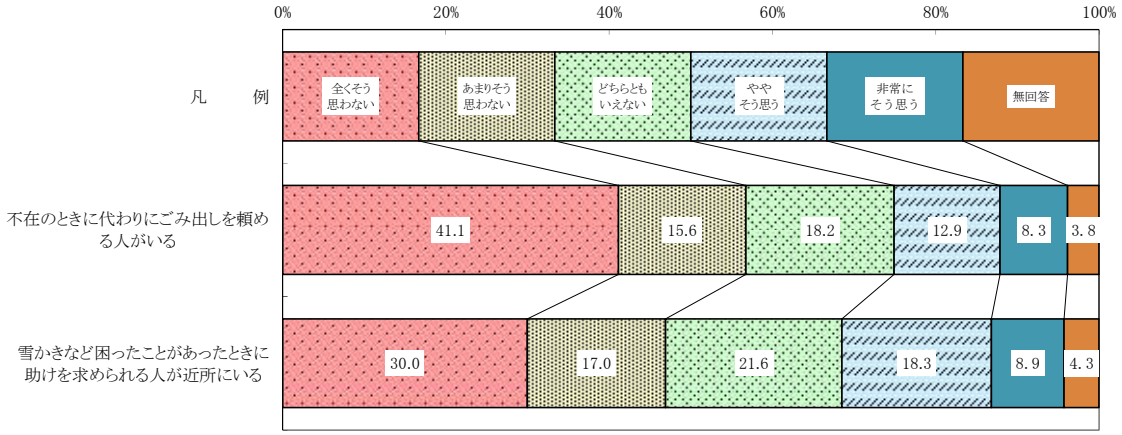
3,4,1②　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A　エ・オ）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「雪かきなど困ったことがあったときに助けを求められる人が近所にいる」が 27.2%、

「不在のときに代わりにごみ出しを頼める人がいる」が 21.2%であった。

前問の地域への愛着・親しみを感じている割合 43.6%よりはやや少ない結果であった。



3,4,1③　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A　カ・キ・ク・ケ）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

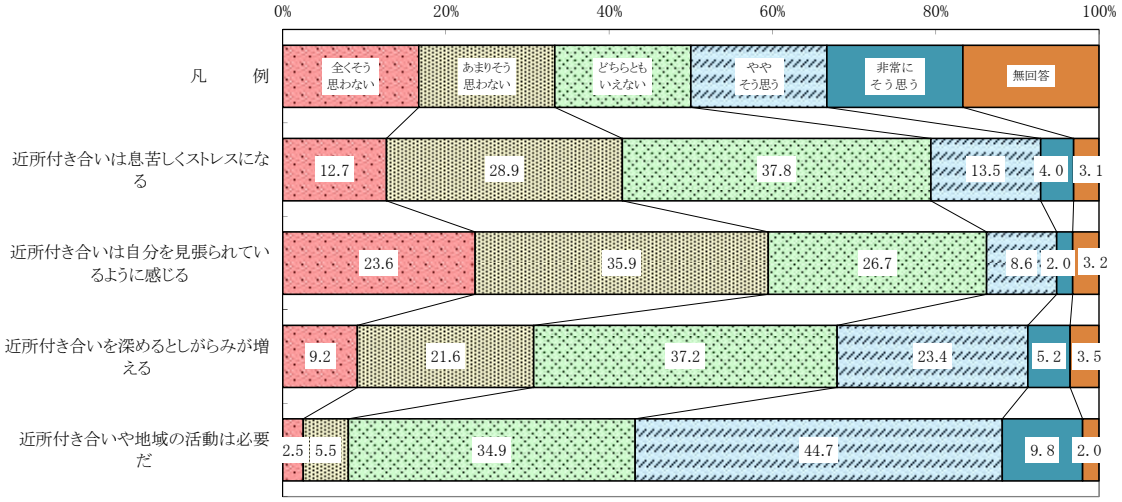
「近所付き合いや地域の活動は必要だ」が 54.5%、

「近所を深めるとしがらみが増える」が 28.6%、

「近所付き合いは息苦しくストレスになる」が 17.5%、

「近所付き合いは自分を見張られているように感じる」が 10.6%であった。

近所付き合いの必要性を感じている方は多く、また近所付き合いをネガティブに捉えている方もそれほど多くは無い状況である。



3,4,1④　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A　コ・サ・シ・ス）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

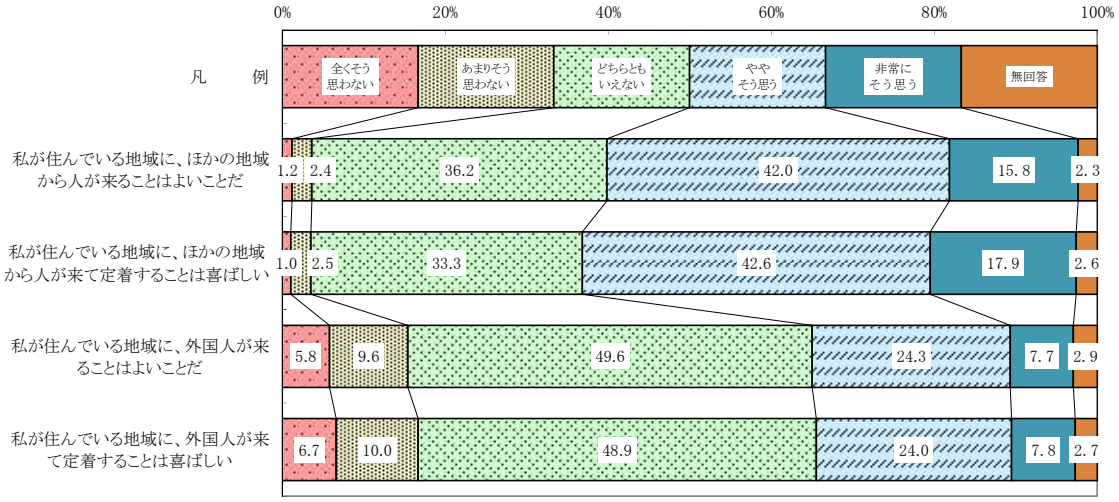
「私が住んでいる地域に、ほかの地域から人が来て定着することは喜ばしい」が 60.5%、

「私が住んでいる地域に、ほかの地域から人が来ることは良いことだ」が 57.8%、

「私が住んでいる地域に、外国人が来ることは良いことだ」が 32.0%、

「私が住んでいる地域に、外国人が来て定着することは喜ばしい」が 31.8%であった。

なお、外国人に関する質問２件では、「どちらともいえない」という回答が最も多く、約５割を占めていた。



3,4,1⑤　地域・社会に対する感情＝地域愛着・非所属感（問Ⅳ．A　セ・ソ・タ）

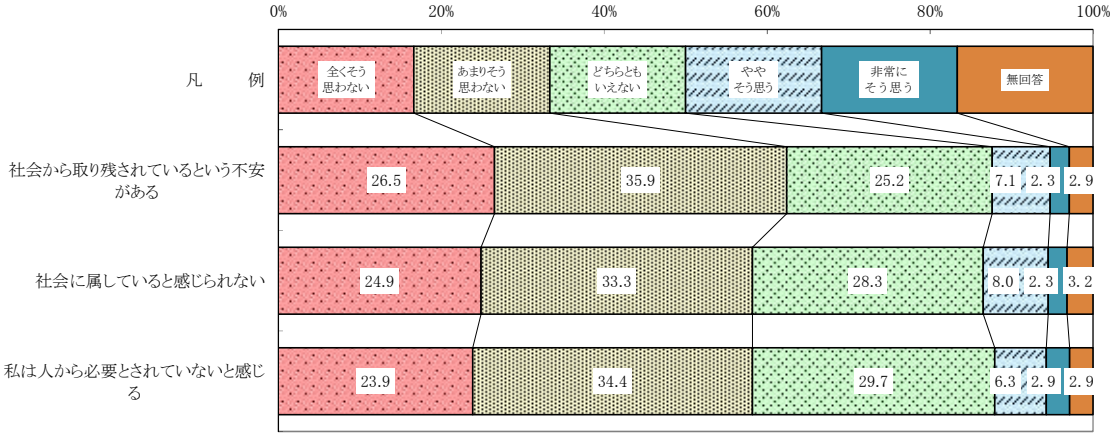
「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「社会に属していると感じていない」が 10.3%、であった。

「社会から取り残されているという不安がある」が 9.4%、

「私は人から必要とされていないと感じる」が 9.2%であった。

全体的な傾向として、非所属感を持っている方はさほど多くはない状況である。



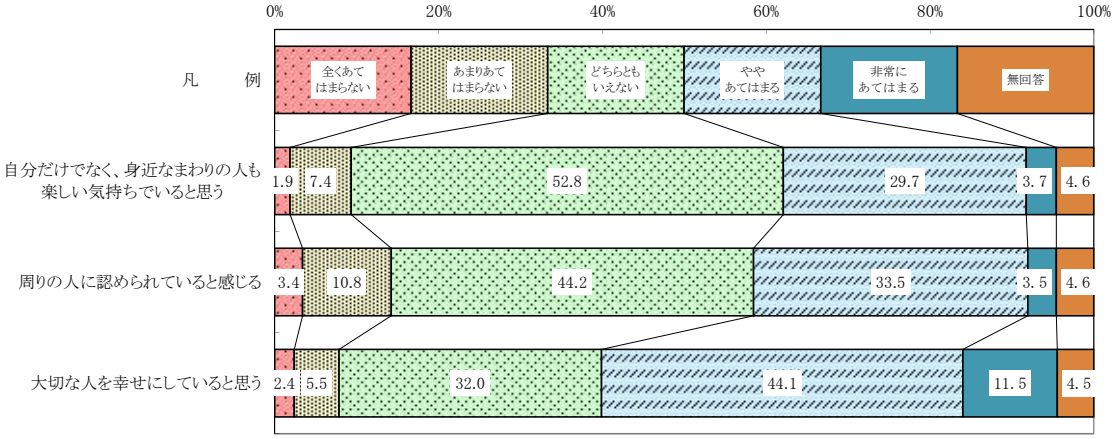
3,4,2①　幸福感や満足度＝心理的 well-being（問Ⅳ．B　ア・イ・ウ）

「非常にあてはまる」又は「ややあてはまる」と答えた割合は、高い順に、

「大切な人を幸せにしていると思う」が 55.6%、

「周りの人に認められていると感じる」が 37.0%、

「自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちであると思う」が 33.4%であった。



3,4,2②　幸福感や満足度＝心理的 well-being（問Ⅳ．B　エ・オ・カ・キ・ク・ケ）

「非常にあてはまる」又は「ややあてはまる」と答えた割合は、高い順に、

「平凡だが安定した日々を過ごしている」が 75.5%、

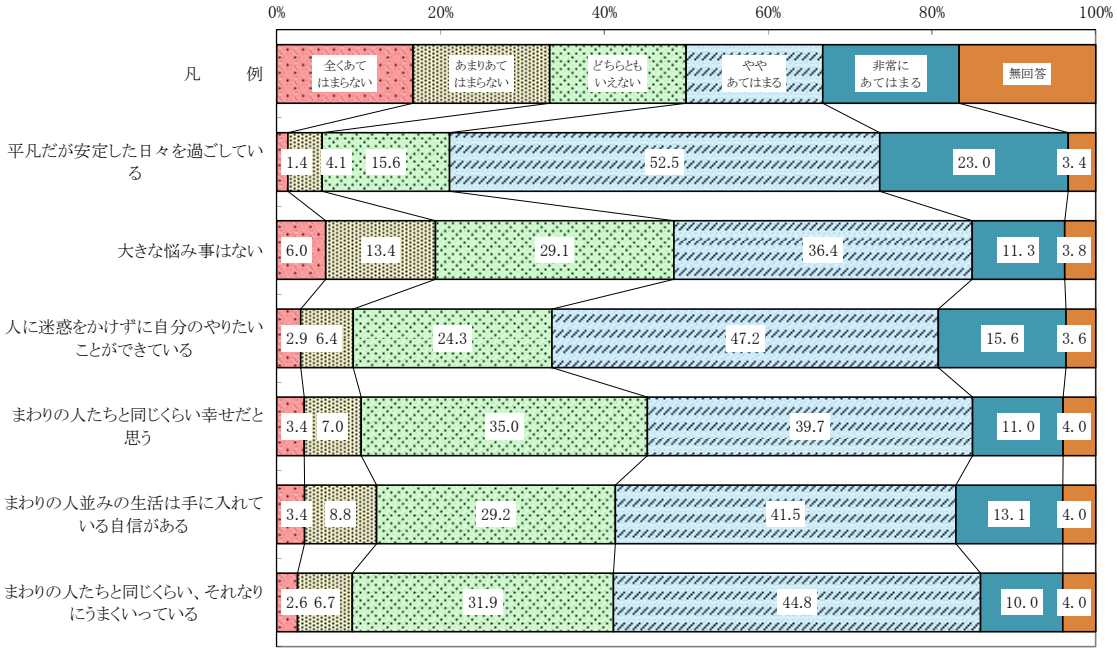
「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」が 62.8%、

「まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている」が 54.8%、

「まわりの人並みの生活は手に入れている自身がある」が 54.6%、

「まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う」が 50.7%、

「大きな悩み事はない」が 47.7%であった。



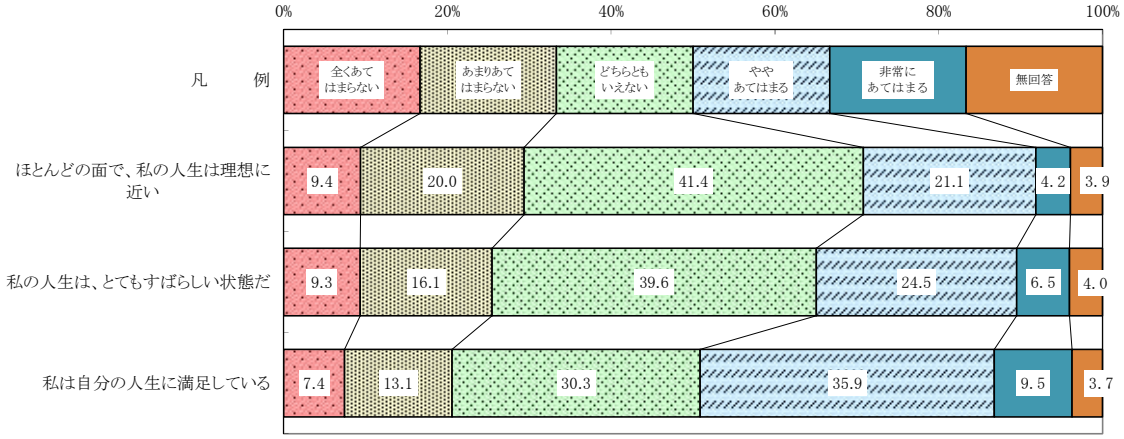
3,4,2③　幸福感や満足度＝心理的 well-being（問Ⅳ．B　コ・サ・シ）

「非常にあてはまる」又は「ややあてはまる」と答えた割合は、高い順に、

「私は自分の人生に満足している」が 45.4%、

「私の人生は、とてもすばらしい状態だ」が 31.0%、

「ほとんどの面で、私の人生は理想に近い」が 25.3%であった。



3,4,3　サポートネットワーク（問Ⅳ．C）

「少しいる」、「たくさんいる」又は「かなりいる」と答えた割合は、高い順に、

「ストレスを感じているとき、気を紛らわせてくれる人」が 52.3%、

「落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」が 51.3%、

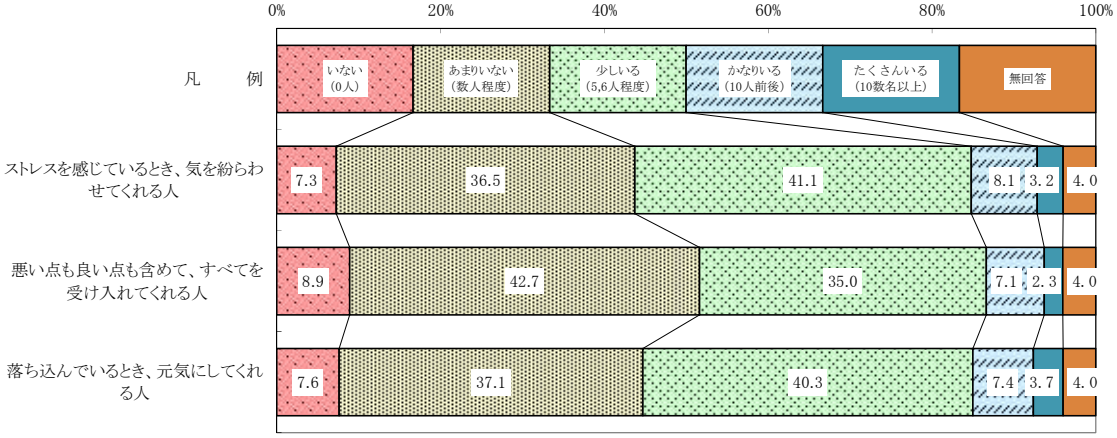
「悪い点も良い点も含めて、元気にしてくれる人」が 44.4%であった。

「いない」と答えた割合は、高い順に、

「悪い点も良い点も含めて、元気にしてくれる人」が 8.9%、

「落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」が 7.6%、

「ストレスを感じているとき、気を紛らわせてくれる人」が 7.3%であった。



3,5①　札幌のまちに対する考え（問Ⅴ.A　ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「ごみステーションがきれいである」が 66.7%で圧倒的に多く、次いで

「町内会などの地域活動がさかんである」が 24.8%、

「子ども生み育てる環境が整備されている」が 23.2%、

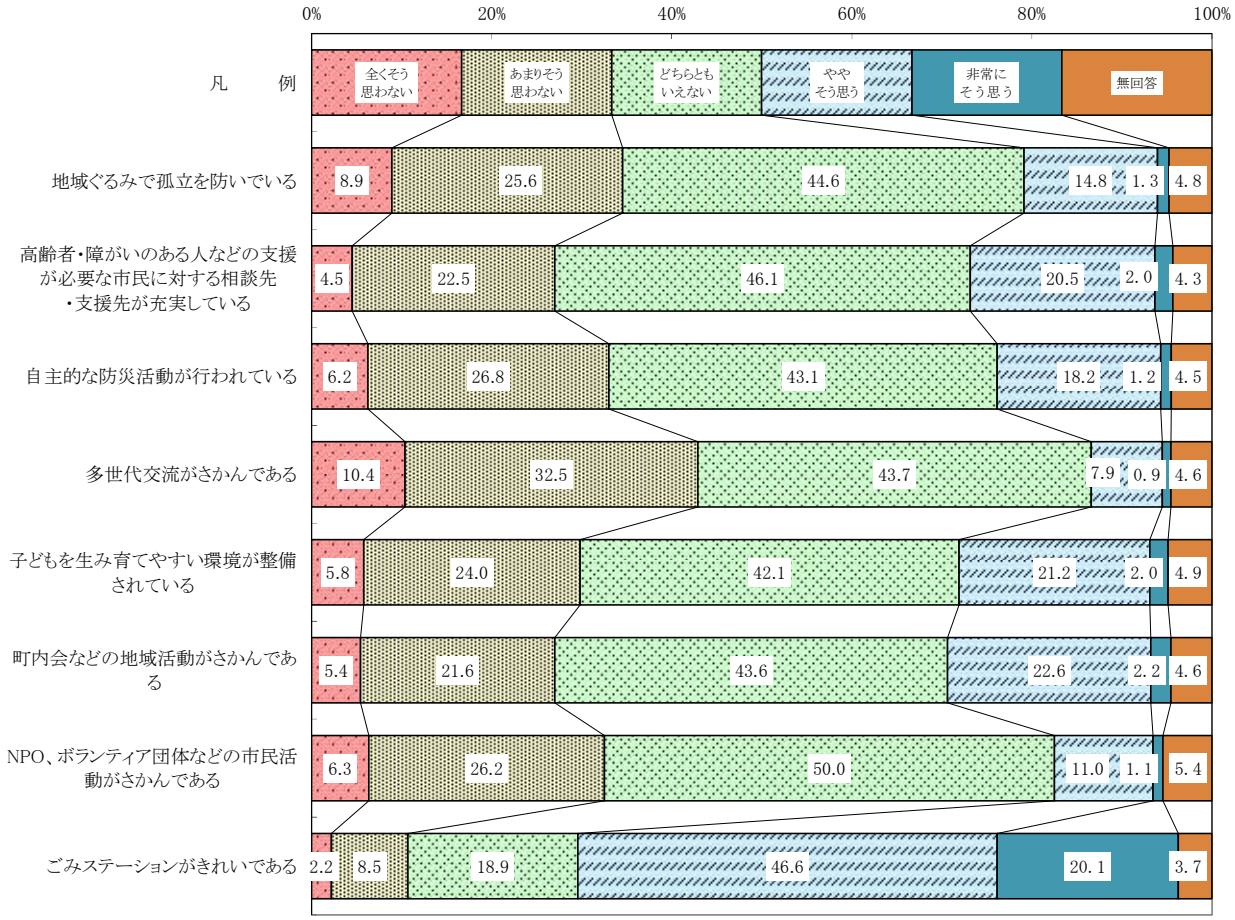
「高齢者・障がいのある人などの支援が必要な市民に対する相談先・支援先が充実している」が 22.5%、

「自主的な防災活動が行われている」が 19.4%、

「地域ぐるみで孤立を防いでいる」が 16.1%、

「NPO、ボランティア団体などの市民活動がさかんである」が 12.1%、

「多世代交流がさかんである」が 8.8%であった。

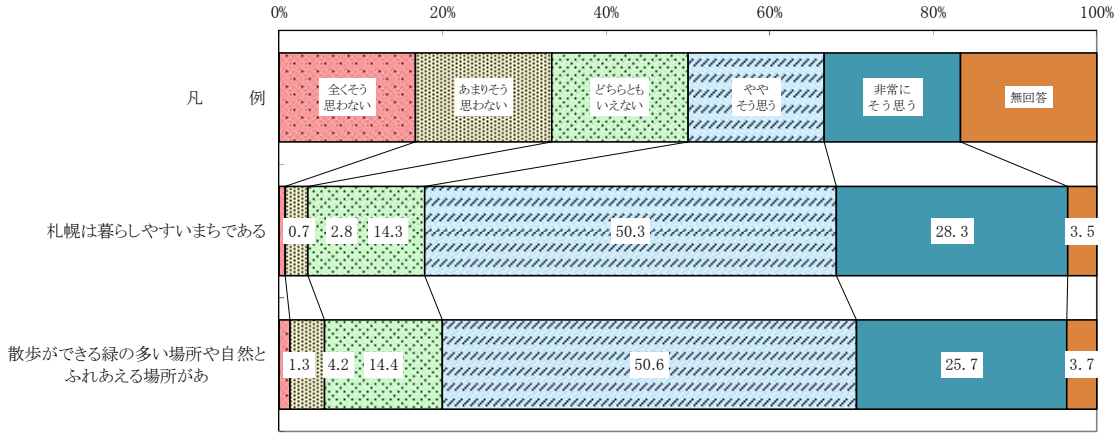


3,5②　札幌のまちに対する考え（問Ⅴ.A　ケ・ス）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「札幌は暮らしやすいまちである」が 78.6%、

「散歩ができる緑の多い場所や自然とふれあえる場所がある」が 76.3%であった。



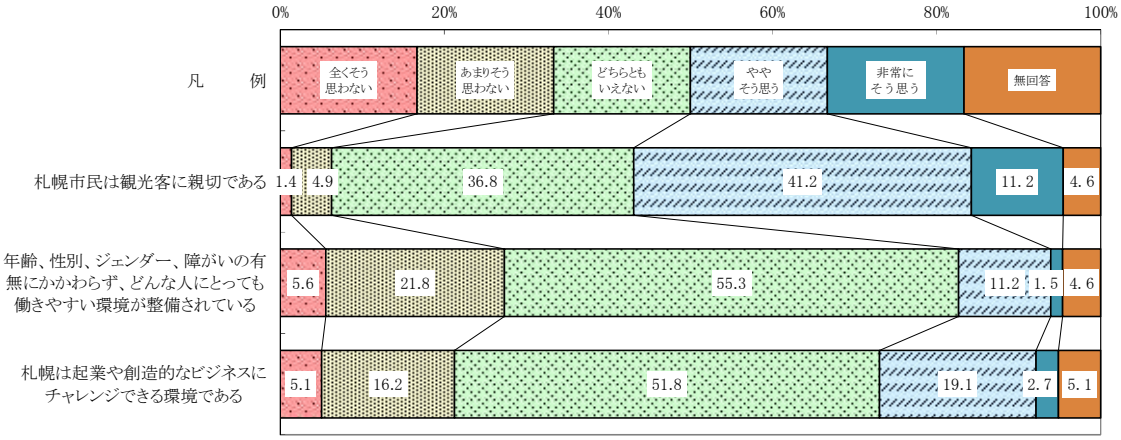
3,5③　札幌のまちに対する考え（問 V.A　コ・サ・シ）

「非常にそう思う」又は「ややそう思う」と答えた割合は、高い順に、

「札幌市民は観光客に親切である」が 52.4%、

「札幌は起業や創造的なビジネスにチャレンジできる環境である」が 21.8%、

「年齢、性別、ジェンダー、障がいの有無にかかわらず、どんな人にとっても働きやすい環境が整備されている」が 12.7%であった。



3.6　属性

3,6,1　日頃の情報源（問Ⅵ．ア）

「日頃の情報源」として利用しているものは、高い順に、

「テレビ（ワンセグを含む)」が 85.8%で最も多く、次いで、

「インターネットのニュースサイト」が 57.0%、

「新聞」が 56.4%、

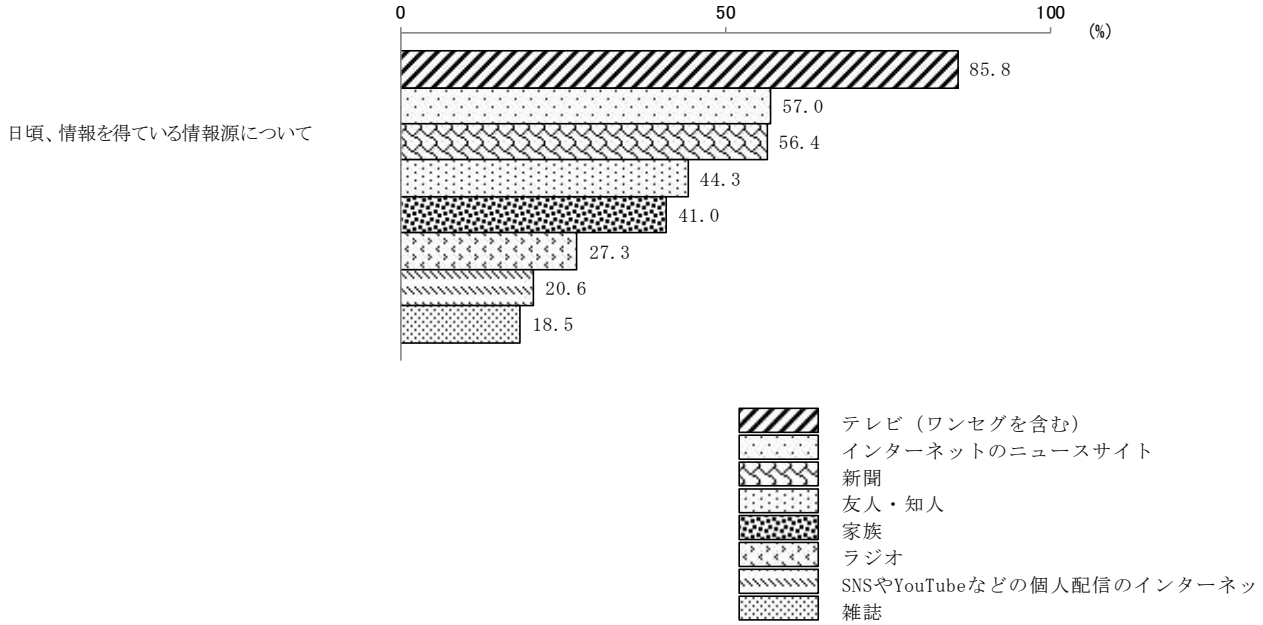
「友人・知人」が 44.3%、

「家族」が 41.0%、

「ラジオ」が 27.3%、

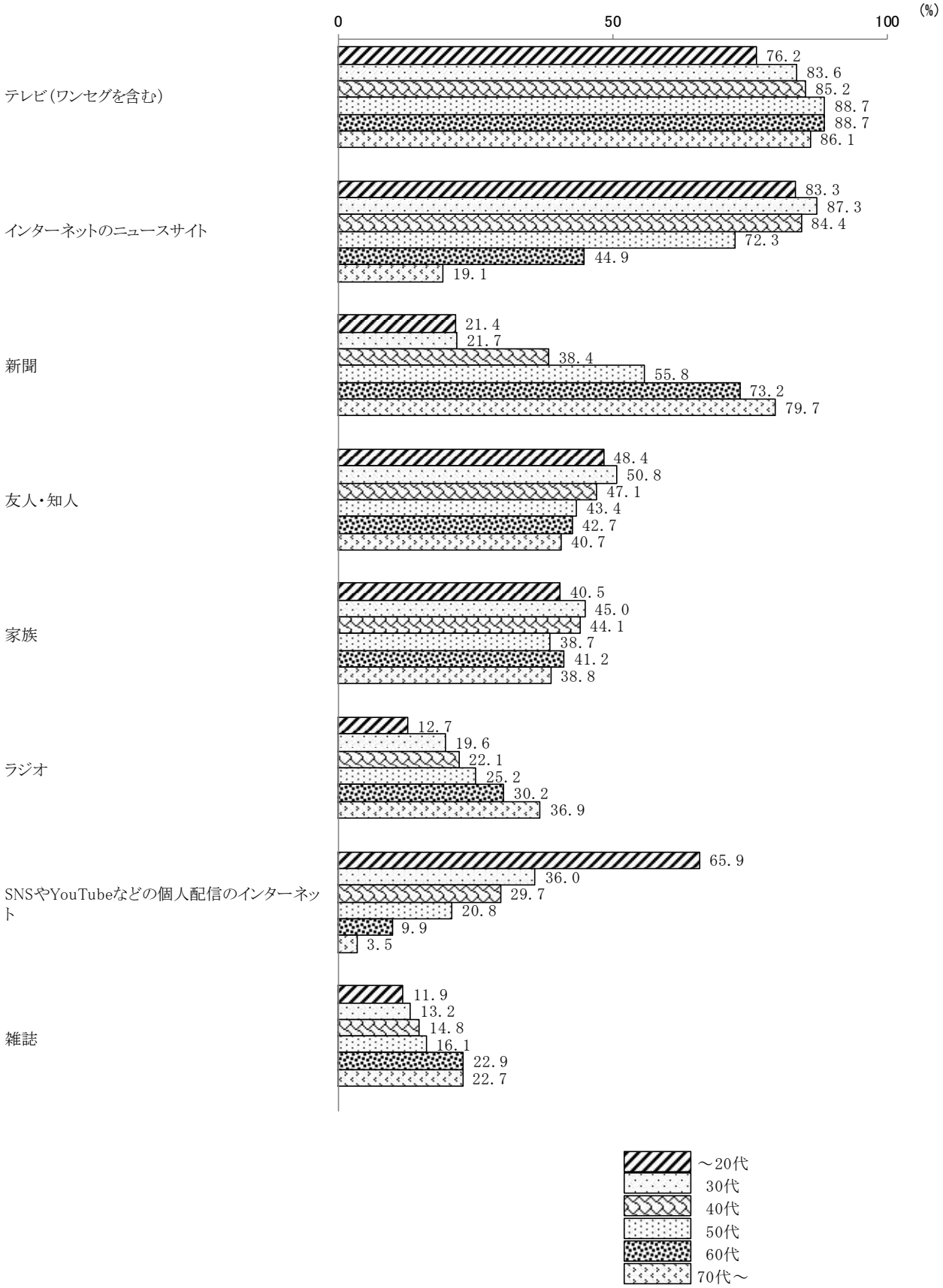
「SNS や YouTube などの個人配信のインターネット」が 20.6%、

「雑誌」が 18.5%であった。



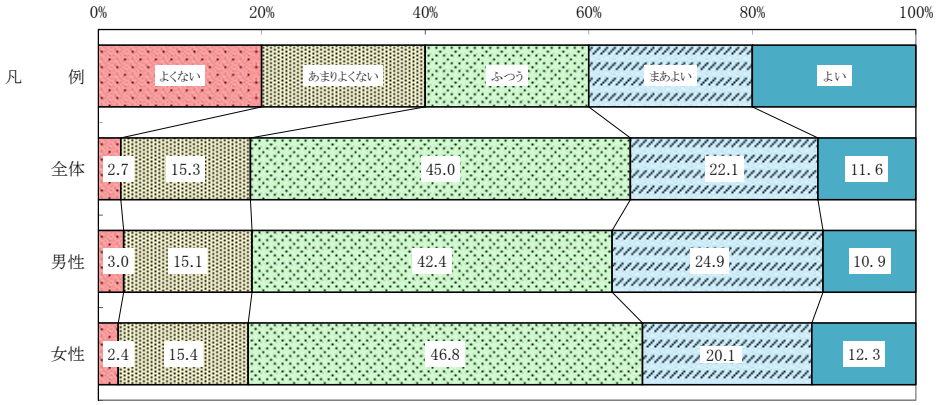
年代別では「テレビ（ワンセグを含む)」が全ての年代で相対的に高く、「友人・知人」や「家族」同様、世代での割合の違いはあまり見られない。

一方、「インターネットのニュースサイト」と「SNS や YouTube などの個人配信のインターネット」では、高い世代になるほど利用頻度は下がり、逆に、「新聞」、「ラジオ」、「雑誌」では、高い世代になるほど利用頻度が上がる傾向にある。

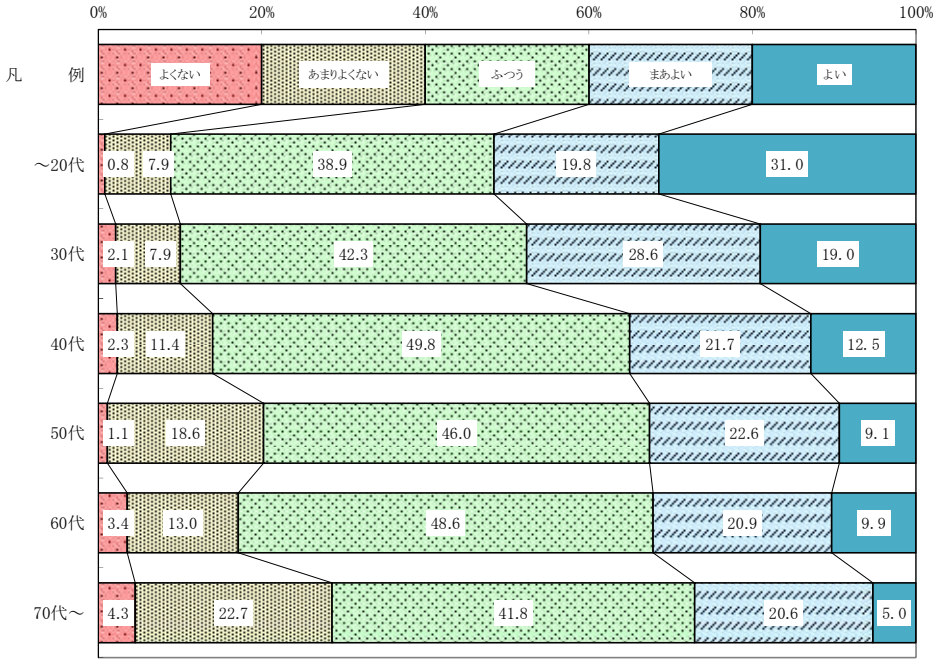

(%)
0
50
100
テレビ（ワンセグを含む）
76.2
83.6
85.2
88.7
88.7
86.1
インターネットのニュースサイト
83.3
87.3
84.4
72.3
44.9
19.1
新聞
21.4
21.7
38.4
55.8
73.2
79.7
友人・知人
48.4
50.8
47.1
43.4
42.7
40.7
家族
40.5
45.0
44.1
38.7
41.2
38.8
ラジオ
12.7
19.6
22.1
25.2
30.2
36.9
SNSやYouTubeなどの個人配信のインターネット
65.9
36.0
29.7
20.8
9.9
3.5
雑誌
11.9
13.2
14.8
16.1
22.9
22.7
～20代
30代
40代
50代
60代
70代～

3,6,2　健康状態（問Ⅵ．イ）

「健康状態」の項目では、「ふつう」との回答が 45.0％で最も多く、「まあよい」又は「よい」と答えた割合は 33.7％であり、特に性別の違いによる差は見受けられない。

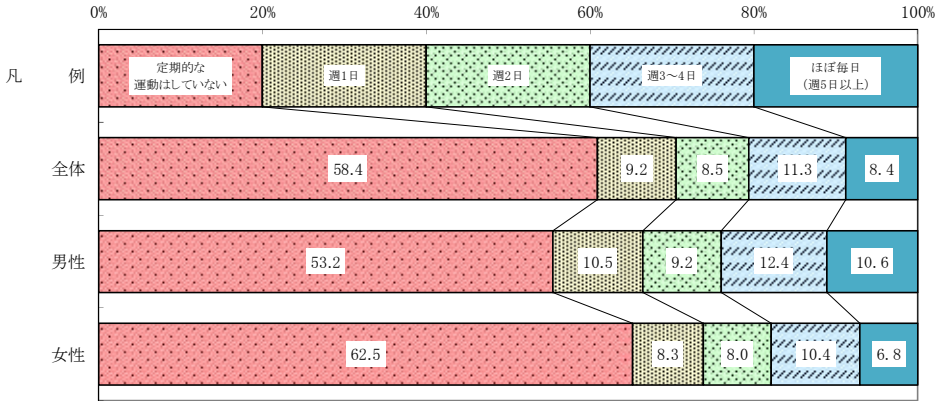


年代別では高い世代になるほど、「よくない」又は「あまりよくない」の割合が増える傾向にある。

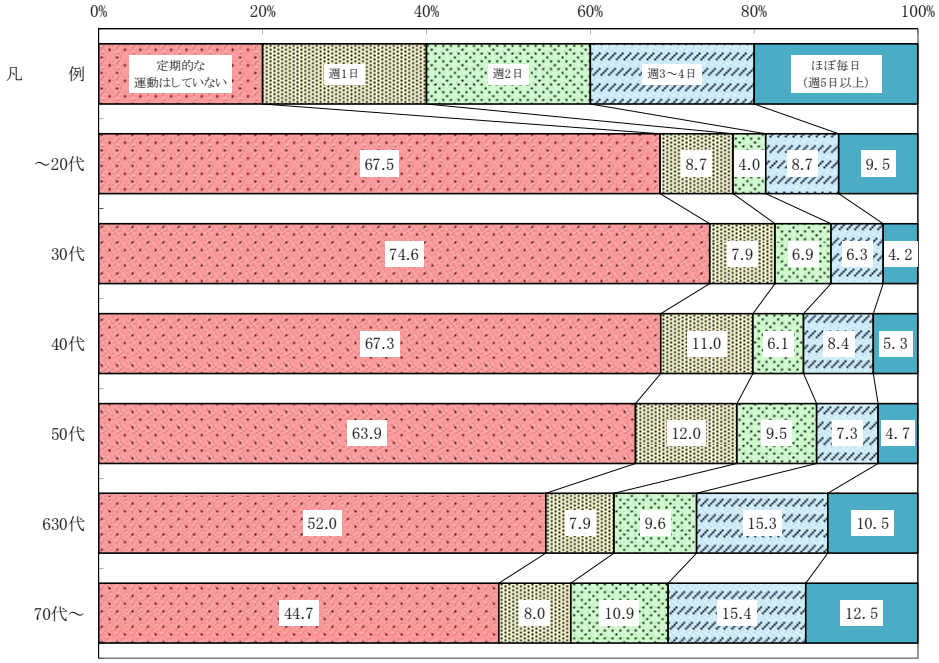


3,6,3　運動（問Ⅵ．ウ）

「運動」の項目では、「定期的な運動はしない」との回答が 58.4%で最も多く、また「男性」の方が、やや「女性」よりも運動をしている傾向がある。

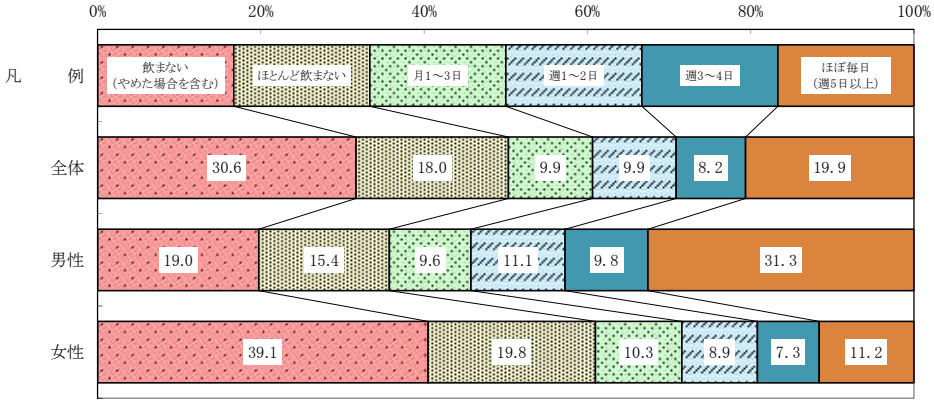


年代別では、30 代が最も「定期的な運動はしない」と回答しており、30 代よりも年齢が高い世代になるほど、運動をする割合が増える傾向にある。

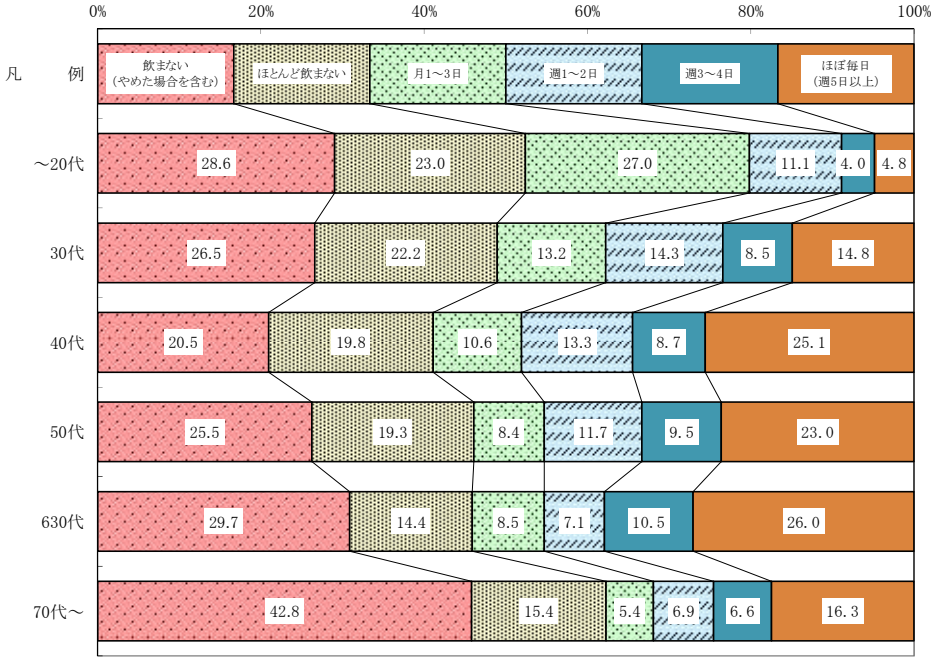


3,6,4　飲酒（問Ⅵ．エ）

「飲酒」の項目では、全体としては「飲まない（やめた場合を含む）」との回答が30.6%で最も多く、「女性」も「飲まない（やめた場合を含む）」との回答が39.1%で同様に最も多かったが、「男性」では「ほぼ毎日（週5日以上）」が31.3%で最も多かった。

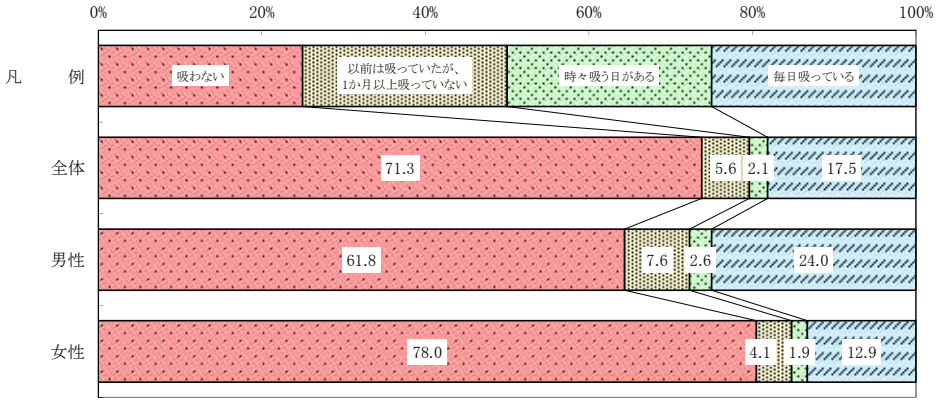


年代別では、40代だけが「ほぼ毎日（週5日以上）」との回答が25.1%で最も多いが、他の全ての年代では「飲まない（やめた場合を含む）」との回答が最も多い。

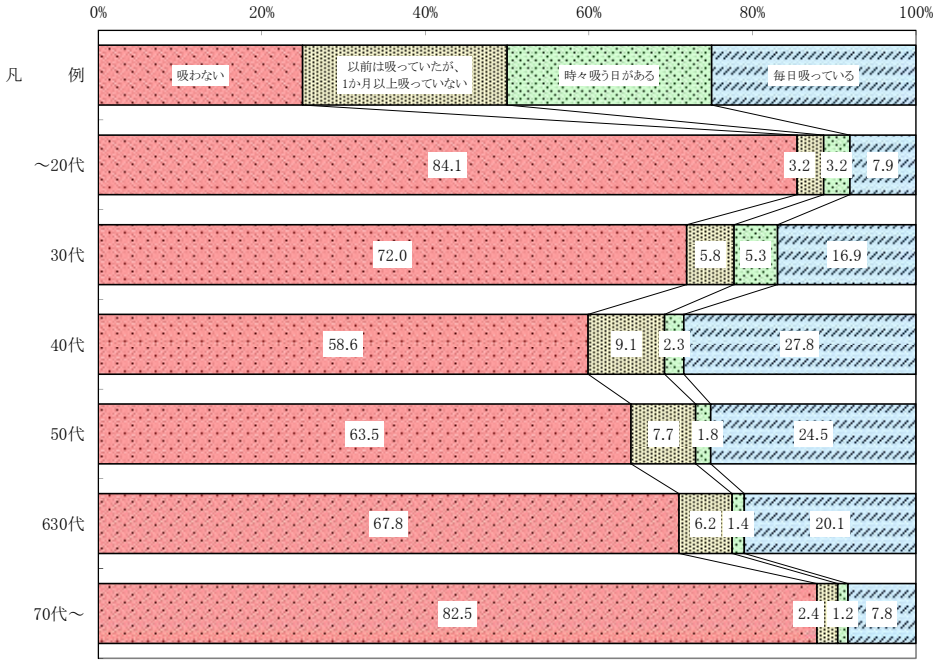


3,6,5　喫煙（問Ⅵ．オ）

「喫煙」の項目では、全体としては「吸わない」との回答が 71.3%で最も多かった。男性で、「毎日吸っている」又は「時々吸う日がある」との回答が 26.6%、女性では 14.7%であった。



年代別では、40 代で「吸わない」との回答が 58.6%で最も低く、40 代を中心に年代が高く、又は低くなるほど「吸わない」割合が高くなる傾向にある。



3,6,6　世帯年収（問Ⅵ．カ）

「世帯年収」の項目では、全体としては下記の通りの割合であった。

①200 万円未満　10.1%

②200～400 万円未満　27.2%

③400～600 万円未満　20.4%

④600～800 万円未満　12.6%

⑤800～1000 万円未満　7.9%

⑥1000～1200 万円未満　3.7%

⑦1200 万円以上　3.6%

⑧わからない　8.7%

⑨無回答　5.9%

なお、本調査では「世帯年収」を伺っている為、調査票を記入している本人の収入・年収ではない場合が多く存在している。

4,クロス集計

4,1　社会参加と社会関係資本

①「社会参加している人ほど社会関係資本が充実している」か

［社会参加：Ⅱ A×信頼・互酬性の規範：Ⅲ A］

［社会参加：Ⅱ A×信頼・互酬性の規範：Ⅲ B］

全体として、社会参加をしているほど、他者一般を信頼しているという関係が見られた。

例えば、「花植えや花壇づくりなど」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「イ　ほとんどの人は信頼できる」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合で 10 ポイント以上の差がついていた（付録 p.159,表 8,3,1,1②)。つまり、花植えや花壇づくりなどに参加している人はより人を信頼できると考えていた。

同様に、「町内会、老人クラブ、女性団体、子ども会などが開くバザーなどのイベントや交流会」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べ、「コ　お互いに助け合っている人々を見たら、私も困っている人を助けてあげようと思う」に「非常にそう思う」と回答した割合が 10 ポイント以上の高かった（付録 p.162,表 8,3,1,1⑩)。

また、社会参加をしているほど、組織などを頼れると評価している関係が見られた。例えば、「集団資源回収活動やごみ拾いなど」に参加している人は、「市役所・区役所、警察や交番等」に対して頼りにできる（「非常に頼りにできる」「やや頼りにできる」をあわせた数字）と回答した割合が、参加していない人に比べおよそ 10 ポイントの差が開いていた（付録 p.163,表 8,3,1,2①)。

同様に、「防犯・防災活動」に参加している人は、「ボランティア・NPO・市民活動団体」を頼りにできると回答した割合が、参加していない人に比べ 17 ポイントも高かった（付録 p.164,表 8,3,1,2④)。

②「社会参加している人ほど社会関係資本が充実している」か

［社会参加：Ⅱ B×信頼・互酬性の規範：Ⅲ A］

［社会参加：Ⅱ B×信頼・互酬性の規範：Ⅲ B］

全体として、社会参加をしているほど、他者一般を信頼しているという関係が見られた。

例えば、「環境問題について考える活動や勉強会（生ごみの堆肥化やリユース・リサイクルといった取り組みに関する講習会や集まりなど)」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「イ　ほとんどの人は信頼できる」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 20 ポイントの差がついていた（付録 p. 167, 表 8, 3, 1, 3②)。つまり、環境問題について考える活動や勉強会などに参加している人は、より人を信頼できると考えていると推測できる。

また、社会参加をしているほど、組織などを頼れると評価しているという関係も見られた。

例えば、「福祉や介護に関する相談や集まり（デイケアやピアサポートなど)」に参加している人は、「学校、病院、育児施設・介護施設（デイサービスなど)」に対して頼りにできる（「非常に頼りにできる」「やや頼りにできる」をあわせた数字）と回答した割合が、参加していない人に比べおよそ 15 ポイント以上の差が開いていた（付録 p. 170, 表 8, 3, 1, 4②)。

同様に、「趣味の活動（音楽や絵画、囲碁・将棋、華道・茶道、スポーツなど)」に参加している人は、「近所の人々」を頼りにできると回答した割合が、参加していない人と比べ 14 ポイント高かった（付録 p. 171, 表 8, 3, 1, 4⑤)。

③「社会参加している人ほど社会関係資本が充実している」か

［社会参加：Ⅱ E×信頼・互酬性の規範：Ⅲ A］

［社会参加：Ⅱ E×信頼・互酬性の規範：Ⅲ B］

全体として、社会参加をしているほど、他者一般を善良で親切であると考えているという関係が見られた。

例えば、「地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している」と回答した人は、そうでない人に比べて、「ウ　ほとんどの人は基本的に善良で親切である」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合で 10 ポイント以上の差があった（付録 p.174, 表 8,3,1,5③)。つまり、地域の花壇づくりや花植えなどの緑化等の社会活動に参加している人は、より人を善良で親切であると考えている。

同様に、「ごみの分別区分やごみを出す曜日を守っている」と回答した人は、そうでない人に比べ、「ケ　だれかに何かをしてもらったら、私も他の人に何かしてあげようと思う」に「非常にそう思う」と回答した割合が 12 ポイント以上高かった（付録 p. 177, 表 8,3,1,5⑨)。

④「社会参加している人ほど社会関係資本が充実している」か

［社会参加：Ⅱ A×ネットワーク：Ⅱ F］

［社会参加：Ⅱ B×ネットワーク：Ⅱ F］

［社会参加：Ⅱ E×ネットワーク：Ⅱ F］

全体として、社会参加、特に環境関連問題を意識した社会参加をしているほど、人的ネットワークの構築が出来ているという関係が見られた。

例えば、「環境問題について考える活動や勉強会（生ごみの堆肥化やリユース・リサイクルといった取り組みに関する講習会や集まりなど）」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「ア　地域でのご近所付き合いの方の人数について」という回答に「近所のかなり多くの人と面識・交流がある」または「ある程度の人とだけ面識・交流がある」と回答した割合で 43 ポイント以上の差がついており（付録 p. 185, 表 8, 3, 1, 8①）、普段から取り組んでいる環境保全活動において「町内の清掃活動など、地域の美化活動に参加している」と回答した人は、そうでない人に比べ、「近所のかなり多くの人と面識・交流がある」または「ある程度の人とだけ面識・交流がある」と回答した割合がおよそ 35 ポイントの差があり（付録 p. 186, 表 8, 3, 1, 9①）、「古紙などの集団資源回収活動に参加している」と回答した人は、そうでない人に比べ、同回答の割合が 20 ポイント以上の差があった（付録 p. 186, 表 8, 3, 1, 9②）。

また、上記とは逆に、社会参加をしていないほど、人的ネットワークの構築があまり出来ていないという関係が見られた。

例えば、「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）」に参加していると回答しなかった人は、そうでない人に比べて、「ア　地域でのご近所付き合いの方の人数について」という回答に「近所の人と面識・交流はない」または「近所のごく少数の人とだけ面識・交流がある」と回答した割合で 20 ポイント以上高かった（付録 p. 183, 表 8, 3, 1, 7①）。つまり、お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）などに参加していない人は、近所の人と面識・交流が少ないと推測できる。

同様に、町内会などが行う活動やイベントに「何も参加したことがない」と回答した人は、そうでない人に比べ、「イ　お隣やお向いに住んでいる方を知っていますか」に「まったく知らない」または「あまり知らない」と回答した割合がおよそ 30 ポイントの差があり（付録 p. 183, 表 8, 3, 1, 7②）、町内会以外での活動においても「何も参加したことがない」と回答した人は、そうでない人に比べ、「ウ　お住いの地域以外の友人や知人と

の会話等について」においても「まったくしない」または「めったにしない（年に1回～数年に1回程度」と回答した割合において15ポイント以上差があった（付録 p.185, 表8,3,1,8③)。

更に、個人的なメールやチャット、LINE等の使用頻度の多い人は、植物を育てたり美化運動に参加しないという関係も見られた。

例えばメールやチャット、LINE等の使用頻度が「ある程度頻繁にする（週に1回～月に数回程度)」または「日常的にする（毎日～週に数回程度)」と回答した人は、「家の庭やベランダなどで植物を育てている」と回答した人よりも13ポイント、「町内の清掃活動など、地域の美化活動に参加している」と回答した人よりも13ポイント、「地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している」と回答した人よりも16ポイント以上下回っている。更に言えば使用頻度が「ある程度頻繁にする（週に1回～月に数回程度)」と回答した人よりも、「日常的にする（毎日～週に数回程度)」にすると回答した人はこの傾向がより顕著に表れている。（付録 p.187, 表8,3,1,9④)。

⑤「社会参加している人ほど社会関係資本が充実している」か

［社会参加：Ⅱ A×サポートネットワーク：Ⅳ C］

［社会参加：Ⅱ B×サポートネットワーク：Ⅳ C］

［社会参加：Ⅱ E×サポートネットワーク：Ⅳ C］

全体として、社会参加をしているほど、サポートネットワークを構築出来ているという関係も見られた。例えば「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）」に参加している人は、「イ　悪い点も良い点も含めて、すべてを受け入れてくれる人」の存在について「たくさんいる（10 数名以上）」「かなりいる（10 人前後）」「少しいる（5, 6 人程度）」と回答した割合が、そうでない人に比べおよそ 10 ポイントの差が開いていた。（付録 p. 188, 表 8, 3, 1, 10②）。

同様に、「子育てに関する交流（親同士のお茶飲みや育児相談など）」に参加している人は、「ウ　落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」の存在について「たくさんいる（10 数名以上）」「かなりいる（10 人前後）」「少しいる（5, 6 人程度）」と回答した割合が、そうでない人に比べ 22 ポイントの差が開いていた。（付録 p. 189, 表 8, 3, 1, 11②）。

また、上記とは逆に、社会参加をしていないほど、サポートネットワークの構築があまり出来ていないという関係が見られた。

例えば､町内会などが行う活動やイベントの参加について｢何も参加したことがない」と回答した人は、そうでない人に比べて、「ウ　落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」という回答に「いない（0 人）」または「あまりいない（数人程度）」と回答した割合で 11 ポイント以上の差がついていた（付録 p. 188, 表 8, 3, 1, 10③）。つまり、町内会などが行う活動やイベントに参加していない人は、サポートネットワークにおいても脆弱であると推測できる。

同様に、町内会以外での活動において「何も参加していない」と回答した人は、そうでない人に比べ、「イ　悪い点も良い点も含めて、すべてを受け入れてくれる人」という回答に「いない（0 人）」または「あまりいない（数人程度）」と回答した割合で 14 ポイント以上の差がついていた（付録 p. 189, 表 8, 3, 1, 11③）。

更に、普段から取り組んでいる環境保全活動においても「地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している」と回答しなかった人は、そうでない人に比べ、「ア　ストレスを感じているとき、気を紛らわせてくれる人」において「いない（0 人）」または「あまりいない（数人程度）」と回答した割合でおよそ 10 ポイントの差がついていた（付

録 p. 190, 表 8, 3, 1, 12①)。また「環境問題に熱心に取り組んでいる生産者や販売店の商品を選ぶようにしている」と回答しなかった人は、そうでない人に比べ、「イ　悪い点も良い点も含めて、すべてを受け入れてくれる人」において「いない（0 人)」または「あまりいない（数人程度)」と回答した割合で 13 ポイントの差がついていた（付録 p. 190, 表 8, 3, 1, 12②)。

4,2　社会参加と心理的well-being

「社会参加している人ほど心理的幸福を感じている」か

［社会参加：Ⅱ A×心理的well-being：Ⅳ B］

［社会参加：Ⅱ B×心理的well-being：Ⅳ B］

［社会参加：Ⅱ C×心理的well-being：Ⅳ B］

［社会参加：Ⅱ E×心理的well-being：Ⅳ B］

全体として、社会参加をしているほど、心理的幸福感を得ているという関係が見られた。

例えば、「町内会、老人クラブ、女性団体、子ども会などが開くバザーなどのイベントや交流会」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「イ　周りの人に認められていると感じる」という回答に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した割合でおよそ13ポイントの差がついていた（付録 p.192,表8,3,2,1②)。つまり、町内会、老人クラブ、女性団体、子ども会などが開くバザーなどのイベントや交流会などに参加している人は、周りの人に認められていると感じていると考えられる。

同様に、「福祉や介護に関する相談や集まり（デイケアやピアサポートなど)」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べ、同じく「イ　周りの人に認められていると感じる」という回答に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した割合でおよそ15ポイントの差があり（付録 p.196,表8,3,2,2②)、また、「子育てに関する交流（親同士のお茶飲みや育児相談など)」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べ、「ク　まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある」という回答に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した割合がおよそ17ポイントの差がついていた（付録 p.197,表8,3,2,2⑧)

自然環境に関する社会参加においても、同様に心理的幸福感を得ているという関係が見られた。

例えば、「集団資源回収活動やごみ拾いなど」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べ、「キ　まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う」という回答に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した割合でおよそ12ポイントの差があり（付録 p.194,表8,3,2,1⑦)、「地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している」と回答した人は、そうでない人に比べ、同じく「キ　まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う」という回答に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と回答し

た割合がおよそ 14 ポイントの差がついていた（付録 p. 202, 表 8, 3, 2, 4①）、

また同様に、「家の庭やベランダなどで植物を育てている」では 12 ポイント（付録 p. 204, 表 8, 3, 2, 4⑤）、「環境問題に熱心に取り組んでいる生産者や販売店の商品を選ぶようにしている」ではおよそ 10 ポイントの差がついていた（付録 p. 205, 表 8, 3, 2, 4⑦）。

なお、社会活動に参加するようになったきっかけについて確認したところ、「家族や近所の方など知り合いに誘われて」を回答した方ではその幸福感の違いが見られたが、前述以外をきっかけに社会活動に参加するようになったと回答した人では、明確な幸福感の違いは見られなかった（付録 p. 199～p. 201, 表 8, 3, 2, 3①～⑫）。

4,3　社会関係資本と心理的well-being

①「社会関係資本が充実している人ほど心理的幸福を感じている」か

［信頼・互酬性の規範：Ⅲ A×心理的well-being：Ⅳ B］

［信頼・互酬性の規範：Ⅲ B×心理的well-being：Ⅳ B］

全体として、信頼・互酬性の規範を持つ人ほど、心理的幸福感を感じているという関係が見られた。

例えば、「世の中、持ちつ持たれつである」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「ア　自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ52ポイントの高い値を得ている（付録 p.208,表8,3,3,1①）。

同様に、「ほとんどの人は基本的に善良で親切である」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「エ　平凡だが安定した日々を過ごしている」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ61ポイントの高い値を得ている（付録 p.211, 表8,3,3,1④）。

また「お互いに助け合っている人々を見たら、私も困っている人を助けてあげようと思う」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「キ　まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ43ポイントの高い値を得ている（付録 p.214,表8,3,3,1⑦）。

②「社会関係資本が充実している人ほど心理的幸福を感じている」か

［ネットワーク：Ⅱ F×心理的 well-being：Ⅳ B］

［サポートネットワーク：Ⅳ C×心理的 well-being：Ⅳ B］

全体として、人的ネットワークの構築が出来ている人ほど、心理的幸福感を感じているという関係が見られた。

例えば、「ア　あなたのお住まいの地域では、ご近所で付き合いのある方はどのくらいいらっしゃいますか」との質問に、「イ）周りの人に認められていると感じる」での肯定的な回答で比較すると、前者の付き合いのある方が増える程その比率は高まっており、「4.近所のかなり多くの人と面識･交流がある（おおよそ 20 人以上)」の比率は、「1.近所の人と面識・交流はない（0 人)」の比率よりもおよそ 24 ポイント高い値を得ている(付録 p.233,表 8,3,3,3②)。

同様に、「イ　あなたは、お隣やお向かいに住んでいる方を知っていますか」との質問に、「カ　人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」での肯定的な回答で比較すると､前者の知っている方が増える程その比率は高まっており､「4.よく知っている」の比率は､「1.まったく知らない」の比率よりもおよそ 17 ポイント高い値を得ている(付録 p.237,表 8,3,3,3⑥)。

しかし､「ウ　あなたがお住まいの地域以外に住んでいる友人や知人（現在勤務している職場などでの付き合いは除く）について、普段どのくらいの頻度で会って話をしたり電話でやり取りをされていますか」と「エ　あなたは、個人的なことでメールや、チャット、LINE などでのやりとりを、ふだんどのくらいの頻度でしますか（一対一の個人的なものに限る。複数名同時に発信・受信するものは除く)」」との質問に、「シ　私は自分の人生に満足している」での肯定的な回答で比較すると、前者の場合は、話す頻度が増すほど満足しているとの回答率が高くなる傾向にあるが、後者の場合、メールや LINE での頻度が高まっても満足しているとの回答率が必ずしも高まってはいない(付録 p.243,表 8,3,3,3⑫)。

更に、サポートネットワークの構築が出来ていない人ほど、心理的幸福感を得ていないという関係も見られた。

例えば、「ア　ストレスを感じているとき、気を紛らわせてくれる人」、「イ　悪い点も良い点も含めて、すべてを受け入れてくれる人」、「ウ　落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」での質問に対して、「1.いない(0 人)」との回答をした人は、「キ　まわり

の人たちと同じくらい幸せだと思う」との回答で、「1. 全くあてはまらない」「2. あまりあてはまらない」で比較すると、他の選択肢を選択した人に比べ 15 ポイントほど高い値を示している。つまり、サポートネットワークの無い人は、まわりの人たちと同じくらい幸せだ。とは思っていない傾向にある(付録 p. 246, 表 8, 3, 3, 4⑦)。

また同様に、「ア　ストレスを感じているとき、気を紛らわせてくれる人」、「イ　悪い点も良い点も含めて、すべてを受け入れてくれる人」、「ウ　落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」での質問に対して、「1. いない(0 人)」との回答をした人は、「サ　私の人生は、とてもすばらしい状態だ」との回答で、「1. 全くあてはまらない」「2. あまりあてはまらない」で比較すると、他の選択肢を選択した人に比べ 20 ポイントほど高い値を示している。つまり、サポートネットワークの無い人は、自分の人生は、とてもすばらしい状態だ。とは思っていない傾向にある(付録 p. 247, 表 8, 3, 3, 4⑪)。

4,4　地域愛着・非所属感などと心理的well-being

①「地域愛着が高いほど心理的幸福を感じている」か

［地域愛着：Ⅳ Aア～ウ×心理的well-being：Ⅳ B］

全体として、地域愛着が高いほど、心理的幸福感を感じているという関係が見られた。

例えば、「自分が住む地域に愛着を感じている」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「ケまわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ63ポイントの高い値を得ている(付録 p.251, 表8,3,4,1⑨)。

また逆に、「自分が住む地域に愛着を感じている」「自分の地域の人々に親しみを感じる」「現在住んでいる地域に住み続けたいと感じる」との質問に「1.全くそう思わない」と回答した人は、「イ　周りの人に認められていると感じる」との質問で、「1.全くあてはまらない」または「2.あまりあてはまらない」との否定的な回答をした人の中では突出して多く存在している。つまりこれは、「イ　周りの人に認められていると感じる」ことが無い為に、現在、住む地域にも地域愛着が生じないのではないかと推測出来る。(付録 p.249,表8,3,4,1②)。

②「非所属感が高いほど心理的幸福を感じていない」か

［非所属感：Ⅳ Aセ～タ×心理的well-being：Ⅳ B］

全体として、非所属感が高いほど、心理的幸福感を感じていないという関係が見られた。

例えば、「社会から取り残されているという不安がある」「社会に属していると感じられない」「私は人から必要とされていないと感じる」との質問に「5.非常にそう思う」と回答した人は、「イ　周りの人に認められていると感じる」との質問で、「1.全くあてはまらない」または「2.あまりあてはまらない」との否定的な回答をした人が多く、非所属感を抱えている人は、心理的幸福感を感じていないと推測出来る。(付録 p.253,表8,3,4,2②)。

同様に、「社会から取り残されているという不安がある」「社会に属していると感じられない」「私は人から必要とされていないと感じる」との質問に「5.非常にそう思う」と回答した人は、「カ　人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている」との質問において、「1.全くあてはまらない」または「2.あまりあてはまらない」との否定的な回答をした人が多く、非所属感を抱えている人は、常に周囲の目を気にした生活を送り、心理的幸福感を感じていないと推測出来る。(付録 p.254,表8,3,4,2⑥)。

4,5　心理的well-beingと札幌市の印象・評価

①「心理的幸福感が高いほど札幌のまちを肯定的に捉えている」か

［心理的well-being：Ⅳ B×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

全体として、心理的幸福感が高いほど、札幌市に対して良い印象を持っているという関係が見られた。

例えば、「まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている」との質問に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と、「全くあてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答した人を、「オ 子どもを生み育てやすい環境が整備されている」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ42ポイントの高い値を得ている（付録 p.261,表8,3,5,1⑤）

同様に、「まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う」との質問に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と、「全くあてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答した人を、「コ　札幌市民は観光客に親切である」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ38ポイントの高い値を得ている（付録 p.266,表8,3,5,1⑩）

4,6　社会参加と札幌市の印象・評価

「社会参加をしている人ほど札幌のまちを肯定的に捉えている」か

［社会参加：Ⅱ A×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

［社会参加：Ⅱ B×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

［社会参加：Ⅱ E×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

全体として、社会参加をしているほど、札幌市を肯定的に捉えているという関係が見られた。

例えば、「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「カ　町内会などの地域活動がさかんである」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 13 ポイントの差がついていた（付録 p.271, 表 8,3,6,1⑥）。また、「防犯・防災活動」に参加している人は、そうでない人に比べて、「ウ　自主的な防災活動が行われている」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 18 ポイントの差がついていた（付録 p.271, 表 8,3,6,1⑥）。つまり、お祭りや防犯・防災活動などの社会活動に参加している人は、札幌市を肯定的に捉えていると推測出来る。

同様に、「子育てに関する交流（親同士のお茶飲みや育児相談など）」に参加している人は、そうでない人に比べて、「オ　子どもを生み育てやすい環境が整備されている」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 15 ポイントの差がついていた（付録 p.274, 表 8,3,6,2⑤）。また、「環境問題について考える活動や勉強会（生ごみの堆肥化やリユース・リサイクルといった取り組みに関する講習会や集まりなど）」に参加している人は、そうでない人に比べて、「キ　NPO、ボランティア団体などの市民活動がさかんである」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 17 ポイントの差がついていた（付録 p.274, 表 8,3,6,2⑦）。

更に、「地域の花壇づくりや花植えなどの緑化活動に参加している」と回答した人は、そうでない人に比べて、「カ　町内会などの地域活動がさかんである」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ 17 ポイントの差がついていた（付録 p.278, 表 8,3,6,3⑤）。また、「ごみの分別区分やごみを出す曜日を守っている）」と回答した人は、そうでない人に比べて、「ク　ごみステーションがきれいであ

る」という回答に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合でおよそ16ポイントの差がついていた（付録 p. 279, 表 8, 3, 6, 3⑧）。

4,7　社会関係資本と札幌市の印象・評価

「社会関係資本が充実しているほど札幌のまちを肯定的に捉えている」か

［信頼・互酬性の規範：Ⅲ A×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

［信頼・互酬性の規範：Ⅲ B×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

［ネットワーク：Ⅱ F×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

［サポートネットワーク：Ⅳ C×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

全体として、信頼・互酬性の規範を持つ人ほど、札幌市を肯定的に捉えているという関係が見られた。

例えば、「ほとんどの人は基本的に正直である」、「ほとんどの人は信頼できる」「ほとんどの人は基本的に善良で親切である」「ほとんどの人は他人を信頼している」「世の中、他人に親切にすれば必ず自分のためになる」「世の中、持ちつ持たれつである」との質問に対して「非常にそう思う」と回答した人の中で、「ケ）札幌は暮らしやすいまちである」との質問に対しても「非常にそう思う」と回答した人の割合は全てで 50%を超えた値である（付録 p.289, 表 8,3,7,1⑨）。

一方、上記と同じ質問に同じく「非常にそう思う」と回答した人で、「ケ）札幌は暮らしやすいまちである」での質問に対しては「全くそう思わない」と否定的な回答した人の割合は概ね 0%であった（付録 p.289, 表 8,3,7,1⑨）。つまり、信頼・互酬性の規範を持つ人ほど、札幌市を肯定的に捉えていると推測出来る。

同様に、「あなたのお住まいの地域では、ご近所で付き合いのある方はどのくらいいらっしゃいますか」との質問により多くの方と付き合いがあると回答した人は、「オ）子どもを生み育てやすい環境が整備されている」での質問に対して、「非常にそう思う」または「ややそう思う」での回答において、肯定的な回答をした人の方がより高い比率となっており（付録 p.309, 表 8,3,7,3⑤）、また、「あなたは、お隣やお向かいに住んでいる方を知っていますか」との質問と、「ク）ごみステーションがきれいである」の質問に対する回答においても、同じような状況となっている（付録 p.311, 表 8,3,7,3⑧）。

更に、サポートネットワークと札幌市の印象・評価に係る質問の集計においても同様な状況となっている（付録 p.317, 表 8,3,7,4⑨）。:

4,8　地域への愛着と札幌市の印象・評価

「地域への愛着が高いほど札幌のまちを肯定的に捉えている」か

［地域愛着：Ⅳ Ａア～ウ×札幌市の印象・評価：Ⅴ A］

全体として、地域への愛着が高いほど、札幌のまちを肯定的に捉えているという関係が見られた。

例えば、「現在住んでいる地域に住み続けたいと感じる」との質問に「5.非常にそう思う」または「4.ややそう思う」と、「1.全くそう思わない」または「2.あまりそう思わない」と回答した人を、「カ　町内会などの地域活動がさかんである」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ43ポイントの高い値を得ている（付録 p. 321, 表8,3,8,1⑥)。つまり、地域への愛着が高いほど札幌のまちを肯定的に捉えていると考えられる。

同様に、「現在住んでいる地域に住み続けたいと感じる」との質問に「5.非常にそう思う」または「4.ややそう思う」と、「1.全くそう思わない」または「2.あまりそう思わない」と回答した人を、「ク　ごみステーションがきれいである」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ55ポイントの高い値を得ている（付録 p.322,表8,3,8,1⑧)。

更に、「自分が住む地域に愛着を感じている」との質問に「5.非常にそう思う」または「4.ややそう思う」と、「1.全くそう思わない」または「2.あまりそう思わない」と回答した人を、「ケ　札幌は暮らしやすいまちである」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ76ポイントの高い値を得ている（付録 p.322,表8,3,8,1⑨)。

4,9　暮らしやすさをもたらすものは何か

「なぜこれほど多くの人が札幌は暮らしやすいまちだと感じているのか」

［札幌市の印象・評価：Ｖ Ａ ケ×札幌市の印象・評価：Ｖ Ａ ケ以外］

全体として、札幌は暮らしやすいまちだと感じている人ほど、札幌のまちを肯定的に捉えているという関係が見られた。

例えば、「札幌は暮らしやすいまちである」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「ク　ごみステーションがきれいである」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ 87 ポイントの高い値を得ている（付録 p. 324, 表 8, 3, 9, 1⑧）。

同様に、同じ「札幌は暮らしやすいまちである」との質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と、「非常にそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人を、「コ　札幌市民は観光客に親切である」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ 95 ポイントの高い値を得ており（付録 p. 324, 表 8, 3, 9, 1⑨）、「ス　散歩ができる緑の多い場所や自然とふれあえる場所がある」での肯定的な回答で比較すると、者は後者よりも 81 ポイント以上の高い値を得ている（付録 p. 325, 表 8, 3, 9, 1⑫）。

つまり、札幌市を暮らしやすいまちだと思っている人は、人や自然等のいろいろな要素を通じで札幌のまちを肯定的に捉えていると推測できる。

4,10　社会参加と地域愛着

「社会参加している人ほど地域への愛着が高い」か

［社会参加：Ⅱ A×地域愛着：Ⅳ A ア～ウ］

［社会参加：Ⅱ B×地域愛着：Ⅳ A ア～ウ］

［社会参加：Ⅱ E×地域愛着：Ⅳ A ア～ウ］

全体として、社会参加をしているほど、地域への愛着や地域の人々への親しみを高く感じているという関係が見られた。

例えば、「福祉や介護に関する相談や集まり（デイケアやピアサポートなど）」や「環境問題について考える活動や勉強会（生ごみの堆肥化やリユース・リサイクルといった取り組みに関する講習会や集まりなど）」に参加していると回答した人は、そうではない人に比べて、「ア　自分が住む地域に愛着を感じている」の質問に「非常にそう思う」と回答した割合が、どちらも 11 ポイント以上の高い値を得ていた（付録 p. 327, 表 8, 3, 10, 2①）。

また、「趣味の活動（音楽や絵画、囲碁・将棋、華道・茶道、スポーツなど）」に参加していると回答した人と「何も参加していない」と回答した人では、「イ　自分の地域の人々に親しみを感じる」かの質問に対して「非常にそう思う」または「ややそう思うと」と回答した割合では 21 ポイントの開きが存在していた（付録 p. 327, 表 8, 3, 10, 2②）

同様に、「お祭り（公園や神社などで開かれる小規模なもの）」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「イ　自分の地域の人々に親しみを感じる」の質問に「非常にそう思う」または「ややそう思う」と回答した割合が 19 ポイント以上の差があり（付録 p. 326, 表 8, 3, 10, 1②）、また、「町内会、老人ｸﾗﾌﾞ、女性団体、子ども会などが開くﾊﾞｻﾞｰなどのｲﾍﾞﾝﾄや交流会」に参加していると回答した人は、そうでない人に比べて、「ウ　現在住んでいる地域に住み続けたいと感じる」の質問に「非常にそう思う」と回答した割合におよそ 10 ポイントの差があった（付録 p. 326, 表 8, 3, 10, 1③）

更に、「ごみの分別区分やごみを出す曜日を守っている」と回答した人は、そうでない人に比べて、「ア　自分が住む地域に愛着を感じている」の質問に、同回答の割合において 15 ポイント以上の差（付録 p. 328, 表 8, 3, 10, 3①）、また、「古紙などの集団資源回収活動に参加している」、「家の庭やベランダなどで植物を育てている」と回答した人は、同回答の割合においてそれぞれおよそ 16 ポイント、19 ポイントの差があった（付録 p. 328, 表 8, 3, 10, 3②）。

つまり、上記より地域での社会活動等に参加をしているほど、地域への愛着があり、また。地域の人々への親しみもあると推測できる。

4,11　健康

「心理的幸福感が高いほど健康を感じている」か

［心理的 well-being：Ⅳ B×健康：Ⅵ イ］

［サポートネットワーク：Ⅳ C×健康：Ⅵ イ］

全体として、心理的幸福感が高いほど健康を感じているという関係が見られた。

例えば、「周りの人に認められていると感じる」との質問に「非常にあてはまる」または「ややあてはまる」と、「全くあてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答した人を、「イ　あなたの現在の健康状態はいかがですか」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ 77 ポイントの高い値を得ており（付録 p.330, 表 8,3,11,1①）、「私の人生は、とてもすばらしい状態だ」との質問に上記と同じように見た場合、やはり前者は後者よりも 81 ポイント以上の高い値を得ている（付録 p.330, 表 8,3,11,1①）。

同様に、「落ち込んでいるとき、元気にしてくれる人」がいるかとの質問に「たくさんいる（10 数名以上）」または「かなりいる（10 人前後）」と、「. いない（0 人）」または「あまりいない（数人程度）」と回答した人を、同じく「イ　あなたの現在の健康状態はいかがですか」での肯定的な回答で比較すると、前者は後者よりもおよそ 59 ポイント以上の高い値を得ていた（付録 p.331, 表 8,3,11,2①）

5,　自由記述

5,1①　市の政策への要望・苦情・期待（除雪）

除雪をしてほしい(車で走行出来なかったり歩きづらい) 道路に塩カルを散布するのを止めてほしい(車の寿命が短くなり経済的負担が多い。道路の傷みが著しく、補修に多額の税金を要するため) 札幌市内は慢性的に渋滞しているため道路の構造等を改良した方が良い。 幹線道路の違法駐車による渋滞を緩和させるため駐車帯を設けてほしい。
雪の多い地域なのでもっとマメに除雪作業を行ってもらいたい。家の前に雪のかたまりをおかれては朝出勤する時とても大変。
関係ないことかもしれませんが、観光、地域のことを考えるのであれば、雪対策に除排雪をしっかり行うことだと思います。北海道内では、交通機関が利用できず車での移動のみの方もいるので・・・
除雪に不満
冬の道路の除雪の雪の山の高さが高すぎます。交通事故がおきますよ。
札幌市長の言動を見ていると商人や建設業者への配慮優先で市民生活を見ていないようである。特に冬の除排雪は昔よりも悪くなっている実態である。 ①現在札幌市の除雪幅は3～3.2mとされている。これでは8m道路幅の場合、片側2.5mも積雪の状態となり、高齢者は除雪しないと道に出られない。 ②降雪量100㎜とか150㎜は圧雪にした除雪はマンホールの穴を生む。大体において除雪時にどうやって圧雪厚を把握して走るのか？ 市の方法は業者のご都合主義
都市計画の上からも地域での雪捨場の確保など対策が必要かと思います。
夏は道路はつぎはぎだらけ。がたがた。 冬は除雪排雪はいきとどいていない。郊外ほどひどい。 良い所といえば緑と公園が多いこと。
区役所、市役所に質問しても相手にしてくれないしとくに冬道の苦情は話を聞いてくれないし、すぐにやってくれないので、いつも車は渋滞してこまる ※雪道にまくのはやめてほしい、逆くに雪が、ザクザクになり走りにこまるし、あっちこっちでうまって走れなくなる　散布剤

札幌市の除雪車の除雪幅。法令に反している。

5,1②　市の政策への要望・苦情・期待（子育て・少子化政策）

高齢者の手当ではなく、他県のように中学生まで医療費無料など未来に向けた行政サービスを行ってほしい。またその際に子供の人数もちゃんと考慮してほしい。当然、子供 1 人よりも 2 人の方が手間も金もかかり、それが少子化に対する原因の 1 つであるのだから「子供はたくさんいた方が良い」と思わせる政策をとらないと、今後、札幌の未来はどんどん先細りになる。
子育てをしながら仕事をしています。もっともっと子育てしながらできる社会になってほしいです。
札幌市として、子育て支援事業として ・中学生までの医療無償化、又は給食費（小学校）は免除！ ・小学校 1 学級 30～35 名定員を望みます。
「おなかにあかちゃんがいます」のストラップ、もう少し大きくするか色を変えるなどした方がいいと思います。人がたくさんいる所に行ったらストラップをつけていても関係なくぶつかってきたりして来る人がいるので、見えていないのかなと思います。
小学生のカバンの中身が重たすぎます。置き勉を進めるには、どうしたら良いのでしょうね！

5,1③　市の政策への要望・苦情・期待（社会福祉・インクルージョン）

自分を否めて保守的な人が多い。札幌の街に特長が感じられない。元気なシニアの働き方（働く場）提供。介護の人達への給料アップ。介護へのスキルアップ。
また当然のことながら高齢化が進んでおり、郊外からますます中心部への流出が進んでいると思います。子供達の成長過程においても地域に赤ちゃんからお年よりまで居ることが重要かと思います。
障害福祉については多少ふれられていましたが、一般・健康体の人と障害等を持っている人の中間の働けないが認定をもらえる程ではない人の事は視野にないのだなと感じました。

我家の上階には引きこもりの主婦がいます。家族もあまり外出されないようで、その分、騒音がひどいです。ひきこもりの方のケアや、生活騒音に対する危機意識をもう少しちゃんとした対策をするべきです。でないと健康な人にも心身のストレスを与えます＝事件・事故にもなりかねません。その辺を充実させると住みやすい環境になると思います。
貧困で苦しむ子供達、老人達の為に多くの人達からしっかり調査して人並に生活して行けるようにして欲しいです。お恥ずかしいのですが私とは街でお見かけする体の不自由な方、車椅子の方等に手を添える位の力しかありません。
つい最近同じ町内会のアパートで孤独死の方がいました。民生委員の方はいると思いますし、町づくりセンターもすぐ近くですが、こちらから参加しないとまったく何をやっているのか分かりませんし町づくりセンターは市の職員の再就職先でしかないのでは。建物の改修し、立派になりましたが、一部の人達しか使用していないので、考える余地があると思います。 ※冬の札幌　雪を捨てるのに許可があれば公園に捨てられる事は大変いい事だと思います。中国のように公園も万人が楽しむ事ができる公園が欲しいです。近くの公園の半分以上は子供が遊んでいません。活用方法を再考を。
長寿命化が善とされる設問（社会）にそもそも疑問を感じています。よって子供嫌いではありませんが、子育てをしていません。人口はこの先、減って行くものと思っています。そんな中、住宅が増えている事に疑問を持っております。外国の方が入られてもこれからは当たり前だと思います。新しい時代を作るのは老人ではない！！と言うアニメのセリフがとても好きですし、高齢者優遇の現況にウンザリしています。全ての人を否定するつもりはないですが、全肯定するのが正しいとは思えません。俗に言うアラフォークライシスには明るい未来が描けていません。
・ジェンダーの問題を真剣に考えるなら、性別の欄に男女しかないのはどうにかすべき ・何か面白い事をしたい ・Wi-Fi をもっと広く、使いやすくしてほしい→公衆電話をつかって ・もっと話のわかる人が欲しい

・未成年にもアンケートをとるにもかかわらず、聞く側が未成年の目線が全くない。 ・多様性を本気で考える気があるのか。

5,1④　市の政策への要望・苦情・期待（地下鉄・公共交通）

この度はお世話になります。他者とのつながりの障壁となっているのは、北海道の場合、公共交通インフラの脆弱さが第一の課題であり、理由なのではないかと思います。離れたり戻ってきたりでありますが、あまり札幌に定住欲求が沸かないのは、街自体が常に迷っているように感じるからです。残念ではありますが。
敬老パスを有効利用させてもらってます
敬老パスに関し。年金生活者にとって交通費は負担大きい。全く無料とは言わないが現状の敬老パスをもっと安くし、年寄の行動範囲を広くしてほしい。それが健康にも社会協調の大きな支えになるはず（地下鉄等の乗車率が大きすぎるというのであれば仕方無いが）
清田区は唯一地下鉄が無い区だ！札幌の市政の不公平差がハンパない！早く秋元市長は退陣すべき！能力が無さ過ぎる！！自身の身の丈もわからず立候補すべきでは無い！
札幌市のまちづくりの考え方がよく理解出来ない。特に公共交通機関の連携が非常に悪い。　例：JR 琴似駅と地下鉄琴似駅が離れすぎ。
通勤でバスに乗り地下鉄を利用します。バスの本数を増やすなど交通機関の充実を望みます。平日の日中は高齢者の利用も多く、時間の遅れも困ります。便数が増えると緩和されるかと思います。
観光客じゃなくても住んでいる人にも不親切な街。地下鉄ホームに観光地への下車指示を出しても良いと思います。観光地じゃなくとも、下車ホームに行先案内を出すべき。看板（案内）が不親切。
冬の道路の混雑を減らしてほしい。交通機能がマヒしていると感じる。
高齢化社会、健康年齢等々、現象変化への適応力が著しく遅い町である。 例①）健康管理・維持のため、高齢者パスで乗車（地下鉄、バスなど）で外出する時、エスカレーター、エレベーターなどが少なかったり、なかったり、往路復路のど

ちらか１つだったり、高齢者にとっては、階段のつらさは苦しみに近いもの。 例②)路線バスの車が、JR バスは、低床で乗降ステップも低く安全。中央バスはステップが高く高床で狭く、年寄には非常に危険。高齢者はみんな同じ思いをしているはず。高速バスを路線バスに使っているためです。思いやりが、年寄に親切であってほしい。 例③)バリアフリーが遅れている。等々。 ４０年東京で仕事。5 年前に出身地札幌に帰還した高齢者より。
中心部から離れた場所だとバスが1時間に一本しかないので大変困っております。冬になると、１時半（平日）までの運行というのは、おかしい。もう少し増やすべき。17 時までなど…

5,1⑤　市の政策への要望・苦情・期待（ファイターズ・札幌ドーム）

ファイターズの新球場が札幌にできなかった事をとても残念に思う。
市長のファイターズ移転、その後の札幌ドームの活用、全く市民に説明がなく、納得いかない。市長選の出馬前に説明責任がある。市民が納得いく説明を！
札幌市は札幌ドームをどうするのですか？日ハムが北広島に行くのに。

5,1⑥　市の政策への要望・苦情・期待（市民生活）

観光関係者に注力しすぎる（札幌市は）もっと一般市民の生活に注力するべき。
観光客や外人にはやさしいが、住民税を払っている市民にはやさしくない。だからキライ。
このアンケートの調査目的の１つである“他者とのつながり”をどう思っているのかきいてほしかった 札幌市で暮らす市民がアンケートの最終目的である「生きる喜び」「幸せ」「心豊かで笑顔な時とは、どんな状態の時なのか、きいてほしかったです。 「他者とのつながり」「信頼性」がその目的にどれだけ影響するのか現在行われていることが、その一助になっているだろうと思いますが、それだけではムリであり、「安心して生活できる経済力が社会保障の充実」が一番大事だと思います。 一生けん命働き今も税金払っているのに、年金へらされ、消費税が up されようと

している。国保料介護保険料も高すぎ。市民の生活最優先の市政を望みます。

5,1⑦　市の政策への要望・苦情・期待（窓口が感じ悪い）

一番頼りになる区役所、警察などが色々不祥事を起こし、特に区役所の窓口は不親切だ。お役所仕事と思われる部分が多い。
区役所の窓口ではいつも不快な思いをする（対応）
札幌市民は親切であるが、引越ししてきた当初、地下鉄の乗り方がわからず地下鉄職員に確認したが、不親切な対応に驚かされました。一部の職員だとは思いますが・・・。 苦情受付窓口がわからず悔しい思いをし札幌を嫌いになった事を思い出しました。現在は住み良い街と感じております。

5,1⑧　市の政策への要望・苦情・期待（防災）

先日の地震の際、近所の東白石地区センターに太陽光パネルも屋根につんでいるのに、避難所にもなっているはずなのに、ずっと閉まったまま役目を果たしていなかったのが、すごく気になりました。ケータイも電波も悪くラジオも途中でこわれ、情報が新聞しかない中、地域の重要な場所だったはずなのですが・・・
防災活動を活発にする様にしてほしい。もし災害があった時、すぐに安眠が取れようにしてほしい。災害はいつ起こるかわかりません。備蓄をしてほしい。

5,1⑨　市の政策への要望・苦情・期待（税金の使途）

札幌市は飲食店を全面禁煙にするべきだ！それができないのにオリンピックなどナンセンス。
歩きタバコしてる人が多いと思いました。小さな子供の害になるのでやめて欲しいと思うけれど、ムリなんですかね。札幌がより良い街になればと思います。
税金を大切に使っていただきたく思います。ご自分の家計と同様に考えて頂きたい。修繕は小さい内にする事で長持ちすることは周知の通りと存じます。
最も重要なのは、札幌、北海道の税金の使い方 いくらコミュニケーションが取れていても生活費が無ければ意味がない

役所の各部署の税金の無駄遣い、予算を与える市で毎年ムダに使われムダな工事に消費され、高橋知事には何もできない 毎月発行しているコミュニティ冊子を殆どの若者は見てないしＭＳのポスト横に設置されたチラシ捨てに捨てられ税金が捨てられてるのと同じ。 ネット時代に冊子を配布するトンチンカンぶりだ。 国もそうだが進んでいる自治体に目を向け税金の使い方について早急に改善が必要である。

5,1⑩　市の政策への要望・苦情・期待（その他）

はじめてこのようなアンケートを書きました。勉強不足のため、どのような活動をされてるかわかりませんが、がんばって下さい。福祉、障害者支援にもっと力が入ればいいなと思います。特にそれに関わる労働不足、賃金の低さ。
私は中沼に生れ 80 年、農業で生活して現在に至る。一番不便なのは下水道が入っていない事。
札幌市より国がひどい。そこから変えないと。
こういった面倒事を増やさないで欲しいです。仕事ばかりでクタクタです。札幌市以前に国が変わるべき。
ホワイトイルミネーションは年々、気持ち悪くなっています。一番最初の頃のイルミネーションはきれいでした。しかし、スズランが建った頃からでしょうか、ピンクは品がなかった！クリーム色でしようと！外燈がスズランだった頃のノスタルジアを、ピンク色が突然ススキノ色に変り、その後、チカチカゲーム機とか猫も杓子もプロジェクションマッピング！(目が痛くて見に行けず)札幌はこう！！と言う独自目線に決められる人は居ませんか？上田市長さんは、そうでしたよ！お役所のそれぞれ担当の方々が一生懸命なのはわかりますし、頭が下がる時もあります。でも、浮かれず、子供達の生き易い環境、自然に近い美しさを構築してほしいです。
（救急車についての疑問です。） 他県から札幌に来て思う事は、サイレンを聞き道路脇に停車し行き過ぎるのを待って出発すると次の信号で追いつき、救急車は静かに交差点の中で止まっていま

した 緊急性をどう感じているのですか？マイクを上手に使い乗用車が止まってくれるのを待つのではなく積極的な安全走行に心がけるべきでは？千葉に研修に行った方がいいのでは…（救急車が交差点に入ります、通過します、ご注意下さい、ありがとうございますなど）
日々受動的に生活しているからかもしれませんが、市や区が行う行政施策について私の目に入ってくることはあまりないように思われます。インターネット等を用いた情報発信をより活発に行うなど、市民が市の行政に関する情報を得やすい環境を構築していただけると有難いです。札幌市がより良い自治体になることを願っております。
札幌市議会の内容が一般市民にわかりづらい。広報を読んでも理解できない。（市民と離れているように思う）札幌市は冬季オリンピックを招致することに反対、市民の意見を取り入れて判断すべきと思う。

5,2①　まちづくり・町内会・近所（近所付き合いがない）

転勤族で地域の事はほとんど存じ上げません。
地域の交流が少ないので答えに困りました。
1 人暮しなので離れて暮している人の事は判りません。
実態と希望がかけ離れている面も多々あると気付いた。札幌は都会だからなのか地域住民とのつながりが薄いと感じた。
マンション住いなので、お隣の方や上下の方と逢った時、おじぎをする程度です。近所の方とはつき合い等の問いがありましたが、マンション住いの人にはほとんどないのではと思いますが・・・
年齢的に参加しにくい質問がありました。30 年現在の地区に住んでいますが、町内会活動など昔から比べると、参加する住民の数も半分くらいに減り、周りは老人が多くなりました。自分も含めて。近所の空家などに若い家族が越してくると嬉しいものですね。
人口 2～3 万人の地域で育ちました。静かな街が好きです。3 年前に転勤でこちらへ来たので地域の結びつきはあまりありません。

返信が遅くなり申し訳ありません。最初の方の問いでつまってしまい・・・。子供達が独立した今、なかなか地域とのつながりがありません。子供を通してだったと痛感しています。
地域活動について、幼少期は参加していたが今はしていない、活動自体が行われなくなっている場合もあります。
介護者は社会とのつながりは無くなる。特に時間とお金は！

5,2②　まちづくり・町内会・近所（近所付き合いへの評価）

マンション暮らし、共働き（現在は退職）だった為、近所付き合いは全くと言っていいほどありません。マンションの集会にも参加していなかったので、災害時は特に近所のつながりが必要と感じました。
ご近所さんとの関係が希薄なことに気が付きました。なかなか自分から声をかける機会もないので、あまり交流が深まらないということになってしまいました。ただ、これから子供を産み育てる上で、地域の方々の温かな目があった方が安心だなぁと感じます。
他者とのつながりは別に必要としていない！！くだらないアンケートをするな！！
現集合住宅で隣人トラブル（警察が 2 回来ている）を実際に見る経験もし、近所付合は大切と思う反面、“こわい”と思う方が大きいです。

5,2③　まちづくり・町内会・近所（町内会の機能）

藻岩地区です。ゴミ出しは日にちを守らない。南区は広いですよ。
なかなか地域の会合に参加出来ていません
地域に対する設問に対して ・町内会の組織は連町の御用達し組織の様なもの。 ・町内会の役員が参加しているイベントは若い人が参加出来るものになっていない。 ・町内に住む若い世帯の要望を取り入ることが出来ていない。 ・町内役員で決めたことの経緯が周知されない。

町内会を数人の人達で運営している状態。役員は右へならいしている様に思える。不満を持っている人が多数いるのは事実。
同じ札幌市内であっても、区・町内に格差が出てきており、地域の人づきあいが難しくなってきています。ゴミ箱は、市からの助成金が出ないので、『ゴミステーションは網にしている』とか、お雛祭りの会と表して『大人の会です。子供は御遠慮下さい』との回覧グループが出来上がっていて、市からの助成金目当てに町内会がさかんのように表向き報告され、小中学生は道路でスケボー・サッカー・自転車乗り、犬の飼っていない玄関・車庫に平気で糞尿・いやがらせに近いものがあります。町内会の運営がおかしく感じられる。今の住居は 6 年目。町内会の人から自分達が狙っていたのに引越して来て気に入らないとの話もあり、皆々とは思いませんが、正しい事が通りづらくなってきています。
このアンケート調査は、町内会維持へ促進の目的が見えかくれするが、町内会の日常活動において「回覧板」「チラシ」などを班長に配ってもらう実態は止めるべきである。高齢者がアパートなどの雪も雨も降る階段を印刷物を持って回るなど言語道断だ。市の下請けに使うのは問題である！宅配便やＷｅｂを使う方向に行くべきだ。
町内会の活動なのですがみなさん積極的にしてくださってありがたいですが会のみなさんの言葉、態度は、若い方々はどんどんはなれていくと思います。 もっと参加しやすくしてほしい。ゴミステーションを何度も場所がなくなりしかもなくなってからの報告でした。マンションの方々のゴミ出しがきたないのにとても迷惑してます。一言相談くらいしてほしかったです。町内会費をもらっている以上、役員だけで決めないでほしい。
「町内会」が今、必要なのか？高齢化が進み、回り当番が負担となっています。清田区は除雪が遅く各自で一日かかりで終った頃ブルがきて重たい雪を置いていかれるのが 40 年間の苦労でした。 こういう方はパートナー除雪にも貢献しているので個人で（近所 10 軒ほど）契約していますがシーズン排雪を（契約で年 34000 程度）町内会費でも排雪費の割引してほしいですね

高齢社会となり、地域の力が必要とよく言われていますが、町内の動きを見ても、とても他人の力を借りて行くような状況ではないと思います。あまり他人の力を頼りとせず身体的にも精神的にも自分の力で充実した生活をして行きたいと思います。
町内会の活動推進、若い人の参加をどう促すか。施策が必要。地域の関りをいかにするのかがポイントか！
小さい頃は、他の市に住んでいました。子供も少子化の為か、町内での子供会活動がなく、児童館での活動が多く感じます。児童館ですと、そこに行う子供達が主の活動に感じてしまう為、子供達も行きたがらないのが現状です。町内の子供会の活動がないかも調べたり回覧をチェックしたりもしておりますが、今まで見た事がありません。 町内には、お年寄りの方が多いからだと思います。隣の地区では子供会活動があるようなのですが、参加しづらいです。何とか子供達の為に、地域で活動できるようにならないものかと願っています。

5,2④　まちづくり・町内会・近所（集いの場）

子供や老人等は、町内会、子供会等で参加したりで出来る行事や会などは有るが、一人暮らしの人(夫婦)はほとんど何もないか、何かあっても情報が少なく地域活動も行事も何も情報が無いに等しい。
年寄りが集う所がないので、ちょっと寄っておしゃべりするところがあるといいと思います。ちょっと集まる所が欲しいです。冬はほとんどの人は外に出ません。夏は外へ出て散歩したり花畑の草取しておしゃべりするチャンスも有ります。

5,2⑤　まちづくり・町内会・近所（市民のマナー）

公共の交通機関の利用時の乗客のマナーが悪い(特に混雑時) 他県から引っ越して来て本当に最悪な県だと思う。仕事でなければ住みたいとは一切思わない。アンケート以前にマナーやルールをあたりまえに守る「教育」をして下さい。
市役所が、組織や団体の数の多さや行事数の多さだけにこだわり、満足している

だけだとは思いませんが、もう少し「善良な市民意識の育成」（特におとな・年寄り）に務めた方が良いと思います。反道徳やルール無視などが「都会的」と勘違いしている人が多いようです。「思いやり」や「お互い様」がこの街では死語になりそうです。
札幌は自分中心の人が多いと感じます。例えば、大手スーパーでも従業員の方は客より自分の仕事優先、態度も悪い。同じスーパーでも東京辺りでは全然違います。その他色々な場所で人に接すると札幌はイナカなのだと感じます。失礼だと思わされることが多いです。なので、ずっと住みたいとは思いません。
北海道の人々は協調性が少ないでしょう(見てみないふり) 大阪の人は(広島、南の方)は、フレンドリーです ポリスも医者も悪いチームが多いでしょう(合わす人ばかり) 部下も上司のいいなりの人も多くて、はっきりと上司の悪さに自分はできません！！と市民のためにいう人は少ない。悪いことは悪いとはっきりといえる男らしい人はいないと思います(みなにげる)
自動車を運行する上で、マナーの悪い車が多すぎると近年感じます。近頃は、ウインカーを上げる車と上げない車、半々くらいの確率と思われます。危険なのは当前でありますが“失礼だ”と思います。みんなが気持ち良く運行したいですよね！何事もそうですが、顔が見られなければ何をしてもいいみたいな風ちょう、あると思います。人のわるいところです。
最近益々挨拶のできない、挨拶をしない人達が多くなっている。大人も小人も声を出して挨拶のし合える社会造りが大事だと思う。

5,2⑥　まちづくり・町内会・近所（その他）

地域活動についての質問がありましたが昨年 8 月に引越したばかりで何も参加していません。引越したばかりだと回答はそうなると思います。札幌に住んで何年ですか？の質問と合わせて今現在住んでいる地域にはどの位の期間住んでいるかを質問した方が良いと思いました。引越したばかりで参加しないのと、長年住んでいても参加しないのとは意味がちがうように思いましたので。
昔に比べて、住宅街も高齢者だらけになり、親も亡くなり、住宅も売ったりと近

所づき合いも、これからは、あまりなくなると思います。若い人達も、子供がいても共働きが多くなってきています。今の60代くらいの人がまだまだ元気なので、市で、子育ての手伝いやいろいろな活動を、小づかい程度だしてやらせてはどうかと思います。ボランティアよりやる人が多くなると思います。これからは近所づきあいは子供でもいなければ、なくなってくると思います。高齢者１人暮らしもますます多くなると思います。それをどの様にすれば良いのか課題ではないでしょうか。
40代後半の時に町内会の役員を経験しました。他の役員さんは全て20歳以上年上でした。自分と同世代や年下の人達は町内会の必要性を感じていないようでしたし、現役員の年上の方達は、役員のやり手がいないことを嘆きながらも、新たな提案などは受け入れず、何も変わらない。このままでは20年くらいしたら町内会は無くなると思います。町内会というものが今の時代に合っていないと思います。でも近所同士の助け合いは絶対必要だと思うのですが、町内会が無くなってどんなことが困るのか？それとも誰も困らないのか？何か良い方法がないのかと、どうせあたしみたいななんの力もない人間が考えてもどうにもならないとは思いつつ、考えています。 あと思うのは、何かあった時、行政のせいにし過ぎです。報道が悪いと思います。報道が行政のせいにしていいかっこするからです。なぜ通行止めにしなかったのかとか、そんなの自己責任だと思います。でも本当に困っている人は行政にだって相談に行きません。困ってることってお金のことしか無いと思います。お金があれば、そこそこの問題は解決できます。だから、困ってる人が行政に相談したってどうにもならないのです。そんな人を少しは助けてあげられるのが近所の人だと思います。なんか支離滅裂な意見でスミマセン。札幌は好きです。でもその札幌市が取り組んでいることとか、実際に自分に関係ないことは全く情報が入ってこないので、例えば設問のＶとか、なんともいえないという答えになってしまいます。
現在の札幌には、地方から移転移住した人、入学や就職によって住人となった人が多く、同郷者で集まる事や接する機会を大切にしています。（個人の意見ですが…）地域、町内などの繋りはもちろん重要ですが、時の経過にも色あせないかつ

ての仲間、同僚との絆は大切であり支えです。札幌は大好きな街です。ただ自分の生まれた故郷も大好きで叶うなら、戻って住みたいと思う事もあります。働く場が無ければ不可能ですね。 ※関係ない内容です。申し訳ありません。

5,3 札幌への親近感・愛着

札幌はとても住みやすい街だと思いますが、行政がしっかりしているとは限りません。
私は今年、市外へ引越す予定です。札幌はとても住みやすい街だと思っておりますが、このアンケートがよりよいまちづくりに生かされる事をねがっております。応援しております。
自分が日々の生活に追われている為、札幌のまちについてあまり知らない状況です。子供の進学が落ち着いたら、もう少し自分の生活や周りの環境にも目を向けたいです。
高齢者にとってデイサービス併設老人ホームの充実は有難く、札幌に愛着を感じている。
転勤が多いので定住しているという意識はありません。
札幌市はとても過ごしやすい都市だと感じています。他者とのつながりについては過干渉にならない事を願います。
札幌市は自然環境的にみても世界にまれな大都市だと思います。 この点を考えてまだまだ世界から人を呼べる都市にしてほしいと思います。
東京方面に住んでいる知人から「札幌の人達って、札幌に憧れている人がたくさんいるって事に気付いているんだろうか…」「ものすごくたくさんの人が札幌に知人が居るっていうことに羨ましがられているのよね」と言われます。札幌がとてもステキな街だということです。長男のお嫁さんが「札幌で生まれた人と結婚すると言ったら「いいなあー羨ましい！！」」と言われたそうです。
札幌は住みやすい街だと思います。更なる改善を目指して、先ずは近所→町内会→区→市へと地道な、かつ迅速な対応を常に市も我々市民も考え、意見を出し合って小さな気付きを実行していかなければならないと思います。各々が出来るこ

とを精一杯やらなければならないと思います。
札幌に住んで 10 年以上、住みやすいと思っています。昨年 9 月の大地震、ブラックアウトでは災害慣れしてない街とも感じたのは事実です。後に、中心部で、海外観光客がホテルから出され大通公園等にたくさん居たと聞いた時は大変驚きました。(事実関係はわかりませんが)
話は変わりますが札幌は街もあり、大自然(山)もあり、スキー場もあり、ステキなところです。
私も常々、札幌市の「まちづくり戦略ビジョン」のようなことが実現できないかと考えており、地域の子育て支援に参加したり、介護予防の講座をしたりしてきました。昨年、豊平（※地域）に「ふんわり糀らぼ（※店名)」という店を開店し、そこでいずれは子育て支援や、高齢者の一人暮らしの方などのサポートをしていきたいという思いがあります。私 1 個人の力は微力ですが、子育ての孤立、高齢者の一人暮らしの孤立などを防ぎ、多くの人が地域のつながりを持つことで心豊かに、笑顔で暮らしていけるサポートができればと考えております。頑張ってください。期待しています。

5,4 幸福感について

個人が感じる幸福感を分析する場合の対象範囲は広く深いと思われます。札幌市がどのようなまちとして認識されているのかの分析を超える広さと深さを有している調査項目との相関は得られるものなのか、大いに疑問ですが、思いもよらぬ解析が図られ、何か施策の具体化につながることに期待しております。
自分の価値観や幸福だけではなく、他の人の感じたり考えたりしていることを想像してみることが、大切なのかなと思いました。いろんな人の違いを楽しめる札幌になったら嬉しいです。
他の人と比較しての幸福度はナンセンスと思っている人なので質問はわかりません。
幸福感という言葉はどのような場面、状況でのことを差しているのかいまひとつわかりませんでした。生活について、人生についてなのか、人それぞれの価値観においての幸福感なのでしょうか。

地域の人々との関わりの中で見い出すことで感じられる人と、そうでない人。 その必要性を今は感じませんが、地域と協力しあって支えなければいけない人は沢山いると思います。

5,5 回答者の事情

実家に戻って 1 年と短いので、一部母がお世話になった地域の事を書きました。
生活保護で住んでます。
老人ホームに入っている人間に出す手紙ではありません。
育休中のため、1 年近く働いていないので、”今は”こう思うという項目があります。（働いていれば、そこにはチェックしていないです。）
高齢のため的確に回答できなかった部分があります。
年代が 80 歳以上ですので回答に少々困ることが有りました。
今は老人ホーム（有料）にいますが、札幌で仕事をした時の事を記入しました。
私は障害者で施設に入居しているので回答に迷うこと多く、一定していない事をおわびします。おだやかな時間の流れる町であってほしいと思います。
精神科に通院していて、パニック障害や対人恐怖症などの病気を持っていて、うつ病もあるのであまり参考にならないかも知れません。申し訳ありません。
病気で半身がマヒしていて外に出られません。その様な者にアンケートをとってもどうなのかと思います。
昨年 10 月に札幌に移住です（子供の近くに来ました）
まだ学生なのでわかりませんでした。
高齢のためあまり外出することがなく行動範囲が少ないためアンケートには充分なお答えができませんのでお許し下さい。札幌はみなのあこがれの街。住み良くますます良いまちになりますことを願っております。
認知症で薬をもらっている。もの忘れがひどい。家族と一緒でなければ一人では出かけられない。ジムに週 2 回連れて行ってもらっている。デイサービスに週 2 回行く。家族はすぐ近所に住んでいる。
下の階にすぐ苦情を言ってくる老人が住んでいる為、少しネガティブな回答になってしまいました。普通の人が住んでいればもっと良い回答が出来たと思います。

私は 57 歳。家族と絶縁して 17 年。お互いの生死も分からない状態です。2 年前に脳卒中を患い、半身麻痺の身です。他にも精神障害 2 級の障がい者です。現在、生活保護にてどうにか生きております。障がいのつらさに負け、死んでしまおうか迷っております。こんな私のアンケートなど参考になる訳ありません。
独身・マンション暮らし。町内会に入っていないので、正直”判らない”質問が多かったです。なので、参考にならないかも知れません。
最近引っ越して現在のところに住んでいます。まだ現住所の事は良くわかりませんが早く馴染みたいです。
私は携帯を持っていません。
副業しないと将来生きていけません。
マンション住まいのため、冬の除雪からは解放されましたが、その分、運動不足に成りつつあります。
固定電話、携帯電話、手紙だけが通信網の我が家。テレビで買いたい物があってもインターネットとかホームページをかの現代スマホも使えないので電話、ハガキも可にしてくれる様にしてほしい。
主人も私も（国民年金）で安くて困って居ります。2 人で今病院に通院して居ります。10 月に 10%になるので高くなるので困っています。8%でいいと思う。生活にも困っています。2 月で主人は 90 歳です。
生活は娘と住んでぎりぎりです。いつになったら楽になるのかなぁといつも思ってます。
80 代、携帯電話、パソコンを持たず過ごしてきたが、世の中の変化に伴い情報難民になる恐れがあると不安を感じている。
・家にいる方が楽なので、あまり催しには参加していない。 ・既存の友人とはネットを通じてボイスチャットでよく話す。 ・他人との関わりに対する欲求は以前よりも減っている。現状に満足してしまっているためと思われる。
82 歳になりますが、仕事をしています。毎日片道 40 分帰り 40 分歩いて通ってます。
アンケートの提出が遅れてしまいすみません。

結婚式で長崎に行っていて提出するのが遅れて申し訳ありません。
大変おそくなりまして申し訳ありません。
提出が遅くなり申し訳ありません。
現在 73 歳ですが夫と二人で私 60 歳からシルバー人材センターでの仕事をさせて頂いています。夏、期間剪定、冬囲いの作業です。 人生の後半は、とても有意義に過ごしています。 お客様と接しての日々、良い方々に恵まれて、後半人生良かったな。と感じています。
現在、老人ホームに入居していますが、ボランティア、世話係をやっています。 入居前は町内会班長も２０年やりました。
満８３歳、そろそろ晩年です。同年代の知人、友人の多くは死亡しました。オールドブラックショーを英語と日本語で口ずさむ事が多くなりました。
主人の母と昨年から住んでいますが無年金のため、病院代、デイサービス代、介護保険代もろもろと払ってます。生活保護は同じ区内に住んでるともらえないと聞きました。 何の楽しみもなく、母の為にパートに行ってる感じがします。何か方法はないものですか？広報さっぽろに相談窓口などお知らせください。
84 才の老婆には？古き良き日本は過去系ですね。人様に迷惑を掛けない様に一人暮しと戦っております。お役に立たず申し訳ありません。片目 0.03、乱筆お許し下さいませ。あたり前の事が通じない時代に成った事が良くわかりました。今の世の中の事を気づかせて頂きありがとうございました。
90 才。22 年前に 45 築のマンションに入居。管理組合理事長 10 年、町内会長 22 年。後継者が居ないので、まだまだ続きそうです。若い人が居ない。個人情報の守秘義務等でいろいろな活動、イベントが出来ない悩みがあります。妻を亡くして一人暮し。スマホなし、パソコンなしの化石人間ですが、未だ生きて行けそうです。200 万都市で街の中からシャンツェが見えるなんて、世界中にないでしょう。この街大好きです。

5,6①　アンケートについて（質問が長い、分からない、役に立たない）

質問Ⅰ-B　札幌市の在住期間が通算年数で良いのか迷いました。直近に住民票を札幌に移してからであれば9年です。
質問に対しての回答の表現に「しっくり」しないものを感じる欄がありました。
Ⅵカ）に「回答したくない」を追加してほしい。答えたくない方けっこういると思います。
「地域」の範囲があいまいで答えで迷いました＝札幌？区？町内？
質問多すぎ
全ての質問に回答せよとなっているが、無職の者にⅢのＢケは答えられないことなど、この調査の設計はなっていないと思います。市民税は無駄に使用しない様に気を付けて下さい。
家族全員の収入を聞いてどうするのですか？年金生活の人が 2 名、働いているのが 1 名です。同居しているのは 1 名ですがもう 1 名は病院生活です。このアンケートに意味はありますか？
78 歳　ちょっとむつかしいです。
「まちづくり戦略ビジョン」のアンケート調査としては、少子高齢化社会に地域社会として、どのような具体的対応が必要かの観点で項目設定してほしかった。また集計上のテクニックから五者一択となっているが、質問に対する回答が適合しない部分があった。（例「非常にあてはまる」「非常にそう思う」？）
アンケートを回答して、ポストに投函したことによって、こちらに何かメリットはあるのでしょうか？疑問です。
回答にわかりずらい所がありました。ⅠA 住居の形態－戸建住宅(主人の名義)。自家用車の有無(主人の物)
年寄りなのでわからない言葉があった。例えばジェンダー等
調査票の内容を見て年齢的(94 歳)にお引受けすべきでは無かったかなーと思いました。矛盾している所が有る書き方をしている様です。お許し下さい。
お酒は酒量を入れた方が良いと思います。(私の場合は食前酒として 135ｍｌを飲みますので)
アンケート結果は、どのように使われるのですか？具体的な説明がされてないのでわからない。

アンケート結果は、発表されたり報告とかはあるのですか？ 何人くらいの人数のアンケートを取っているのですか？
質問Ｆのアですが、「面識・交流」という表現が、面識及び交流なのか、面識あるいは交流なのか不明確でしたので、面識あるいは交流と理解して回答しました。
質問の内容がやや老人向けな気がしました。
アンケートの妥当性を出す為には仕方ないかもしれないですが、項目が多すぎてやる気をなくすと思う。質問項目が多いと回収率が悪くなるというのは基本的な事だと思う。ただ札幌をより良く住みやすいようにと尽力して下さってありがとうございます。
個人の健康、酒、タバコは何に関係あるのか？
質問に矛盾している所があり、分かりずらかった。
Ⅲの B「職場の同僚」: 退職して 20 年になる場合、無記入でよいと思うが、それとも今も交際している人について記入すれということか。過去の体験を記入すれということか。 ⅠA「職業」: 定年退職後と無職、20 年前に定年になっても定年退職後なのか。そう思って記入したが。
くだらないアンケートはやめて下さい
質問の内容が理解できない所が数個ありました。
Ⅴ.A　自分の住んでいる地域以外のことはなかなか把握できない。 Ⅵ. ウ)は季節によって異なる点も回答できる方がよい。
例えのところで、あまりいない、少しいるとの表現だと答え易いが、() の中の数字とは認識が異なって（作成した方と）かえって返事がかきにくかったです。設問が難しいですね。
思う思わないでなく、分からない事が多い
すみません。回答に困ったものがいくつかあったので全ては回答できませんでした。
他人のみで考える事なのか、家族なども含めて考える質問なのかがよくわからなかった。
どちらとも言えないのではなく、よく分からない、若しくは、それを知らないと

言う事で③に丸をつけました。幸福感等に関する質問は気持ちが悪いですね（笑）
幸福感、満足感など人によって感じ方はさまざまです。具体的に書く欄があったら良かったかと思いました。
すべての人が同居者や家族と同居の前提とした回答になっており、一人世帯への回答も配慮頂きたい。
Ⅲ～Ⅴの質問項目がやや冗長と感じました
年収の欄が必要なのはわかりますが、情報管理の点から記載を控えさせていただきました。市役所で検索するよりも自分で書いてもらった方が楽ですよね。
問Ⅳの（エ）の質問内容が変ですね。
あなたの町についての質問について、各団体をそもそもよく知らないので③にした。質問がわかりづらかった。
Ｂ，イ）の問題で、頻繁に使用している所と最寄の停留所は違うので回答に困りました。
質問に対して答え方が分からないものもありました。
ⅣB ですが、「まわりの人たち」と自分の事を比べて考える事はないのでよく判りません。ⅣC は家族を含みます。
すべての質問に回答を要するとされてますが、P.3 の最下部、P.4 の最下部二問については、回答不能でした。
はじめの質問で、住居の形態を尋ねていましたが、「自己所有」の自己はどこまで含まれるのか？我家は夫名義の住宅を所有しているが、解答者である妻の私の自己所有ではない。その辺をもう少しわかり易い、答え易い表記にして頂きたかった。質問の意図として「その他」ではないと思い、「自己所有」に Check 入れました。
私は、地域で民生委員、青少年育成委員、スポーツ推進委員をしているのでⅡの A・B の答え方が、自分個人か上記活動も含まれるのか答えるのにちょっと悩みました。
地域の範囲をどのくらいを想定しているのかわかりにくかったです。
心理テストみたいで気持ち悪いです。
マンションに住んでいるため、ご近所付き合いはマンションの住人。お隣やお向

かいに住んでいる方もマンションの住人と仮定して回答しています。マンション建物のお隣やお向かいに住んでいる方を対象としていません。
このアンケートは他者とのつながり・・・という出発点なので、常に他人を意識しての質問ですが、普通考えてもいない”人より幸せか？”という質問にはどこに〇をつけて良いか？又、どこに〇をつけて良いか分からない質問が多数有り、アンケートとして役立つか疑問です。チグハグな回答もありますがご理解下さい。
税金をバカバカ取って、こんなくだらない質問アンケートは止めてもらいたい。
ⅢB で家族がいない、退職しているので職場の同僚がいない等、答えられない設問がある。Ⅴについては「札幌のまちについて」となっているが、地域のことならある程度答えられるが、全体についてとなると実質わからない。
この回答は何のためのものなのか不明。“まちづくり”につなげる質問が少ないと思う。収入とか何に関係があるのでしょうか。意味を感じない。質問が多すぎる。
正直、信頼、善良、助け合い、私利私欲等は、個人の性格、環境によるものではないでしょうか。その性格までは考えられません。
Ⅳ B 幸福感や満足度についての質問において、“まわりの人”という意味や捉え方がよくわからなかった。そもそも他人と比較することではないのではないかと感じた。孤独を恥ずかしいと感じる世間の風潮がある。人間は一人では生きられないが自立や自律をすることも必要で誰かとつながり、何かに頼ることを当たり前と思いたくない。孤独を引き受け、社会ともつながり、バランスよく生きれたらいいなと思う。
質問の仕方がとても変。解答しがたい質問です。(例 AⅢ、ⅣB) 他人と比較して何々とか言う事で、質問が主体的に考えて答えられないので何とか印をつけましたが、質問に疑問を持ちました。人との関わりは「何かをしてもらったら、私もする」と言うものではなく、自分はどうするかと言う事で動いているのではないでしょうか？質問事項に問題有りと思いました。「他者とのつながり、多様性・信頼」と言うコンセプトは良いと思いましたが、そう言う面で残念な気がしました。
Ⅳの設問の意味が全く分かりません。特に記載のない場合は、とはどういう事でしょうか？

私は単身者で、2018 年夏に施設入居しましたのでアンケートに答えづらい内容でした 個建に移住していた時と現在と混在した考え方を記入してしまいました。 年齢層が幅広いので回答に？の部分もありました。年代別のアンケートのとり方を考えてみた方がいいのでは？すべての年代に共通する内容でないと思いました 今後も、アンケートには参加してみたいと考えてますが、私は施設入居してますが同居人の介護の為に、私も施設入居したものです。

5,6②　アンケートについて（調査結果を公開・公表してほしい）

このアンケートの結果とそれが今後どのように反映されていくのかが知りたいです。
より効果的な施策反映へ向けた分析を行った上で、結果報告を希望します。
このアンケート調査の分析結果やそれを受けて札幌市の何らかの施策に反映されるものがあるのか気になったので、時間はかかると思いますが開示される機会があれば良いと思います。
このアンケートの集約結果を必ず知らせて下さい！
調査の結果に関する論文、報告等の開示（無料公開）を希望します。
このアンケートの集計結果は、どちらかで開示されるのでしょうか。又、アンケート対象は無作為に、とありますが、回答の有無を問わないとして、どの位の規模で調査を実施したのか気になりました。

5,6③　アンケートについて（アンケートへの評価・期待）

町作りのために自分の意見が参考になるかわかりませんが、今後必要な施策等の考察にお役に立てられたらと思います。
札幌のよりよいまちづくりのために様々な意見を取り入れていただければと思います。
より住みやすい街になるきっかけとなるよう期待しています。
アンケートに参加できて光栄です。格差、個人差が大きいと思われる質問も多く見受けられましたので、自分の現状を振り返り、改めて感謝の念がわきました。

札幌がより良い町となり、多くの方が幸せを感じられますことを祈念致します。
データの集計、大変な作業だと思いますが頑張って下さい。関係各所の皆様のご活躍を期待しております。
面白かったです。
こういうダイレクトな意見の収集は◎だと思う。
大変ありがとうございました。つたない返答で申し訳ございません。さまざまな事が早いスピードでかわっていく世の中（時代）にあって、正直とまどい等があります。が、身近な地域の方々とも、又、家族も大切にしたいと、あらためて考えさせられました。”ふるさと札幌”、市民としても、輝く、人にもなれるよう人生を歩んでいきます。これからも期待しております。
アンケートの作成にご苦労されたことでしょう。解答者の心に惑いを感じる作問もあり、とまどいを感じました。しかし、それが良心的な思いに訴える作問でないかとも考えます。統計の結果に興味と感心(関心)をもっております。現代の人々は、性善談を信じている人々が減少しつつありますが、結果を生かしたいものです。一人を信ずる交流が大切と思います。
少し、ネガティブな質問があり嫌だった。人と比較をするような文章が嫌。このアンケートをしたからといってすぐに改善は出来ないですし、難しいことだと…思っています。
アンケート、自分のほしい答えをもとめている物

5,6④　アンケートについて（アンケートへの回答による気づき）

すごく良いところを突いてくるアンケートで複雑でしたが、自分が今どういう状況か客観的に見ることが少しできたなと思いました。ありがとうございました。いろんな企業がもっと増えたらと思います。
アンケートに答えてみて、地域のことは知らない自分がいることに気づいた。そして仕事中心の生活なので生活範囲が狭い。このまま年を重ねた時に何が残るのか。自分自身の存在は職場にしかないのではないかと感じた。基本的に他人は信用できないし、してはならないと思うが何とも淋しい世の中だと思う。
あくまでも現在の事であって、常に良い人生になる行動はしています。自分の気

持ちに余裕が出来れば、スポーツに通ったり、地域の活動にも関われるようになるのかなと、自分を見つめ直すことが出来ました。
札幌市や自分の住んでいる地域が、社会に対してどんな活動をしているのかよく知らないので、回答に困ったところもあった。自分なりにもっと把握しなければいけないと思った。
あまり札幌市について知らないことに気付きました。
9 月の地震があった時に、多くのお店が営業して、開けてくれたり、警察の人が手信号で立ってくれたりするなど、人の有り難さを感じました。現在一人暮らしで、隣近所もアパートやマンションが多く、生活時間がちがうのかどんな方が住んでいるか分からないので、非常の時が不安だなと感じます。仕事でなかなか時間はとれないですが、町内会などの集まりや顔合わせに参加するなど自分から関係をつくるべきだなと、このアンケートをして考えさせられました。お役に立てるといいです。

5,6⑤　アンケートについて（アンケート方法の工夫）

返信封筒にテープやノリを付けると返信しやすいと思いますよ。わざわざ用意するのは手間ですよ。
事前のハガキは必要でしょうか？この用紙も立派すぎませんか？ムダなコストは削減して本当に必要なところに使って下さい。
アンケートを求めるなら封筒に糊付けできるタイプの封筒で返信させて欲しいです。
書き間違えた時の処理の仕方についての説明が欲しかった。（〇のつける所）
アンケートのハガキ 2 回送ってきました。何かムダにハガキ代を支払っている様に思います。アンケートの回答遅れてすみません。
人、それぞれ住みなれている環境により考え方が違うと思いますが、その一とし一個建の住居、MS とでは大きく違うと思います。その辺住まいの区別をつけてアンケートを提出方、考えてはと思います。
〇付け方ではなく、もう少し記載方式が良い どういったことが不満なのか不安なのか

5,6⑥　アンケートについて（その他）

郵便番号の下の数字は個人名が解るようになっているのでしょうか、一寸気になる点です。 （注記：料金受取人払い郵便に対して郵便局から指定される整理番号）
マンションの生活では、アンケートとの質問は違いがあります。
ランダムで選ばれているとの事ですがこの半年で 3～4 回選ばれています。すごい偶然ですね。
調査をするならもっと詳細な質問を出して欲しかった。事前はがきをくれるくらいだから張り切って待っていたのに、あまりに大雑把すぎる感じ。Ⅳ, C の付き合っている人数ですが、1 人でも心を割って話せる人がいるだけでも素晴らしいと思っております。札幌市民として少しでもお役に立てれば幸いです。
間違えて丸をつけたマスはバツ印をつけました。間違えて印づけをし申し訳ありません。
封筒の郵便番号下の 789 の数字が、個人を特定するための数字ととれる。違うのであれば説明が記載されていても良いと思う。そのため年収は⑧わからないと回答。 （注記：料金受取人払い郵便に対して郵便局から指定される整理番号）

6,　各種統計に基づく政令指定都市間比較

6,1 比較の趣旨等

各種統計データに基づき、札幌市の特徴を俯瞰した。

出典は横浜市統計ポータルサイ

(http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

であり、必要に応じて加工した。データは 2016 年のものである（ただし例外もある）

6,2　人口動態

6,2,1　人口増減・婚姻・出生

〈札幌市の特徴〉

・市（都）外への転出率は低い。(15 位)

・離婚率は 20 都市中 2 番目に高い。

・合計特殊出生率は 20 都市中最も低い。

都市	総人口	総世帯数	人口密度（人／km²）	人口増加比率（‰）	出生率（‰）	死亡率（‰）	市（都）外からの転入率（‰）	市（都）外への転出率（‰）	婚姻率（‰）	離婚率（‰）	合計特殊出生率
札幌市	1,958,405	932,808	1,747	2.9	7.2	9.5	34.8	29.7	5.4	2.09	1.16
仙台市	1,084,674	504,087	1,379	1.9	8.3	8.0	42.9	41.1	5.5	1.62	1.27
さいたま市	1,275,331	543,250	5,865	8.6	8.4	8.0	47.3	39.0	5.2	1.54	1.38
千葉市	973,549	422,916	3,582	1.2	7.4	8.4	41.3	39.0	4.8	1.67	1.33
東京都区部	9,375,279	4,886,002	14,960	10.4	8.9	8.3	36.0	30.0	7.1	1.80	1.22
川崎市	1,489,477	703,945	10,319	9.7	9.9	7.1	58.7	51.2	6.7	1.65	1.40
横浜市	3,731,293	1,660,256	8,572	1.7	8.0	8.5	37.7	35.4	5.1	1.71	1.35
相模原市	721,552	315,030	2,194	0.5	7.4	7.8	37.8	36.9	4.6	1.88	1.24
新潟市	807,450	333,296	1,112	-3.5	7.4	10.6	23.1	23.2	4.4	1.39	1.34
静岡市	701,803	288,249	497	-4.5	7.4	11.1	26.5	27.1	4.7	1.63	1.41
浜松市	797,164	312,525	512	-1.4	8.5	9.9	26.1	25.6	4.8	1.54	1.57
名古屋市	2,304,794	1,072,913	7,060	4.2	8.8	9.4	43.5	38.4	6.0	1.80	1.44
京都市	1,474,735	711,558	1,781	-0.8	7.6	9.7	35.6	33.7	5.1	1.67	1.30
大阪市	2,702,033	1,373,670	11,998	3.8	8.5	10.7	69.7	62.5	6.6	2.22	1.26
堺市	837,603	352,768	5,591	-2.3	8.3	9.6	30.6	31.1	4.9	1.95	1.50
神戸市	1,535,765	710,733	2,757	-1.5	7.9	10.2	33.4	31.8	4.9	1.77	1.37
岡山市	720,571	…	912	1.4	8.8	9.1	36.9	34.1	5.2	1.76	1.47
広島市	1,196,380	536,884	1,320	2.4	8.9	8.4	35.1	33.1	5.3	1.70	1.51
北九州市	956,243	427,701	1,944	-5.3	8.1	11.3	24.7	27.4	5.1	1.93	1.61
福岡市	1,553,778	778,562	4,525	9.0	9.5	7.5	52.0	44.3	6.3	1.91	1.33
熊本市	739,606	317,466	1,895	-1.9	9.3	9.4	59.5	61.3	5.1	1.70	1.52

（注）合計特殊出生率は、15～49歳の女子における年齢別出生率を合計した値である。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,2,2　65 歳以上の単独世帯数及びその割合（2015 年）

〈札幌市の特徴〉

・全世帯に占める 65 歳以上の単独世帯割合はやや高い。（6 位）

都市	全世帯数（戸）	65歳以上の単独世帯数（戸）	全世帯に占める65歳以上の単独世帯割合（%）
札幌市	920,415	104,650	11.37
仙台市	498,257	45,035	9.04
さいたま市	532,462	49,225	9.24
千葉市	416,827	43,847	10.52
東京都区部	4,793,594	539,014	11.24
川崎市	689,886	57,959	8.40
横浜市	1,635,805	170,739	10.44
相模原市	310,833	29,305	9.43
新潟市	321,028	29,423	9.17
静岡市	285,626	31,233	10.93
浜松市	308,765	27,210	8.81
名古屋市	1,056,929	119,907	11.34
京都市	705,142	86,310	12.24
大阪市	1,352,413	201,070	14.87
堺市	349,878	46,134	13.19
神戸市	704,497	99,962	14.19
岡山市	308,807	31,743	10.28
広島市	530,948	57,117	10.76
北九州市	425,544	60,915	14.31
福岡市	763,824	80,032	10.48
熊本市	314,740	34,279	10.89

注）全世帯に占める65歳以上の単独世帯割合は、65歳以上の単独世帯数を全世帯数で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,2,3　母の年齢別出生数とその割合

〈札幌市の特徴〉

・全体として 30～34 歳の母の割合が最も高い。

・他の都市と比べ、20～24 歳の母の割合がやや高い。(6 位)

（単位：人）

都市	母の総数	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上
札幌市	14,021	1	164	1,171	3,417	5,197	3,256	792	23	.
仙台市	8,904	2	54	630	2,357	3,339	2,022	489	11	.
さいたま市	10,549	.	62	583	2,506	4,203	2,606	580	9	.
千葉市	6,927	.	55	531	1,651	2,526	1,691	453	19	1
東京都区部	80,213	4	365	3,213	15,585	30,807	23,626	6,391	208	13
川崎市	14,158	.	77	687	3,059	5,494	3,851	961	27	2
横浜市	28,889	1	190	1,599	6,310	11,047	7,734	1,950	56	2
相模原市	5,196	1	58	436	1,251	1,860	1,276	306	8	.
新潟市	5,936	.	48	410	1,560	2,214	1,370	328	6	.
静岡市	5,106	.	61	356	1,268	1,903	1,206	304	8	.
浜松市	6,558	.	60	470	1,781	2,515	1,417	308	7	.
名古屋市	19,542	1	179	1,309	5,014	7,453	4,496	1,059	31	.
京都市	10,921	.	120	710	2,517	3,987	2,845	712	29	1
大阪市	22,099	.	345	1,929	5,463	7,900	5,176	1,244	39	2
堺市	6,844	.	109	662	1,810	2,360	1,498	396	9	.
神戸市	11,786	1	122	825	2,865	4,306	2,938	711	18	.
岡山市	6,264	.	78	519	1,748	2,303	1,271	339	6	.
広島市	10,559	1	112	795	2,889	3,898	2,313	538	12	1
北九州市	7,621	1	155	891	2,107	2,582	1,573	303	9	.
福岡市	14,488	1	132	1,004	3,453	5,427	3,577	881	12	1
熊本市	6,797	.	64	613	1,850	2,425	1,480	362	3	.

都市	母の総数に占める15歳未満の母の割合（%）	母の総数に占める15～19歳の母の割合（%）	母の総数に占める20～24歳の母の割合（%）	母の総数に占める25～29歳の母の割合（%）	母の総数に占める30～34歳の母の割合（%）	母の総数に占める35～39歳の母の割合（%）	母の総数に占める40～44歳の母の割合（%）	母の総数に占める45～49歳の母の割合（%）	母の総数に占める50歳以上の母の割合（%）
札幌市	0.01	1.17	8.35	24.37	37.07	23.22	5.65	0.16	—
仙台市	0.02	0.61	7.08	26.47	37.50	22.71	5.49	0.12	—
さいたま市	—	0.59	5.53	23.76	39.84	24.70	5.50	0.09	—
千葉市	—	0.79	7.67	23.83	36.47	24.41	6.54	0.27	0.01
東京都区部	0.00	0.46	4.01	19.43	38.41	29.45	7.97	0.26	0.02
川崎市	—	0.54	4.85	21.61	38.80	27.20	6.79	0.19	0.01
横浜市	0.00	0.66	5.53	21.84	38.24	26.77	6.75	0.19	0.01
相模原市	0.02	1.12	8.39	24.08	35.80	24.56	5.89	0.15	—
新潟市	—	0.81	6.91	26.28	37.30	23.08	5.53	0.10	—
静岡市	—	1.19	6.97	24.83	37.27	23.62	5.95	0.16	—
浜松市	—	0.91	7.17	27.16	38.35	21.61	4.70	0.11	—
名古屋市	0.01	0.92	6.70	25.66	38.14	23.01	5.42	0.16	—
京都市	—	1.10	6.50	23.05	36.51	26.05	6.52	0.27	0.01
大阪市	—	1.56	8.73	24.72	35.75	23.42	5.63	0.18	0.01
堺市	—	1.59	9.67	26.45	34.48	21.89	5.79	0.13	—
神戸市	0.01	1.04	7.00	24.31	36.53	24.93	6.03	0.15	—
岡山市	—	1.25	8.29	27.91	36.77	20.29	5.41	0.10	—
広島市	0.01	1.06	7.53	27.36	36.92	21.91	5.10	0.11	0.01
北九州市	0.01	2.03	11.69	27.65	33.88	20.64	3.98	0.12	—
福岡市	0.01	0.91	6.93	23.83	37.46	24.69	6.08	0.08	0.01
熊本市	—	0.94	9.02	27.22	35.68	21.77	5.33	0.04	—

注）各年齢の母の割合は、各年齢の母の人数を母の総数で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,2,4　外国人住人数及びその割合

〈札幌市の特徴〉

・人口に占める外国人の割合は20都市中最も低い。

都市	総人口（人）	外国人住民数（人）	人口に占める外国人の割合（%）
札幌市	1,958,405	11,321	0.58
仙台市	1,084,674	12,113	1.12
さいたま市	1,275,331	21,147	1.66
千葉市	973,549	22,908	2.35
東京都区部	9,375,279	410,650	4.38
川崎市	1,489,477	35,665	2.39
横浜市	3,731,293	86,596	2.32
相模原市	721,552	12,514	1.73
新潟市	807,450	5,116	0.63
静岡市	701,803	8,433	1.20
浜松市	797,164	21,660	2.72
名古屋市	2,304,794	72,683	3.15
京都市	1,474,735	42,567	2.89
大阪市	2,702,033	125,443	4.64
堺市	837,603	12,769	1.52
神戸市	1,535,765	45,063	2.93
岡山市	720,571	11,215	1.56
広島市	1,196,380	17,215	1.44
北九州市	956,243	12,156	1.27
福岡市	1,553,778	32,146	2.07
熊本市	739,606	4,752	0.64

注）人口に占める外国人の割合は、外国人住民数を総人口で割、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，
http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,3　家計

6,3,1　一世帯当たり年平均一ヶ月間の消費支出金額

〈札幌市の特徴〉

・全消費支出に占める水道・光熱費の割合は 20 都市中 2 番目に高い。

・全消費支出に占める交通費の割合は低い。(15 位)

・全消費支出に占める自動車関係費の割合は 20 都市中 3 番目に高い。

都市	消費支出総額（円）	食料費（円）	水道・光熱費（円）	交通費（円）	自動車等関係費（円）	エンゲル係数（%）	全消費支出に占める水道・光熱費の割合（%）	全消費支出に占める交通費の割合（%）	全消費支出に占める自動車関係費の割合（%）
札幌市	287,325	69,445	24,438	4,473	24,528	24.2	8.51	1.56	8.54
仙台市	281,024	74,103	21,904	4,867	18,867	26.4	7.79	1.73	6.71
さいたま市	328,756	80,706	23,409	8,263	23,158	24.5	7.12	2.51	7.04
千葉市	312,146	80,029	19,489	7,296	23,938	25.6	6.24	2.34	7.67
東京都区部	321,147	84,980	20,669	9,134	10,599	26.5	6.44	2.84	3.30
川崎市	308,719	80,600	19,673	8,399	11,787	26.1	6.37	2.72	3.82
横浜市	325,377	84,424	20,000	8,881	19,750	25.9	6.15	2.73	6.07
相模原市	293,363	74,599	20,515	6,732	24,979	25.4	6.99	2.29	8.51
新潟市	275,978	73,208	24,123	3,434	21,879	26.5	8.74	1.24	7.93
静岡市	297,327	76,472	21,197	4,690	21,864	25.7	7.13	1.58	7.35
浜松市	283,375	72,598	21,235	3,639	30,798	25.6	7.49	1.28	10.87
名古屋市	295,673	77,270	20,415	6,273	21,047	26.1	6.90	2.12	7.12
京都市	274,853	79,319	21,800	7,080	11,064	28.9	7.93	2.58	4.03
大阪市	251,435	76,832	20,580	4,965	9,111	30.6	8.19	1.97	3.62
堺市	287,197	76,485	21,921	6,801	15,903	26.6	7.63	2.37	5.54
神戸市	264,958	75,177	16,592	7,895	12,495	28.4	6.26	2.98	4.72
岡山市	300,762	72,346	21,919	3,574	20,882	24.1	7.29	1.19	6.94
広島市	306,819	78,188	20,162	7,272	23,240	25.5	6.57	2.37	7.57
北九州市	261,173	66,468	18,408	5,067	22,945	25.4	7.05	1.94	8.79
福岡市	303,957	72,064	20,667	8,396	15,883	23.7	6.80	2.76	5.23
熊本市	262,224	66,031	19,274	2,914	17,517	25.2	7.35	1.11	6.68

注）水道・光熱費の割合は、水道・光熱費を消費支出総額で割り、100をかけたものである。交通費の割合は、交通費を消費支出総額で割り、100をかけたものである。自動車関係費の割合は、自動車関係費を消費支出総額で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,3,2　一世帯当たり年間消費支出金額詳細

〈札幌市の特徴〉

・外食費は20都市中3番目に少ない。

・酒類への支出は20都市中2番目に多い。

・たばこへの支出は20都市中最も多い。

・保健医療費はやや少ない。(12位)

都市	外食費（円）	酒類（円）	たばこ（円）	保健医療費（円）
札幌市	148,263	50,395	21,507	149,731
仙台市	151,203	48,787	12,616	172,465
さいたま市	195,800	47,651	12,812	168,410
千葉市	177,128	43,270	10,647	158,006
東京都区部	240,788	43,047	10,569	180,251
川崎市	203,663	45,976	10,815	175,041
横浜市	224,673	40,077	6,417	195,160
相模原市	157,562	37,241	11,426	159,826
新潟市	139,375	53,498	12,528	138,830
静岡市	176,073	41,922	9,683	143,947
浜松市	157,928	32,290	6,838	152,556
名古屋市	203,675	34,240	6,700	155,271
京都市	170,327	40,755	7,007	138,430
大阪市	176,311	48,631	21,370	148,482
堺市	178,869	37,636	16,751	135,479
神戸市	181,990	46,612	8,085	144,334
岡山市	151,874	40,656	13,867	180,585
広島市	204,190	45,933	16,043	156,140
北九州市	139,464	36,888	9,471	155,623
福岡市	193,802	32,279	7,124	155,995
熊本市	158,726	39,567	11,751	121,415

（出典：総務省統計局，1世帯当たり年間の支出金額，購入数量及び平均価格 都道府県庁所在市別，https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200561&tstat=000000330001&cycle=7&year=20160&month=0&tclass1=000000330001&tclass2=000000330004&tclass3=000000330005&result_back=1）

6,3,3　消費者物価地域差指数

〈札幌市の特徴〉

・総合物価は全国平均よりもやや低い。(13 位)

・食料物価は全国平均よりもやや低い。(12 位)

全国平均＝100		
都市	H28総合平均	H28食料平均
札幌市	99.1	99.7
仙台市	98.7	97.4
さいたま市	103.1	102.0
千葉市	100.7	101.6
東京都区部	105.2	103.4
川崎市	105.4	102.5
横浜市	104.9	102.9
相模原市	104.0	104.6
新潟市	99.3	101.0
静岡市	99.1	99.2
浜松市	97.7	98.4
名古屋市	99.4	98.9
京都市	100.9	100.6
大阪市	100.7	99.7
堺市	99.9	99.8
神戸市	101.5	100.4
岡山市	98.5	100.4
広島市	99.0	101.7
北九州市	97.2	97.8
福岡市	97.6	96.2
熊本市	98.6	102.2

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,4　労働

6,4,1　65 歳以上の有業者数及びその割合（2012 年）

〈札幌市の特徴〉

・全有業者に占める 65 歳以上人口の割合は 20 都市中 2 番目に低い。

・65 歳以上人口における有業者の割合は 20 都市中最も低い。

都市	有業者総数（百人）	65～69歳（百人）	70～74歳（百人）	75～79歳（百人）	80～84歳（百人）	85歳以上（百人）	65歳以上の有業	65歳以上人口（人）	全有業者に占める65歳以上人口の割合（%）	65歳以上人口における有業者の割合（%）
札幌市	9,346	330	158	90	26	11	615	483,534	6.58	0.13
仙台市	5,331	185	96	40	25	11	357	234,360	6.70	0.15
さいたま市	6,400	292	150	64	29	14	549	284,138	8.58	0.19
千葉市	4,890	227	125	42	22	5	421	238,213	8.61	0.18
東京都区部	51,207	2,228	1,445	798	327	210	5,008	1,997,870	9.78	0.25
川崎市	7,818	268	186	75	31	7	567	279,482	7.25	0.20
横浜市	19,158	832	450	192	81	35	1,590	865,490	8.30	0.18
相模原市	3,717	179	79	31	5	.	294	171,040	7.91	0.17
新潟市	4,076	171	104	59	22	5	361	217,107	8.86	0.17
静岡市	3,564	198	119	53	21	14	405	200,229	11.36	0.20
浜松市	4,100	206	134	54	38	8	440	208,355	10.73	0.21
名古屋市	11,941	548	286	147	77	20	1,078	545,210	9.03	0.20
京都市	7,278	396	194	117	58	25	790	381,132	10.85	0.21
大阪市	13,716	706	448	183	79	30	1,446	668,698	10.54	0.22
堺市	4,033	198	79	41	8	7	333	224,064	8.26	0.15
神戸市	7,192	351	177	59	34	6	627	411,427	8.72	0.15
岡山市	3,549	161	88	50	26	9	334	175,013	9.41	0.19
広島市	5,922	300	125	64	36	5	530	279,311	8.95	0.19
北九州市	4,437	227	111	60	28	8	434	277,120	9.78	0.16
福岡市	7,653	282	131	59	2	17	491	312,331	6.42	0.16
熊本市	3,645	160	74	39	20	11	304	177,325	8.34	0.17

注）全有業者に占める65歳以上人口の割合は、65歳以上人口を有業者総数で割り、100をかけたものである。65歳以上人口における有業者の割合は、65歳以上の有業者数を65歳以上人口で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,4,2　起業者割合（2012 年）

〈札幌市の特徴〉

・起業者割合は平均的である。（11 位）

（単位：百人）

都市	総数	第二次のうち自営業主の起業者数	第二次のうち雇用者の起業者数	第2次産業起業者合計	第三次のうち自営業主の起業者数	第三次のうち雇用者の起業者数	第3次産業起業者数	起業者数合計	起業者割合（%）
札幌市	9,346	92	72	164	328	173	501	665	7.12
仙台市	5,331	62	32	94	161	100	261	355	6.66
さいたま市	6,400	71	47	118	225	104	329	447	6.98
千葉市	4,890	47	40	87	125	58	183	270	5.52
東京都区部	51,207	390	415	805	2,399	1,557	3,956	4,761	9.30
川崎市	7,818	80	59	139	279	124	403	542	6.93
横浜市	19,158	130	181	311	541	355	896	1,207	6.30
相模原市	3,717	62	33	95	102	40	142	237	6.38
新潟市	4,076	63	19	82	135	50	185	267	6.55
静岡市	3,564	75	26	101	171	42	213	314	8.81
浜松市	4,100	59	42	101	130	72	202	303	7.39
名古屋市	11,941	157	123	280	402	178	580	860	7.20
京都市	7,278	123	46	169	352	124	476	645	8.86
大阪市	13,716	227	136	363	660	231	891	1,254	9.14
堺市	4,033	58	19	77	199	54	253	330	8.18
神戸市	7,192	92	39	131	303	114	417	548	7.62
岡山市	3,549	45	22	67	133	43	176	243	6.85
広島市	5,922	91	33	124	242	79	321	445	7.51
北九州市	4,437	69	33	102	167	75	242	344	7.75
福岡市	7,653	83	33	116	334	149	483	599	7.83
熊本市	3,645	51	28	79	163	67	230	309	8.48

注）起業者割合は、起業者数合計を総数で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,5　交通

6,5,1　高速鉄道（地下鉄）の営業状況

〈札幌市の特徴〉

・1 営業キロ当たりの年間走行キロ数は 10 都市中 4 番目に多い。

・1 走行キロ当たりの年間乗車人員数は平均的である。（10 都市中 5 位）

都市	営業キロ数（km）	年間走行キロ数（km）	年間乗車人員（人）	1営業キロ当たりの年間走行キロ数（km）	1走行キロ当たりの年間乗車人員数（人）
札幌市	48.0	33,666,906	226,280,085	701,394	6.72
仙台市	28.7	12,589,545	83,702,962	438,660	6.65
さいたま市	14.6	9,348,043	38,337,353	640,277	4.10
千葉市	－	－	－	－	－
東京都区部	291.3	387,893,387	3,467,284,363	1,331,594	8.94
川崎市	－	－	－	－	－
横浜市	53.4	35,253,605	235,764,583	660,180	6.69
相模原市	－	－	－	－	－
新潟市	－	－	－	－	－
静岡市	－	－	－	－	－
浜松市	－	－	－	－	－
名古屋市	93.3	69,072,330	475,582,001	740,325	6.89
京都市	31.2	20,840,505	138,413,795	667,965	6.64
大阪市	129.9	113,073,383	868,053,264	870,465	7.68
堺市	－	－	－	－	－
神戸市	30.6	19,463,959	105,266,759	636,077	5.41
岡山市	－	－	－	－	－
広島市	－	－	－	－	－
北九州市	－	－	－	－	－
福岡市	29.8	18,676,573	160,389,913	626,731	8.59
熊本市	－	－	－	－	－

注）1営業キロ当たりの年間走行キロ数は、年間走行キロ数を営業キロ数で割ったものである。1走行キロ当たりの年間乗車人員数は、年間走行キロ数を年間乗車人員数で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，
http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,5,2　自動車保有台数及び有料駐車場数

〈札幌市の特徴〉

・自動車保有台数は 20 都市中 4 番目に多い。

・有料駐車場数はやや多い。(6 位)

都市	全自動車台数	有料駐車場数（500㎡以上）
札幌市	1,029,597	325
仙台市	660,388	197
さいたま市	570,902	129
千葉市	507,375	117
東京都区部	2,502,547	1,236
川崎市	465,196	120
横浜市	1,436,156	484
相模原市	353,386	43
新潟市	593,356	72
静岡市	457,828	115
浜松市	613,015	108
名古屋市	1,291,211	479
京都市	586,744	150
大阪市	838,586	1,031
堺市	392,973	70
神戸市	650,557	316
岡山市	519,996	73
広島市	678,011	207
北九州市	605,013	144
福岡市	746,894	419
熊本市	484,554	72

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,5,3　交通事故発生件数、交通事故死傷者数及び道路交通法違反検挙件数

〈札幌市の特徴〉

・交通事故発生件数、交通事故死傷者数はともには少ない。(15 位)

・道路交通法違反検挙件数はやや少ない。(12 位)

都市	交通事故発生件数（人口10万人当たり）	交通事故死傷者数（人口10万人当たり）	道路交通法違反検挙件数（人口千人当たり）
札幌市	276.1	323.6	51.6
仙台市	349.1	430.4	37.4
さいたま市	341.3	403.6	52.7
千葉市	303.9	371.7	47.5
東京都区部	225.1	258.6	76.0
川崎市	221.6	257.9	42.1
横浜市	270.2	317.6	52.2
相模原市	365.6	425.2	51.0
新潟市	238.0	283.9	31.8
静岡市	789.0	979.2	68.6
浜松市	1050.7	1378.0	60.1
名古屋市	589.4	728.1 …	
京都市	332.9	394.4	41.5
大阪市	450.5	528.5	56.2
堺市	477.2	579.2	42.5
神戸市	477.4	594.4	59.2
岡山市	569.5	679.5	75.8
広島市	337.6	404.2	59.7
北九州市	808.3	1101.5	91.0
福岡市	684.3	872.3 …	
熊本市	419.3	528.0	51.7

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,6　ライフライン

6,6,1　電力販売量

〈札幌市の特徴〉

・一人当たりの電力販売料は平均的である。(10 位)

都市	電力総数(千kwｈ)	人口（人）	一人当たりの電力販売量(千kwｈ)
札幌市	5,185,495	1,958,405	2.65
仙台市	3,641,647	1,084,674	3.36
さいたま市	7,155,401	1,275,331	5.61
千葉市	5,807,663	973,549	5.97
東京都区部	31,312,198	9,375,279	3.34
川崎市	197,732	1,489,477	0.13
横浜市	672,041	3,731,293	0.18
相模原市	170,249	721,552	0.24
新潟市	2,547,158	807,450	3.15
静岡市	3,144,694	701,803	4.48
浜松市	3,138,107	797,164	3.94
名古屋市	1,513,490	2,304,794	0.66
京都市	402,704	1,474,735	0.27
大阪市	837,462	2,702,033	0.31
堺市	142,770	837,603	0.17
神戸市	320,820	1,535,765	0.21
岡山市	194,642	720,571	0.27
広島市	282,072	1,196,380	0.24
北九州市	5,115,858	956,243	5.35
福岡市	6,385,424	1,553,778	4.11
熊本市	263,131	739,606	0.36

注）電力総数には家庭用電力以外の電力も含む。一人当たりの電力販売量は、電力総数を人口で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,6,2　都市ガス消費量

〈札幌市の特徴〉

・一人当たりの都市ガス消費量はやや少ない。(12 位)

都市	都市ガス消費量（家庭用）（千メガジュール）	人口（人）	一人当たりの都市ガス消費量（千メガジュール）
札幌市	6,712,505	1,958,405	3.43
仙台市	4,689,034	1,084,674	4.32
さいたま市	5,550,010	1,275,331	4.35
千葉市	4,661,542	973,549	4.79
東京都区部	87,442,246	9,375,279	9.33
川崎市	8,549,546	1,489,477	5.74
横浜市	22,038,234	3,731,293	5.91
相模原市	2,353,204	721,552	3.26
新潟市	5,526,376	807,450	6.84
静岡市	2,219,278	701,803	3.16
浜松市	1,396,680	797,164	1.75
名古屋市	14,555,598	2,304,794	6.32
京都市	9,665,909	1,474,735	6.55
大阪市	16,829,299	2,702,033	6.23
堺市	4,806,358	837,603	5.74
神戸市	9,540,012	1,535,765	6.21
岡山市	1,069,178	720,571	1.48
広島市	3,402,764	1,196,380	2.84
北九州市	3,050,505	956,243	3.19
福岡市	5,669,791	1,553,778	3.65
熊本市	999,540	739,606	1.35

注）一人当たりの都市ガス消費量は、都市ガス消費量（家庭用）を人口で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,7　環境

6,7,1　大気汚染

・すべての大気汚染物質において濃度が低い。

・PM2.5 濃度、SO2 濃度、CO 濃度は 20 都市中最も低い（同率を含む）。

都市	PM 2.5濃度（μg/㎥）	SO2濃度（ppm）	NO2濃度（ppm）	CO濃度（ppm）	OX濃度（ppm）	SPM 濃度（mg/㎥）
札幌市	7.2	0.001	0.012	0.3	0.032	0.013
仙台市	8.9	0.001	0.008	0.4	0.033	0.013
さいたま市	11.7	0.002	0.013	0.4	0.032	0.019
千葉市	11.2	0.002	0.012	0.4	0.031	0.018
東京都区部	13.3	0.002	0.018	0.4	0.029	0.017
川崎市	12.4	0.001	0.017	0.3	0.032	0.015
横浜市	11.8	0.002	0.016	0.6	0.03	0.02
相模原市	9.6	0.0006	0.012	0.55	0.03	0.016
新潟市	8.9	0.001	0.006	0.3	0.038	0.012
静岡市	10.4	0.001	0.009	0.3	0.034	0.017
浜松市	10.1	0.001	0.006	0.4	0.036	0.015
名古屋市	12.5	0.001	0.014	0.5	0.035	0.018
京都市	11.1	0.003	0.011	0.4	0.032	0.014
大阪市	14.7	0.004	0.019	0.4	0.03	0.02
堺市	13.4	0.005	0.015	0.4	0.035	0.019
神戸市	12.3	0.002	0.014	0.4	0.035	0.017
岡山市	13.6	0.004	0.01	0.4	0.033	0.018
広島市	13.1	0.001	0.01	0.4	0.032	0.021
北九州市	15.9	0.002	0.014	0.4	0.036	0.021
福岡市	15.4	0.002	0.011	0.5	0.036	0.022
熊本市	15.5	0.002	0.008	0.3	0.032	0.023

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,7,2　ごみ収集量

〈札幌市の特徴〉

・1 世帯当たりのごみ収集量、1 人当たりのごみ収集量ともに低い。(15 位)

都市	作業対象世帯世帯数	人口（人）	収集量（t）	1世帯当たりのごみ収集量(t)	1人当たりのごみ収集量(t)
札幌市	932,808	1,958,405	591,462	0.63	0.30
仙台市	504,087	1,084,674	376,033	0.75	0.35
さいたま市	568,682	1,275,331	415,997	0.73	0.33
千葉市	422,916	973,549	345,847	0.82	0.36
東京都区部	4,906,346	9,375,279	3,117,444	0.64	0.33
川崎市	703,945	1,489,477	418,767	0.59	0.28
横浜市	1,660,256	3,731,293	995,379	0.60	0.27
相模原市	315,030	721,552	228,770	0.73	0.32
新潟市	333,296	807,450	299,314	0.90	0.37
静岡市	288,249	701,803	229,994	0.80	0.33
浜松市	330,745	797,164	245,697	0.74	0.31
名古屋市	1,072,913	2,304,794	677,300	0.63	0.29
京都市	711,558	1,474,735	417,273	0.59	0.28
大阪市	1,373,670	2,702,033	954,410	0.69	0.35
堺市	352,768	837,603	267,329	0.76	0.32
神戸市	710,733	1,535,765	489,735	0.69	0.32
岡山市	320,340	720,571	230,484	0.72	0.32
広島市	536,884	1,196,380	366,112	0.68	0.31
北九州市	427,701	956,243	373,374	0.87	0.39
福岡市	778,562	1,553,778	595,903	0.77	0.38
熊本市	321,516	739,606	225,198	0.70	0.30

注）収集量には家庭ごみ以外のごみも含む。1世帯当たりのごみ収集量は、収集量を作業対象世帯数で割ったものである。1人当たりのごみ収集量は、収集量を人口で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,8　健康

6,8,1　疾病による死亡者数

〈札幌市の特徴〉

・生活習慣病による死亡者数はやや多い。(8 位)

・悪性新生物による死亡者数は多い。(5 位)

都市	生活習慣病による死亡者数（人口10万人当たり）	悪性新生物による死亡者数（人口10万人当たり）
札幌市	517.5	306.5
仙台市	438.7	237.1
さいたま市	423.0	228.3
千葉市	475.2	256.1
東京都区部	447.4	248.0
川崎市	375.4	209.6
横浜市	450.6	254.7
相模原市	446.4	243.5
新潟市	585.2	310.0
静岡市	586.6	311.9
浜松市	504.4	263.1
名古屋市	457.9	268.0
京都市	535.8	286.5
大阪市	551.7	310.4
堺市	527.8	301.8
神戸市	534.4	302.1
岡山市	472.7	250.6
広島市	459.3	251.3
北九州市	593.6	351.5
福岡市	383.1	234.5
熊本市	488.8	268.0

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,8,2　病院数

〈札幌市の特徴〉

・一般病院数は 20 都市中最も多い。

・歯科診療所数は多い。(5 位)

都市	一般病院数（人口10万人当たり）	歯科診療所数（人口10万人当たり）
札幌市	9.1	62.9
仙台市	4.3	54.9
さいたま市	2.6	52.5
千葉市	4.3	56.9
東京都区部	4.4	88.8
川崎市	2.3	50.5
横浜市	3.1	56.1
相模原市	4.7	51.4
新潟市	4.6	61.3
静岡市	3.4	49.7
浜松市	3.5	48.2
名古屋市	5.2	62.3
京都市	6.6	56.6
大阪市	6.6	83.6
堺市	4.8	55.9
神戸市	6.4	61.3
岡山市	6.8	60.9
広島市	6.3	58.6
北九州市	7.9	69.2
福岡市	6.6	65.2
熊本市	10.5	53.3

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,8,3　スポーツの行動者率（2011 年）

〈札幌市の特徴〉

・全スポーツ行動者率は 20 都市中 3 番目に低い。

・スキー・スノーボードの行動者率は 20 都市中最も高い。

都道府県	全スポーツ行動者率(%)	スキー・スノーボード(%)
北海道	60.0	8.9
宮城県	60.2	4.7
埼玉県	66.9	5.9
千葉県	66.0	5.7
東京都	68.6	6.6
神奈川県	66.1	5.4
新潟県	57.2	6.7
静岡県	63.3	4.6
愛知県	65.1	6.5
京都府	63.3	5.2
大阪府	62.9	4.7
兵庫県	62.6	6.0
岡山県	60.3	3.1
広島県	62.7	4.0
福岡県	59.6	2.0

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,9　社会福祉サービス

6,9,1　介護保険給付決定状況

〈札幌市の特徴〉

・65 歳以上一人当たりの居宅サービス件数は平均的である。(11 位)

都市	居宅サービス件数（件）	65歳以上人口（人）	65歳以上一人当たりの居宅サービス件数（件）
札幌市	2,079,594	483,534	4.30
仙台市	1,000,408	234,360	4.27
さいたま市	1,139,758	284,138	4.01
千葉市	927,302	238,213	3.89
東京都区部	9,320,976	1,997,870	4.67
川崎市	1,257,891	279,482	4.50
横浜市	3,491,954	865,490	4.03
相模原市	613,522	171,040	3.59
新潟市	878,902	217,107	4.05
静岡市	852,293	200,229	4.26
浜松市	691,453	208,355	3.32
名古屋市	2,548,787	545,210	4.67
京都市	2,025,698	381,132	5.31
大阪市	4,274,241	668,698	6.39
堺市	1,307,316	224,064	5.83
神戸市	2,033,840	411,427	4.94
岡山市	820,380	175,013	4.69
広島市	1,419,818	279,311	5.08
北九州市	1,333,387	277,120	4.81
福岡市	1,546,115	312,331	4.95
熊本市	902,948	177,325	5.09

注）65歳以上一人当たりの居宅サービス件数は、居宅サービス件数を65歳以上人口で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,9,2　保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園件数及び一園あたりの 6 歳未満人員数

〈札幌市の特徴〉

・保育園 1 園当たりの人員数は少ない。(15 位)

・幼稚園 1 園当たりの人員数はやや多い。(6 位)

・幼保連携型認定こども園 1 園当たりの人員数は多い。(5 位)

都市	保育所総数	幼稚園総数	幼保連携型認定こども園総数	保育所在所者数（人）	幼稚園在園者数（人）	幼保連携型認定こども園在園者数（人）	保育所1所当たりの人員数（人）	幼稚園1園当たりの人員数（人）	幼保連携型認定こども園1園当たりの人員数（人）
札幌市	262	123	28	23,735	21,511	6,092	91	175	218
仙台市	177	93	8	16,215	14,107	1,770	92	152	221
さいたま市	196	107	4	17,243	19,657	867	88	184	217
千葉市	160	90	6	14,584	13,879	744	91	154	124
東京都区部	1764	713	16	161,486	105,819	3,315	92	148	207
川崎市	323	83	2	26,022	20,947	562	81	252	281
横浜市	720	262	19	58,607	48,840	5,172	81	186	272
相模原市	109	50	7	10,754	9,563	1,065	99	191	152
新潟市	197	39	17	18,765	3,854	3,381	95	99	199
静岡市	56	43	77	5,267	6,871	8,303	94	160	108
浜松市	67	109	19	6,709	13,149	3,333	100	121	175
名古屋市	379	181	26	35,326	29,111	3,876	93	161	149
京都市	248	119	20	26,794	14,415	2,627	108	121	131
大阪市	420	182	25	43,842	26,233	4,812	104	144	192
堺市	20	52	76	2,289	10,222	12,086	114	197	159
神戸市	129	131	86	12,757	18,196	10,169	99	139	118
岡山市	113	79	10	13,620	6,827	1,585	121	86	159
広島市	190	94	16	23,005	13,457	3,522	121	143	220
北九州市	165	104	－	15,843	13,771	－	96	132	－
福岡市	229	129	2	33,461	20,823	176	146	161	88
熊本市	129	39	43	13,209	5,651	7,313	102	145	170

（注）保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の件数は、公立と私立を合計したものである。各施設1園当たりの人員数は、各施設の在園者数を各施設の総数で割ったものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,9,3　生活保護世帯数及び生活保護実人員

〈札幌市の特徴〉

・生活保護世帯の占める割合は20都市中2番目に高い。

都市	全世帯数	生活保護実世帯数	生活保護実人員	生活保護世帯の占める割合(%)
札幌市	920,415	54,306	73,723	5.90
仙台市	498,257	13,095	17,682	2.63
さいたま市	532,462	15,333	20,280	2.88
千葉市	416,827	16,147	20,527	3.87
東京都区部	4,793,594	174,499	216,479	3.64
川崎市	689,886	24,315	31,995	3.52
横浜市	1,635,805	53,499	70,650	3.27
相模原市	310,833	9,957	13,978	3.20
新潟市	321,028	8,954	11,883	2.79
静岡市	285,626	6,987	9,015	2.45
浜松市	308,765	5,740	7,473	1.86
名古屋市	1,056,929	38,562	49,183	3.65
京都市	705,142	33,017	45,403	4.68
大阪市	1,352,413	116,158	144,625	8.59
堺市	349,878	19,107	25,936	5.46
神戸市	704,497	34,968	47,761	4.96
岡山市	308,807	10,001	13,649	3.24
広島市	530,948	19,364	26,408	3.65
北九州市	425,544	18,586	23,766	4.37
福岡市	763,824	33,380	43,985	4.37
熊本市	314,740	12,506	16,607	3.97

注）生活保護世帯の占める割合は、生活保護実世帯数を全世帯数で割り、100をかけたものである。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,9,4　社会福祉関係施設数

〈札幌市の特徴〉

・65 歳以上人口千人当たりの老人福祉施設数は少ない。(16 位)

・身体障害者千人当たりの障害者支援施設等数は平均的である。(10 位)

都市	老人介護施設数	障害者支援施設等数	児童福祉施設等数	65歳以上人口	身体障害者数	65歳以上人口千人当たりの老人福祉施設数	身体障害者千人当たりの障害者支援施設等数
札幌市	39	88	456	483,534	83,564	0.08	1.05
仙台市	27	36	332	234,360	32,146	0.12	1.12
さいたま市	20	33	241	284,138	33,286	0.07	0.99
千葉市	35	32	195	238,213	27,701	0.15	1.16
東京都区部	327	274	3,322	1,997,870	333,518	0.16	0.82
川崎市	12	76	409	279,482	36,761	0.04	2.07
横浜市	35	274	820	865,490	99,356	0.04	2.76
相模原市	14	22	172	171,040	20,198	0.08	1.09
新潟市	36	56	256	217,107	30,036	0.17	1.86
静岡市	20	16	9	200,229	24,112	0.10	0.66
浜松市	32	22	123	208,355	26,249	0.15	0.84
名古屋市	184	433	802	545,210	78,486	0.34	5.52
京都市	39	24	504	381,132	76,627	0.10	0.31
大阪市	59	87	584	668,698	137,414	0.09	0.63
堺市	20	22	138	224,064	37,254	0.09	0.59
神戸市	37	45	388	411,427	80,407	0.09	0.56
岡山市	30	41	169	175,013	23,742	0.17	1.73
広島市	21	53	344	279,311	41,851	0.08	1.27
北九州市	37	21	242	277,120	50,636	0.13	0.41
福岡市	34	36	295	312,331	51,818	0.11	0.69
熊本市	38	20	197	177,325	30,814	0.21	0.65

注）65歳以上人口千人当たりの老人福祉施設数は、65歳以上人口を老人介護施設数で割ったものである。身体障害者千人当たりの障害者支援施設等数は、身体障害者数を障害者支援施設等数で割ったものである。

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,10　財政

6,10,1　市（都）内総生産

〈札幌市の特徴〉

・市内総生産は高くはない。（14 都市中 10 位）

都市	名目総生産（%）
札幌市	1.1
仙台市	1.1
さいたま市	0.5
千葉市	3
東京都区部	0.9
川崎市	1.9
横浜市	0.4
相模原市	…
新潟市	0.7
静岡市	…
浜松市	…
名古屋市	1.2
京都市	…
大阪市	…
堺市	10
神戸市	3.2
岡山市	1.7
広島市	4
北九州市	4.3
福岡市	2.5
熊本市	…

注）6都市は不明。

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,10,2　実質公債比率及び将来負担比率

〈札幌市の特徴〉

・実質公債比率は低い。(17 位)

・将来負担比率はやや低い。(13 位)

都市	実質公債費比率(%)	将来負担比率(%)
札幌市	3.7	59.0
仙台市	9.3	108.5
さいたま市	5.0	5.4
千葉市	17.3	186.2
東京都区部	1.5	19.8
川崎市	7.2	118.3
横浜市	16.5	160.7
相模原市	2.9	36.5
新潟市	11.1	139.6
静岡市	7.9	46.4
浜松市	8.4	－
名古屋市	11.8	138.8
京都市	15.2	226.2
大阪市	7.9	95.2
堺市	5.7	17.5
神戸市	7.4	80.0
岡山市	8.1	13.5
広島市	14.7	222.8
北九州市	13.7	187.9
福岡市	12.2	152.7
熊本市	9.3	124.0

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,11　地域力

6,11,1　ボランティア活動の種類別行動者率（2011 年）

〈札幌市の特徴〉

・全ボランティアの行動者率は低い。（15 位）

・まちづくりに関するボランティア活動の行動者率はやや高い。（8 位）

・災害に関するボランティア活動の行動者率は 20 都市中 2 番目に低い。

（単位：%）

都道府県	全ボランティア	健康・医療	高齢者対象	障害者対象	子供対象	スポーツ・文化・芸術・学術	まちづくり	安全な生活	自然や環境を守る	災害
北海道	23.8	3.1	3.7	1.1	6.7	3.3	10.2	4.1	4.1	2.2
宮城県	30.7	2.7	5.2	1.2	7.2	2.9	13.0	6.9	4.5	11.1
埼玉県	24.0	3.0	3.1	1.2	7.3	3.4	8.3	4.0	4.2	4.1
千葉県	26.0	3.2	3.5	1.3	8.4	3.1	9.8	4.0	4.4	4.1
東京都	24.6	3.0	3.5	1.4	8.4	3.8	5.7	4.7	4.0	5.3
神奈川県	24.4	2.7	3.2	1.5	7.8	3.1	8.6	4.2	4.3	4.1
新潟県	23.5	2.1	3.7	1.3	7.1	3.1	10.4	4.3	4.8	3.9
静岡県	28.5	2.6	3.6	1.3	9.3	4.0	12.0	7.5	6.1	3.4
愛知県	23.1	2.1	2.7	1.0	6.7	3.0	9.2	4.9	4.2	2.5
京都府	23.2	2.6	3.1	1.6	7.8	3.5	9.4	4.1	3.5	3.2
大阪府	20.6	2.6	3.0	1.5	7.1	2.7	6.8	3.8	3.5	2.8
兵庫県	25.7	2.8	3.6	1.5	8.3	3.5	11.2	4.4	4.5	3.1
岡山県	31.3	3.3	4.3	1.6	9.0	3.5	16.7	4.7	6.1	3.3
広島県	28.9	3.4	4.5	1.2	9.4	3.7	14.0	4.4	4.8	2.0
福岡県	27.3	3.3	4.0	1.6	8.8	3.6	13.2	4.0	5.3	2.9

（出典：横浜市統計ポータルサイト，

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/）

6,11,2　都市公園数及び人口 10 万人当たりの都市公園面積

〈札幌市の特徴〉

・都市公園数は 20 都市中２番目に多い。

・一人当たりの都市公園面積は大きい。(4 位)

都市	都市公園数	都市公園面積（人口一人当たり）(㎡)
札幌市	2,736	12.66
仙台市	1,772	14.17
さいたま市	961	5.09
千葉市	1,086	9.29
東京都区部	4,247	2.89
川崎市	1,129	3.88
横浜市	2,671	4.90
相模原市	613	4.62
新潟市	1,392	10.06
静岡市	501	6.16
浜松市	565	8.03
名古屋市	1,460	6.93
京都市	917	4.35
大阪市	993	3.53
堺市	1,178	8.39
神戸市	1,653	17.21
岡山市	464	15.18
広島市	1,136	7.58
北九州市	1,709	12.29
福岡市	1,676	8.74
熊本市	997	9.52

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

6,12　犯罪

6,12,1　刑法犯認知件数

〈札幌市の特徴〉

・刑法犯認知件数は平均的である。(11 位)

都市	刑法犯認知件数（人口千人当たり）
札幌市	8.3
仙台市	8.0
さいたま市	9.8
千葉市	10.5
東京都区部	10.7
川崎市	6.2
横浜市	5.7
相模原市	7.3
新潟市	8.2
静岡市	6.4
浜松市	6.2
名古屋市	12.4
京都市	9.4
大阪市	20.5
堺市	12.0
神戸市	10.2
岡山市	8.7
広島市	7.5
北九州市	9.6
福岡市	12.1
熊本市	7.3

(出典：横浜市統計ポータルサイト,

http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/daitoshi/)

7,考察

(1) 札幌市への印象(評価)と都市間比較などから見える政策課題

本調査では、社会全体のwell-beingを高めることが個人のwell-beingを高めることに繋がると考え、まちづくり戦略ビジョンを検討するに際して、社会的well-beingを高めることが一つの施策の方向性と捉え、調査を実施した。

その結果、まちづくりにも関連する札幌のまちについての印象では（p.155 表8,2,5,1)、「札幌は暮らしやすいまちである」との回答が8割近くにも上っており、「散歩ができる緑の多い場所や自然と触れある場所がある」(肯定的な評価が8割弱)、「ごみステーションがきれいである」(同7割弱)、「観光客に親切である」(同5割強）などでも肯定的な回答が見られた。このことは、政令指定都市間比較からも、他都市に比べて札幌市は、例えば、1人あたりゴミ排出量が少なく、1人あたりの都市公園数が多く、総合物価や食料物価も低いといったデータからも裏付けられる(p.112 表6,7,2)。一方で、「年齢、性別、ジェンダー、障がいの有無にかかわらず、どんな人にとっても働きやすい環境が整備されている」「札幌は起業や創造的なビジネスにチャレンジできる環境である」「NPO、ボランティア団体など市民活動がさかん」「地域ぐるみで孤立を防いでいる」「自主的な防災活動が盛ん」など、多くの項目で「どちらともいえない」が4割から5割以上を占めており、市の取り組みが多くの市民に十分行き渡っていない様子も読み取れた。この傾向は、とくに若い層で顕著であり、若年層ほどこれら取り組みとの接点が少ない可能性が示唆される。なお、政令指定都市間比較より、札幌市は離婚率が高く合計特殊出生率が低かったことから（p.96 表 6,2,1)、少子化対策や女性支援をいっそう手厚くする必要性が読み取れる。子育て支援や少子化対策に関する要望は自由記述でも多く言及されていたことにも目を向けるべきであろう（p.71 表 5,1②)。なお、全ボランティア行動者率は低く、とくに災害に関するボランティア活動の行動者率が低い点も留意すべき点である（p.122 表6,11,1)。

こうした札幌のまちへの印象・評価は、個人の幸福感・満足度とも関連していた(p.151 表8,2,4,2)。つまり、「まわりの人に認められている」と感じたり、「人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができる」状況は、一人一人にとって大切なことであると同時に、そのことが札幌市全体にとっても大事であることが示唆される。まちづくり戦略を検討する際には、一人一人の幸福(well-being)は社会全体としてのwell-beingと結びついていることを認識していく必要性が確認された。

また、地域への愛着とも関連があり、自分の住む地域に愛着を感じ、地域の人々に親しみを感じているほど札幌のまちを肯定的に評価しており（p.320 表8,3,8,1）、幸福感も高かった（p.249 表8,3,4,1）。一方で、「社会から取り残されている」「社会に属していると感じられない」など、自分の居場所がないと感じていない人が過半数である一方、感じている人は3割強ほどいた（p.150 表8,2,4,1）。自分の居場所がないと感じられてしまうと、自分自身が幸福ではないだけでなく、まち全体ついても肯定的に捉えられないことが示された（p.253 表8,3,4,2）。政令指定都市間比較からも、高齢者の単独世帯割合がやや高いことも示されている（p.97 表 6,2,2）。さらに、自由記述では、引きこもりや貧困に対する切実な意見もみられた（p.85 表 5,5）。以上の結果は、全体として見れば決して多いわけではないが、「誰一人取り残さない」というSDGsの精神から言えば、孤独化・孤立化を社会全体として防いでいく取り組みとそれを支援する施策の重要性を示唆している。ただし、全般的に言えば、多くの市民は自分の住む地域に愛着を感じており、「雪かきなど困ったことがあったときに助けを求められる人が近所にいる」に対して「そう思う」という回答は３割弱あり、地域における助け合いの輪は存在しているとみてよい結果と言える。

(2) ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と社会参加

社会参加は、まちづくりを下支えする機能が期待されており、社会関係資本とも密接に関係している。社会関係資本とは、信頼や互酬性の規範、人と人とのつながりのことであり、これらが地域に浸透しているほど、社会参加が高く、犯罪率が少ない、教育水準が高い、などまちの暮らしやすさと関連していることが知られている(Putnam, 2000)。内閣府も平成15年にその重要性を指摘した調査をまとめており、平成24年にまとめた幸福度の指標にも「関係性」（つながり）が３つの主軸の一つとして取り上げている。これらを踏まえて、札幌市における社会参加と社会関係資本について現状を把握した。

具体的な社会参加として、町内会などが行う活動やイベントの参加について、「お祭り」は4割以上の回答者が参加したことがあり、「集団資源回収やごみ拾いなど」も3割弱が、「町内会、老人クラブ、女性団体、子供会などが開くバザー」「町内会などの定期的な会合」は約2割が参加したことがあった（p.9 図 3,2,1）。これらの活動以外では、「趣味の活動」は2割ほどが参加しているが、「何も参加していない」という回答が6割を超えていた（p.11 図 3,2,2）。とくに、お祭りを除き、若い世代ほど参加経験が少なかった

（p. 10 図 3, 2, 1）。参加のきっかけは、「家族や近所の方など知り合いに誘われて」が最も多かったことから（p. 13 図 3, 2, 3）、若い世代にはこのような接点が少ない可能性が考えられる。

信頼については、他者一般への信頼と組織や主体を頼れるかという尋ね方をした。他者一般については、「ほとんどの人は基本的に正直である」「ほとんどの人は信頼できる」「ほとんどの人は基本的に善良で親切である」といった項目で、4 割前後が「どちらともいえない」と回答していたものの、「そう思う」割合は 3〜4 割程度で、「そう思わない」割合（1 割から 2 割程度）を大きく上回っており、札幌市民は他者一般を信頼している傾向が読み取れた（p. 23 図 3, 3, 1①）。さらに、世の中お互い様であるといった相互依存性になると、この傾向はより顕著になり、「お互いに助け合っている人々を見たら、私も困っている人を助けてあげようと思う」「だれかに何かをしてもらったら、私も他の人に何かしてあげようと思う」「この社会でうまくやっていくためには、他人と助け合わなければならない」などの項目で「そう思う」という回答が 8 割以上を占め、「そう思わない」という回答は数%にも満たなかった（p. 25 図 3, 3, 1③）。これは調査実施 3 ヶ月前に起こった北海道胆振東部地震とその直後に起きたブラックアウト（大規模停電）による影響も大きいと思われるが、それを差し引いても札幌市民は助け合いの精神が強く浸透している様子が読み取れる。また、個別の主体について、相談したり頼ったりできる組織について尋ねたところ、「市役所・区役所、警察や交番等」「学校、病院、育児施設・介護施設（デイサービスなど）」は、およそ半数前後が「頼りにできる」と回答しており、「どちらともいえない」が 3 割ほどあったが、「頼りにできない」という回答が 1 割から 2 割程度と少なく、全体的に見れば既存の公的機関は頼りになると評価されていた（p. 26 図 3, 3, 2①）。一般にこうした公的機関への信頼・依存度は低いことに鑑みれば、札幌市民は公的機関との関係は悪くはないと言えそうである。

日常的なつきあいを見ると、若年層ほど「近所の人と面識・交流はない」、「お隣やお向かいに住んでいる方」を「全く知らない」と回答する傾向が顕著であり、反対に、個人的なメールやチャットなどを「日常的にする」割合が若年層に多かった（p. 22 図 3, 2, 9）。そして、日常的なつきあいが多いほど社会参加をしているという関係が見られたことから（p. 185 表 8, 3, 1, 8）、社会参加の促進には日常的な接点が重要な役割を果たしていることが示唆される。

地域の開放性についてみると、ほかの地域から人が来ること、定住することは、6 割

前後がよいことだ、喜ばしいと回答しており、否定的な回答は数%もなかった。これが外国人であっても、「どちらともいえない」が約半数になるものの、肯定的な回答は3割を超えていた（p.31 図 3,4,1④）。これらの結果をまとめれば、札幌市民は地域のあり方について比較的開放的な傾向をもっていると言えそうである。

社会参加は、札幌のまちの印象（p.270～p.280）や心理的幸福感（p.192～p.207）のほとんどの項目にわたって関連が見られた。このことからも、社会参加の促進が重要な意味を持つことが確認された。社会参加は信頼や互酬性の規範など社会関係資本とも関連していたことから（p.159 表8,3,1,1、 p.167 表8,3,1,3、p.173 表8,3,1,5）、内閣府などで取り上げられてきたことが札幌市にもあてはまることが確認された。この関係は、「ほとんどの人は信頼できる」「この社会でうまくやっていくためには他人と助け合わなければならない」といった、一般的な事項のみならず、市役所・区役所、学校や病院、ボランティア・NPO など、様々な主体を頼れると思えるかどうかについても同様に見られた（p.163 表8,3,1,2、 p.170 表8,3,1,4、 p.178 表8,3,1,6）。これらの主体が頼りになることが社会参加を促し、社会参加を促すことがこれらの主体をより頼れるものへとなっていく、という双方向に好循環を生み出すと考えられる。

以上をまとめると、個別に見れば、信頼や相互依存への肯定的な傾向や、公的機関への信頼性の高さ、また地域の開放性の高さ、お祭りなどの社会参加の高さなどから、札幌市及び札幌市民には、まちづくりや地域課題の解決に関し、潜在的な可能性が十分あると思われ、その一部は住みやすさの印象や地域への愛着などに反映されていると考えられる。一方で、少子化対策や女性支援、また、少数とはいえ孤立化・孤独化への対策といった課題も見えてきた。既存の地域や様々な主体の取り組みをさらに結びつけ、つなぎ、それぞれの主体がよりいっそう信頼されるような取り組みを積み重ねていくことを通じて、社会参加を促進し、これらを通じて、公助や共助が届かない部分を減らしていく取り組みの重要性が示唆される。